

(19)日本国特許庁(JP)

(12)特許公報(B2)

(11)特許番号
特許第7262840号
(P7262840)

(45)発行日 令和5年4月24日(2023.4.24)

(24)登録日 令和5年4月14日(2023.4.14)

(51)国際特許分類

F I

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

A 6 3 F 7/02 3 3 4

請求項の数 1 (全62頁)

(21)出願番号	特願2021-211959(P2021-211959)	(73)特許権者	000161806
(22)出願日	令和3年12月27日(2021.12.27)		京楽産業 . 株式会社
(62)分割の表示	特願2018-173708(P2018-173708)		愛知県名古屋市中区錦三丁目 2 4 番 4 号
)の分割	(74)代理人	100181250
原出願日	平成30年9月18日(2018.9.18)		弁理士 田中 信介
(65)公開番号	特開2022-34048(P2022-34048A)	(72)発明者	新美 年弘
(43)公開日	令和4年3月2日(2022.3.2)		愛知県名古屋市中区錦三丁目 2 4 番 4 号
審査請求日	令和4年1月25日(2022.1.25)		京楽産業 . 株式会社内
		(72)発明者	立山 征秀
			愛知県名古屋市中区錦三丁目 2 4 番 4 号
			京楽産業 . 株式会社内
		(72)発明者	片岡 航
			愛知県名古屋市中区錦三丁目 2 4 番 4 号
			京楽産業 . 株式会社内
		(72)発明者	樺 公太

最終頁に続く

(54)【発明の名称】 遊技機

(57)【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技を制御するための複数の電子部品が装着された基板と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段と、
前記基板を収納し光透過性を有する収納部と、
前記収納部に設けられ、光透過性を有する素材で形成された第 1 識別情報部と、
前記基板に装着され、遊技に係る所定の値情報を表示する所定の情報表示手段と、
を有する制御手段と、
前記第 1 識別情報部に設けられ前記制御手段に関する情報を表示するための第 1 情報表示部及び第 2 情報表示部と、
前記収納部における前記第 1 識別情報部とは異なる位置に貼付される第 2 識別情報部と、
前記第 2 識別情報部に設けられ前記制御手段に関する情報を表示するための第 3 情報表示部と、を備え、
前記第 2 情報表示部は、
複数の有色領域と、前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間の部分であって、前記収納部に収納されている前記基板を視認可能な視認可能領域と、を有し、
前記制御手段は、
前記基板における前記複数の電子部品の一部の電子部品が前記視認可能領域を介して視認可能に装着され、且つ、前記所定の情報表示手段が前記視認可能領域を介さずと

も視認可能に装着されており、

前記基板の前記憶手段が装着される側の面に設けられた識別表示と関連する第 1 表示と第 2 表示を前記制御手段のうち異なる所定箇所に表示するとともに、前記基板の前記憶手段が装着される側の面から前記第 1 表示と前記第 2 表示が表示されるまでの距離がそれぞれ異なり、

前記収納部の厚み方向に対して垂直をなす方向に延伸させた仮想面から前記第 3 情報表示部までの距離と、前記仮想面から前記第 1 情報表示部までの距離と、が異なるように設けられたことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

10

【0001】

本発明は、制御基板を収納する基板ケースを有する遊技機に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、遊技機の制御基板を収納する基板ケースは、ケース部材を 2 つ組み合わせて構成されている。制御基板は、これらケース部材の制御基板収納部を組み合わせて形成される収納空間内に収納される（例えば、特許文献 1 参照）。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

20

【文献】特開 2010 - 167124 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

しかしながら、従来の遊技機では、例えば、制御基板又は基板ケース等に対する不正行為が行われる可能性が残っており、当該不正行為の結果、遊技機本来の遊技性能が担保されないことで遊技者に正常な遊技を提供することが困難な虞があった。

【0005】

本発明の目的は、不正を早期に発見可能とし、遊技者に対して正常な遊技を提供することである。

30

【課題を解決するための手段】

【0006】

本発明は、上述の課題の少なくとも一部を解決するためになされたものであり、以下の適用例として実現することが可能である。なお、本欄における括弧内の参照符号や補足説明等は、本発明の理解を助けるために、後述する実施形態との対応関係を示したものであって、本発明を何ら限定するものではない。

【0007】

上記課題を解決するため、本発明の遊技機（1）によれば、遊技を制御するための複数の電子部品が装着された基板（1705）と、前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段（502）と、前記基板を収納し光透過性を有する収納部（1700）と、前記収納部に設けられ、光透過性を有する素材で形成された第 1 識別情報部（1710）と、前記基板に装着され、遊技に係る所定の値情報を表示する所定の情報表示手段（1750）と、を有する制御手段と、前記第 1 識別情報部（1710）に設けられ前記制御手段に関する情報を表示するための第 1 情報表示部（1712、1713）及び第 2 情報表示部（1570）と、前記収納部における前記第 1 識別情報部とは異なる位置に貼付される第 2 識別情報部（1730）と、前記第 2 識別情報部に設けられ前記制御手段に関する情報を表示するための第 3 情報表示部（1732）と、を備え、前記第 2 情報表示部（1570）は、複数の有色領域（1711、1575）と、前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間の部分であって、前記収納部に収納されている前記基板を視認可能な視認可能領域（1574）と、を有

40

50

し、前記制御手段は、前記基板における前記複数の電子部品のうちの一部の電子部品（ 7 9 8 ）が前記視認可能領域を介して視認可能に装着され、且つ、前記所定の情報表示手段が前記視認可能領域を介さずとも視認可能に装着されており、前記基板の前記記憶手段が装着される側の面に設けられた識別表示と関連する第 1 表示と第 2 表示を前記制御手段のうち異なる所定箇所に表示するとともに、前記基板の前記記憶手段が装着される側の面から前記第 1 表示と前記第 2 表示が表示されるまでの距離がそれぞれ異なり、前記収納部の厚み方向に対して垂直をなす方向に延伸させた仮想面から前記第 3 情報表示部（ 1 7 3 2 ）までの距離と、前記仮想面から前記第 1 情報表示部（ 1 7 1 2、 1 7 1 3 ）までの距離とが異なるように設けられたことを特徴とする。

【 0 0 0 8 】

なお、特許請求の範囲を含む本明細書内で下記の言葉を使用する場合、次の意味を含むものとする。

「設ける」とは、装着する、実装する、搭載する、取付ける、貼付する、添付する、付与する、付する等の意味を含む広い概念である。

「光透過性」とは、「光透過性を有する」のように、光を透過する性質の意味で使用される場合と、「所定の光透過性を有する」のように光透過率、あるいは、光透過度の意味で使用される場合がある。

例えば、「シール部の光透過性」という場合、シール部の有色領域でなく所定の文字も付されていない部分の光透過性のことをいう。

「有色領域」とは、文字以外の線や図形であって、所定の面積を有し、光透過性を有する対象物の光透過性を低下させた領域をいう。

例えば、光透過性を有するシール部について、「シール部は電子部品を視認可能」という場合、シール部を通して視認可能という意味であり、透視可能と同義である。

【発明の効果】

【 0 0 0 9 】

本発明では、不正を早期に発見可能とし、遊技者に対して正常な遊技を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 0 】

【図 1】外枠 1 0、遊技盤ユニット 1 2、及び内枠 1 4 が開いた状態の遊技機 1 の斜視図である。

【図 2】遊技盤ユニット 1 2 の背面図である。

【図 3】遊技盤ユニット 1 2 の分解斜視図である。

【図 4】組立体 2 の（ a ）斜視図、（ b ）背面図、（ c ）右側面図である。

【図 5】組立体 2 の分解斜視図である。

【図 6】台座 2 0 に基板ケース 3 を組み付ける様子を示した左側面図である。

【図 7】基板ケース 3 の（ a ）斜視図、（ b ）背面図、（ c ）右側面図である。

【図 8】基板ケース 3 の分解斜視図である。

【図 9】外ケース 4 5 と内ケース 4 0 を組み合わせた封止体 4 の（ a ）背面図、（ b ）正面図である。

【図 1 0】変形例に係る基板ケース 1 0 0 3 の外ケース 4 5 における、図 7 の A - A 線に相当する位置の矢視方向断面図である。

【図 1 1】変形例に係る基板ケース 1 1 0 3 の外ケース 4 5 における、図 7 の A - A 線に相当する位置の矢視方向断面図である。

【図 1 2】変形例に係る基板ケース 1 2 0 3 の外ケース 4 5 における、図 7 の A - A 線に相当する位置の矢視方向断面図である。

【図 1 3】変形例に係る基板ケース 1 3 0 3 の背面図である。

【図 1 4】基板ケース 1 3 0 3 の外ケース 4 5 における図 1 3 の B - B 線矢視方向断面図である。

【図 1 5】変形例に係る基板ケース 1 5 5 1 の背面図である。

10

20

30

40

50

【図 16】シール部 1561 が ROM 502 の装着箇所と重なる角度から見た、シール部 1561 及び ROM 502 を示す図である。

【図 17 - 1】第 2 実施形態に係る制御基板 1705 が収納された基板ケース 1700 の背面図である。

【図 17 - 2】(a) は、シール部 1710 の構成を説明する概略図であり、(b) は、デットマーク部 1720 の構成を説明する概略図である。

【図 17 - 3】(a) は、開封禁止シール部 1730 の構成を説明する概略図であり、(b) は、開封禁止シール部 1730 が基板ケース 1700 に貼付された状態を説明する概略図である。

【図 17 - 4】情報表示器 1750 の表示の構成を説明する概略図である。

10

【図 17 - 5】遊技機 1 の性能表示に関して情報表示器 1750 に表示される内容および表示形態を説明する表である。

【図 17 - 6】遊技機 1 の設定表示に関して情報表示器 1750 に表示される内容および表示形態を説明する表である。

【図 17 - 7】(a) は、変形例に係る基板ケース 1790 の識別表示部 1791 の断面図であり、(b) は、変形例に係る基板ケース 1795 の識別表示部 1796 の断面図である。

【図 18 - 1】第 3 実施形態に係る制御基板 501 が収納された基板ケース 1803 の背面図である。

【図 18 - 2】シール部 1560 及びシール部 1561 を介して斜め上方から電子部品 595 を見た状態を示す図である。

20

【図 18 - 3】透明ソケット 1801 の (a) 平面図、(b) 側面図である。

【図 18 - 4】基板ケース 1805 ~ 1808 における図 18 - 1 の C - C 線に相当する位置の矢視方向断面図 (a) ~ (d) である。

【図 18 - 5】基板ケース 1809、1810 における、図 18 - 1 の C - C 線に相当する位置の矢視方向断面図 (a)、(b) である。

【図 18 - 6】特殊な位置表示部 541 を示す説明図である。

【図 18 - 7】シール部 1560 の光透過性を低下させる一方法の説明図である。

【図 18 - 8】賞球基板 1811 を収納したケース部 1813 の模式的な背面図である。

【図 18 - 9】演出基板 1821 を収納したケース部 1823 の模式的な背面図である。

30

【図 19】組立体 2 の分解斜視図であり、制御基板 501 に第 1 領域 1900 a および第 2 領域 1900 b が設けられている。

【発明を実施するための形態】

【0011】

[第 1 実施形態の説明]

以下に本発明の実施形態の一例である第 1 実施形態について、図 1 ~ 図 16 を参照して説明する。まず、図 1 ~ 図 9 を参照し、遊技機 1 (パチンコ機) について説明する。

【0012】

以下の説明において、図 1 に示す遊技盤ユニット 12 の一方側であって、遊技場内に設置された島の内側に向かう方向を、遊技機 1 の後方向とする。また、遊技盤ユニット 12 の他方側であって遊技者に向かう方向を、遊技機 1 の前方向とする。また、図 2 に示す遊技盤ユニット 12 の背面図における紙面右方向、左方向、上方向、下方向を、夫々、遊技機 1 の右方向、左方向、上方向、下方向とする。

40

【0013】

図 1 に示すように、本実施形態の遊技機 1 は、外枠 10 と、遊技盤ユニット 12 と、内枠 14 とを備えている。外枠 10 は、遊技場内に設置された島に直接取り付けられる。外枠 10 は上下方向が左右方向より長い略長形状に形成されている。遊技盤ユニット 12 と内枠 14 は、外枠 10 の一方の縦辺の近傍で外枠 10 に対して回動可能に支持されている。

【0014】

50

図 1 ~ 図 3 に示すように、遊技盤ユニット 1 2 は、主に、ベース枠体 1 2 1 と、遊技盤 1 2 2 と、画像表示装置 1 2 3 と、図示しないランプ中継基板と、背面カバー 1 2 4 とを備えている。

【 0 0 1 5 】

遊技盤ユニット 1 2 は、ベース枠体 1 2 1 が外枠 1 0 に対して回動可能に取り付けられることによって、外枠 1 0 に回動可能に取り付けられている。遊技盤ユニット 1 2 は、ベース枠体 1 2 1 に、遊技盤 1 2 2、画像表示装置 1 2 3、ランプ中継基板、背面カバー 1 2 4 などが組み付けられることによって構成されている。

【 0 0 1 6 】

具体的には、ベース枠体 1 2 1 の前側に、遊技盤 1 2 2 が取り付けられ、ベース枠体 1 2 1 の後側に、画像表示装置 1 2 3、ランプ中継基板、背面カバー 1 2 4 などが組み付けられている。

【 0 0 1 7 】

ベース枠体 1 2 1 及び遊技盤 1 2 2 には、画像表示装置 1 2 3 を後側に取り付けたとき、画像表示装置 1 2 3 が備える図示しない液晶画面が、前側から見えるようにするため、図示しない開口部が形成されている。

【 0 0 1 8 】

遊技盤 1 2 2 には、遊技球が流下する遊技領域が形成されている。遊技盤 1 2 2 は、遊技領域が表面側を向くようにベース枠体 1 2 1 に取り付けられる。

【 0 0 1 9 】

図 2 及び図 3 に示すように、画像表示装置 1 2 3 は、ベース枠体 1 2 1 の後側に取り付けられる。画像表示装置 1 2 3 は、ベース枠体 1 2 1 の開口部を塞ぐように配置される。また、ランプ中継基板は、ベース枠体 1 2 1 の後側に取り付けられる。背面カバー 1 2 4 は、画像表示装置 1 2 3 やランプ中継基板を含む画像表示ユニットの背面の一部を覆っている。

【 0 0 2 0 】

遊技盤ユニット 1 2 の後側には、後述する組立体 2 が組み付けられる。組立体 2 は、画像表示ユニットが背面カバー 1 2 4 で覆われる部分の下方で、ベース枠体 1 2 1 に対し組み付けられる。

【 0 0 2 1 】

図 1 に示すように、内枠 1 4 には、ガラス板を嵌め込む嵌込空間 1 4 1 が形成されている。このため、遊技機 1 を組み立てると、嵌込空間 1 4 1 に嵌め込まれたガラス板を介して、遊技盤ユニット 1 2 の遊技盤上に設定された遊技領域を前側から見るができる。また、内枠 1 4 の前側には、操作ハンドル 1 4 2 や電飾ランプ 1 4 3 等が設けられている。

【 0 0 2 2 】

組立体 2 について説明する。図 3 ~ 図 5 に示すように、組立体 2 は、台座 2 0 と、基板ケース 3 と、保護カバー 2 3 とを備えている。台座 2 0 は、遊技盤ユニット 1 2 (図 3 参照) の後側に基板ケース 3 を取り付けるために用いられる部品である。図 5 に示すように、台座 2 0 は、左右方向に沿った 2 辺が上下方向に沿った 2 辺より長尺な略長形状に形成されており、下辺の左右両端近傍に一对の軸部 2 1 を備え、上辺の左右方向中央に板状フック 2 2 を備えている。軸部 2 1 は、軸方向が左右方向に一致するものである。

【 0 0 2 3 】

基板ケース 3 には、各軸部 2 1 に係合させる一对のフック部 4 9 が設けられている。一对のフック部 4 9 は、後述する外ケース 4 5 の下辺に設けられている。フック部 4 9 は、前側に向かって凸な U 字状に形成されている。

【 0 0 2 4 】

図 6 に示すように、基板ケース 3 を台座 2 0 に取り付けるときは、フック部 4 9 が背面側に向かって凸となる状態に、基板ケース 3 を配置する。するとフック部 4 9 が軸部 2 1 に係合可能な状態となるので、基板ケース 3 を台座 2 0 に近づけて、各フック部 4 9 を各軸部 2 1 に係合させる。

10

20

30

40

50

【 0 0 2 5 】

そして、フック部 4 9 が軸部 2 1 に係合したら、基板ケース 3 を、軸部 2 1 を中心に左側面視反時計回り（図 6 中の符号ハの矢印の方向）に回転させ、基板ケース 3 を台座 2 0 に重ね合わせる。図 4 に示すように、このとき、台座 2 0 の上辺に備えられている板状フック 2 2 が基板ケース 3 の上辺に設けられた窪み 3 a に引っ掛かる。そのため、基板ケース 3 は、フック部 4 9 と軸部 2 1 との係合と、板状フック 2 2 と基板ケース 3 との係合とにより、台座 2 0 に固定される。

【 0 0 2 6 】

図 4 及び図 5 に示すように、その後、保護カバー 2 3 を基板ケース 3 に取り付ける。保護カバー 2 3 は、フック部 4 9 を含む基板ケース 3 の下部部分を覆う。このようにして組立

10

【 0 0 2 7 】

制御基板 5 0 1 及び基板ケース 3 について説明する。図 5 に示すように、遊技を制御する制御基板 5 0 1 は、基板ケース 3 内に収納される。制御基板 5 0 1 には、ROM 5 0 2 が装着されている。また、制御基板 5 0 1 には、ROM 5 0 2 とは異なる複数の電子部品 5 9 5 が実装されている。複数の電子部品 5 9 5 は、IC、抵抗、コネクタ、コンデンサ、及びコイル等の種々の電子部品を含む。また、図 7 (b) に示すように、制御基板 5 0 1 には、複数のコネクタ 7 7 1 , 7 7 2 , 7 7 3 , 7 7 4 , 7 7 5 , 7 7 6 が実装されている。なお、複数のコネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 は、図 7 (b) に記載しており、その他の図においては図示を省略している場合がある。

20

【 0 0 2 8 】

ROM 5 0 2 は、遊技の制御に使用される記憶内容（データ）を格納している。また、ROM 5 0 2 は、遊技の結果に影響を与える記憶内容（データ）を格納している。複数のコネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 は、制御基板 5 0 1 の下部において、左から右側に向けて順に並んでいる。複数のコネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 は、基板ケース 3 の外ケース 4 5 の下部に設けられた 6 個の開口部 7 7 9 の内側に配置されている。

【 0 0 2 9 】

複数のコネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 のうち、複数のコネクタ 7 7 4 , 7 7 5 を、検出信号コネクタ 7 7 4 , 7 7 5 という。検出信号コネクタ 7 7 4 , 7 7 5 には、遊技球が入賞したことを検出する一般入賞口検出スイッチ、第 1 始動口検出スイッチ、第 2 始動口検出スイッチ、大入賞口検出スイッチのうちの少なくとも一部からの信号が入力される。本実施形態では、検出信号コネクタ 7 7 4 , 7 7 5 には、遊技球が入賞したことを検出する一般入賞口検出スイッチ、第 1 始動口検出スイッチ、第 2 始動口検出スイッチ、大入賞口検出スイッチ 1 の全ての信号が入力されるとする。検出信号コネクタ 7 7 4 , 7 7 5 は、他のコネクタ 7 7 1 , 7 7 2 , 7 7 3 , 7 7 6 とは異なる色である。本実施形態では、検出信号コネクタ 7 7 4 , 7 7 5 は、蛍光色であり、その他のコネクタ 7 7 1 , 7 7 2 , 7 7 3 , 7 7 6 は、蛍光色とは異なる色である。

30

【 0 0 3 0 】

ROM 5 0 2 は、上下左右に延びる板状の本体部 5 8 0 と複数の第一信号ピン 5 8 2 とを備えている。第一信号ピン 5 8 2 は、ROM 5 0 2 と制御基板 5 0 1 との間の信号を伝達する信号ピンである。第一信号ピン 5 8 2 は、基板ケース 3 を介して視認可能に配置されている。詳細には、第一信号ピン 5 8 2 は、ROM 5 0 2 の本体部 5 8 0 の上方及び下方に延び、制御基板 5 0 1 と電気的に接続されている。このため、第一信号ピン 5 8 2 は、基板ケース 3 を介して前方から視認可能である。

40

【 0 0 3 1 】

複数の電子部品 5 9 5 の夫々に設けられた信号ピンを第二信号ピン 5 8 3 （図 5 参照）という。第二信号ピン 5 8 3 は、複数の電子部品 5 9 5 の夫々と、制御基板 5 0 1 との間の信号を伝達する。なお、信号は、デジタル信号に限らず、アナログ信号も含む。基板ケース 3 を介して視認可能に配置されている。詳細には、第二信号ピン 5 8 3 は、各電子部品から上方、下方、左方、右方、又は前方に延び、制御基板 5 0 1 と電気的に接続されて

50

いる。このため、第二信号ピン 5 8 3 は、基板ケース 3 を介して視認可能である。

【 0 0 3 2 】

図 5 に示すように、基板ケース 3 は、制御基板 5 0 1 及び R O M 5 0 2 を視認可能で且つ接触困難に収納する箱形のケースである。また、基板ケース 3 は、制御基板 5 0 1 に実装された複数のコネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 (図 7 (b) 参照) を視認可能に制御基板 5 0 1 を内包する。基板ケース 3 は、例えば、透明なプラスチック等の光透過性を有する部材で形成されている。

【 0 0 3 3 】

基板ケース 3 は、制御基板 5 0 1 を内包する複数の部材 5 1 1、及び封印シール 7 を切断する切断部材 6 を備えている。複数の部材 5 1 1 は、内ケース 4 0、外ケース 4 5、及びキャップ 8 を含む。内ケース 4 0 は、外ケース 4 5 と組み合わせられることで、制御基板 5 0 1 を内包する内包部 5 8 1 を形成する。外ケース 4 5 は、基板ケース 3 において、R O M 5 0 2 側である後側に設けられている。内ケース 4 0 は、基板ケース 3 において、R O M 5 0 2 側とは反対側である前側に設けられている。尚、図 4 (c) においては、透明な基板ケース 3 に内包された制御基板 5 0 1 に設けられた電気部品のうち、R O M 5 0 2 のみを図示しており、他の電気部品は図示を省略している (図 9 (a) 等も同様) 。

10

【 0 0 3 4 】

図 8 に示すように、各ケース 4 0、4 5 は、制御基板 5 0 1 (図 5 参照) を収納する制御基板収納部 4 1、4 6 と、後述する封止基礎部 5 (図 9 参照) を構成する封止部 5 1、5 6 とを備えている。制御基板収納部 4 1、4 6 は、略長方形状に形成された板部 4 2、4 7 と、これら板部 4 2、4 7 の周囲縁部から突設され、各板部 4 2、4 7 の一方側の面を囲うフランジ部 4 3、4 8 とを有する形状に形成されている。

20

【 0 0 3 5 】

また、図 5 に示すように、内ケース 4 0 の板部 4 2 の左部には、制御基板 5 0 1 側である後方に向かって延びる円筒部 5 6 5 が設けられている。円筒部 5 6 5 には、前後方向に延びる孔部 5 6 6 が形成されている。孔部 5 6 6 の内側には、ねじ山が形成されている。制御基板 5 0 1 において、円筒部 5 6 5 に対向する位置には、孔部 5 6 7 が設けられている。

【 0 0 3 6 】

制御基板 5 0 1 は、内ケース 4 0 に固定される。より詳細には、内ケース 4 0 の円筒部 5 6 5 の後方に、制御基板 5 0 1 の孔部 5 6 7 が配置される。ビス 7 6 9 (図 7 参照) の軸部が、制御基板 5 0 1 の後側から、孔部 5 6 7 を介して、円筒部 5 6 5 の孔部 5 6 6 に挿入される。円筒部 5 6 5 の孔部 5 6 7 に形成されたねじ山に、ビス 7 6 9 (図 7 (b) 参照) の軸部に設けられたねじ山が、組み合わせられる。これによって、ビス 7 6 9 の頭部と円筒部 5 6 5 の後面との間に制御基板 5 0 1 が挟まれ、制御基板 5 0 1 が内ケース 4 0 に固定された状態となる。すなわち、制御基板 5 0 1 は、内ケース 4 0 側にビス止めされる。

30

【 0 0 3 7 】

図 8 に示すように、制御基板収納部 4 1 のフランジ部 4 3 のうち、板部 4 2 の長尺な 2 辺に沿って板部 4 2 から突設されている部分 (以下「雄部」という) には、L 字状に形成された引掛溝 4 3 0 がそれぞれ 3 つずつ形成されている。

40

【 0 0 3 8 】

一方、制御基板収納部 4 6 のフランジ部 4 8 のうち、板部 4 7 の長尺な 2 辺に沿って板部 4 7 から突設されている部分は (以下「雌部」という)、二重壁状に形成されており、二重壁を形成する壁と壁との間に、制御基板収納部 4 1 の雄部を挿入可能な挿入溝部 4 8 0 が設けられている。また、各挿入溝部 4 8 0 には、引掛片 4 8 1 が形成されている。

【 0 0 3 9 】

制御基板 5 0 1 がビス 7 6 9 によってビス止めされた内ケース 4 0 と、外ケース 4 5 とが組み合わせられる場合、フランジ部 4 3 の雄部がフランジ部 4 8 の雌部に挿入される。そして、制御基板収納部 4 1、4 6 が、左右方向に沿った図 8 中の矢印 の方向に互いに

50

スライドされる。すると、雄部に設けられた引掛溝 4 3 0 が引掛片 4 8 1 に係合するので、内ケース 4 0 と外ケース 4 5 とは、矢印 とは逆方向に互いに移動しない限り、外れないように組み合わされる。

【 0 0 4 0 】

このように組み合わされると、制御基板収納部 4 1 , 4 6 は、内部に外部から遮蔽された箱形の内包部 5 8 1 を形成する。内包部 5 8 1 には、制御基板 5 0 1 (図 5 参照) が収納された状態となる。このため、制御基板 5 0 1 及び R O M 5 0 2 等が不正に交換等される可能性を抑制できる。

【 0 0 4 1 】

制御基板 5 0 1 は、制御基板収納部 4 1 , 4 6 が組み合わされる前に、制御基板収納部 4 6 の内側に取り付けられる。このとき制御基板 5 0 1 上に実装されている I C などが、制御基板収納部 4 6 の板部 4 7 に対向するように取り付けられる。これは、板部 4 7 も透明なプラスチックで形成されているので、制御基板 5 0 1 が基板ケース 3 内に収納されても、制御基板 5 0 1 上に実装された R O M 5 0 2 等の電子部品が不正に交換されていないか、板部 4 7 を介して外部から確認できるようにするためである。図 2 に示すように、本実施形態では、基板ケース 3 を備える組立体 2 を遊技盤ユニット 1 2 に取り付けると、遊技機 1 の背面側から外ケース 4 5 を通して、基板ケース 3 内の制御基板 5 0 1 に実装された電子部品を視認することができる。

10

【 0 0 4 2 】

図 8 に示すように、各ケース 4 0 , 4 5 の右端部には、封止部 5 1 , 5 6 が設けられている。図 9 に示すように、ケース 4 0 , 4 5 には、封止部 5 1 , 5 6 の上方に、第一ネジ止片 9 1、第二ネジ止片 9 6 が設けられている。

20

【 0 0 4 3 】

制御基板収納部 4 1 , 4 6 をスライドさせて組み合わせると、これらを組み合わせた封止体 4 の長手方向の端部に封止部 5 1 , 5 6 によって封止基礎部 5 が形成される。

【 0 0 4 4 】

図 7 に示すように、封止基礎部 5 にかぶせて封止体 4 にキャップ 8 を取り付けると、封止体 4 の長手方向の端部には、第一ネジ止片 9 1、第二ネジ止片 9 6 に加えて、キャップ 8 が備える第三ネジ止片 9 8 が重なり、ネジ止め用のネジ止部 9 を構成する。

【 0 0 4 5 】

図 8 に示すように、封止部 5 1 , 5 6 は、制御基板収納部 4 1 , 4 6 の右端部から右方に突設されている。封止部 5 1 , 5 6 は、左右方向に沿った高さが同じ高さであり、上下方向の幅が同じ幅に形成されている。

30

【 0 0 4 6 】

各封止部 5 1 , 5 6 には、左右方向に沿って長尺な溝部 5 1 2 , 5 6 2 が形成されている。封止部 5 6 には、左右方向に沿って平行な 2 つの溝部 5 6 2 が、所定間隔離して形成され、封止部 5 1 には、左右方向に沿って、1 つの溝部 5 1 2 が形成されている。

【 0 0 4 7 】

図 9 に示すように、上記のようにケース 4 0 , 4 5 が組み合わされると、封止部 5 1 , 5 6 は、組み合わされた制御基板収納部 4 1 , 4 6 の右部に、封止基礎部 5 を形成する。

40

【 0 0 4 8 】

封止基礎部 5 においては、封止部 5 1 , 5 6 が一定間隔を開けて平行に配置され、封止部 5 1 , 5 6 が互いに対向する面の間に挿抜空間 5 a (図 9 参照) が形成される。

【 0 0 4 9 】

図 8 に示すように、封印シール 7 は、基板ケース 3 を封印する手段として用いられるものであり、認証資格を有した組織等によって発行された真正品であることを証明するものである。

【 0 0 5 0 】

封印シール 7 は、切断性を考慮し、紙などの切断し易い材料の一方の面に接着面が設けられたものであり、複数の切目が形成されている。図示しないが、封印シール 7 には、例

50

えば、ホログラム及びＱＲコード（登録商標）等が印刷されている。また、封印シール７には、「開封禁止」の文字も印刷されている。

【００５１】

切断部材６は、基礎部６０と、一对の摘部６１と、切断部６４とを有する形状に形成されている。切断部材６の基礎となる基礎部６０は、略長方形形状に形成されている。基礎部６０の長尺な２辺のうち、一方には、切断部６４が形成されている。切断部６４は、基礎部６０の先端が刃状に形成された部位である。摘部６１は、基礎部６０の長手方向両端に設けられ、全体に「く」の字に折り曲げられた形状に形成されている。摘部６１の左端部を、遊端部６１ａという。

【００５２】

キャップ８は、封止基礎部５にかぶせて封止基礎部５全体を覆うことができる大きさに形成されており、封止基礎部５に対して着脱可能に形成されている。

【００５３】

キャップ８は、封止基礎部５を覆う碗状に形成された箱部８０と、箱部８０の長手方向の一端側に形成された第三ネジ止片９８とを備えている。箱部８０の内側面には、キャップ８を封止基礎部５に取り付けたときに、挿抜空間５ａに挿入された切断部材６の摘部６１の遊端部６１ａが引っ掛かる位置に、突起８２が設けられている。また、箱部８０の内側面には、溝部８６が形成されている。

【００５４】

切断部材６は、封止基礎部５の挿抜空間５ａ（図９参照）に挿入される。その後、封印シール７が貼り付けられる。さらに、キャップ８を封止基礎部５にかぶせると、溝部８６が、挿抜空間５ａに挿入された切断部材６の一部に嵌る。また、突起８２が切断部材６の摘部６１の遊端部６１ａと係合する。

【００５５】

図７に示すように、上述したように、キャップ８を封止基礎部５にかぶせると、第三ネジ止片９８が、内ケース４０の第一ネジ止片９１と、外ケース４５の第二ネジ止片９６とが組み合わされたものに重なり、ネジ止め用のネジ止部９を構成する。ネジ止部９にカシメ部材３０を打ち込まれると、内ケース４０、外ケース４５、キャップ８が互いに固定される。

【００５６】

基板ケース３の封印を解くときは、カシメ部材３０が取り外されるとともに、キャップ８が封止基礎部５から取り外される。基板ケース３の封印が不正に解かれる時も同様である。

【００５７】

切断部材６とキャップ８とは一体化している。このため、キャップ８を封止基礎部５から取り外されると、同時に切断部材６も封止基礎部５から取り外される。すると、切断部６４等により、封印シール７には回復不能な傷が付けられる。

【００５８】

識別表示５２０について説明する。図５に示すように、識別表示５２０は、制御基板５０１、ＲＯＭ５０２、内ケース４０、外ケース４５、及びキャップ８に付されている。識別表示５２０は、遊技機１に関する情報が含まれる表示である。以下の説明においては、制御基板５０１に設けられた識別表示５２０を、識別表示５２１といい、ＲＯＭ５０２に設けられた識別表示５２０を、識別表示５２２という。外ケース４５に設けられた識別表示５２０を、識別表示５２３といい、内ケース４０に設けられた識別表示５２０を、識別表示５２４という。キャップ８に設けられた識別表示５２０を、識別表示５２５という。

【００５９】

図５に示すように、識別表示５２１は、制御基板５０１の背面の上部に、シルク印刷によって表示されている。識別表示５２１は、特定の情報を表示するための情報識別部である。識別表示５２２は、ＲＯＭ５０２に、刻印によって添付されている。識別表示５２２は、特定の情報を表示するための情報識別部である。基板ケース３に付された識別表示５

10

20

30

40

50

2 3、5 2 4、5 2 5 は、特定の情報を表示するための情報識別部である。識別表示 5 2 4 は、内ケース 4 0 の前面の右上部に、内ケース 4 0 を製造する金型による刻印によって形成されている（図 9 参照）。識別表示 5 2 5 は、キャップ 8 の背面に、キャップ 8 を製造する金型による刻印によって形成されている。識別表示 5 2 3 の表示態様及び情報識別部との関係については後述する。

【0060】

識別表示 5 2 1 ~ 5 2 5 は互いに関連しており、少なくとも同じ内容を示唆する識別表示 5 2 9 を含む。本実施形態では、一例として、識別表示 5 2 1 は、「A B C D 0 1」の文字列であり、識別表示 5 2 2 は、「A B C D 0 2」の文字列である。識別表示 5 2 3 は、「A B C D 0 3」の文字列であり、識別表示 5 2 4 は、「A B C D 0 4」の文字列である。識別表示 5 2 5 は、「A B C D 0 5」の文字列である。識別表示 5 2 1 ~ 5 2 5 において同じ内容を示唆する識別表示 5 2 9 は、「A B C D」である。識別表示 5 2 9 は、例えば、メーカー名及び機種名等に対応した表示である。本実施形態では、一例として、「A B C D」のうち、「A B」はメーカー名を表し、「C D」は機種名を表すとする。

【0061】

なお、識別表示 5 2 1 ~ 5 2 5 において、メーカー名を「A B C D」に含まれる「A B」で表示するのではなく、図 1 5 の識別表示 1 5 9 5、1 5 9 6 における「A A 社」のように、メーカー名そのものを表示してもよい。また、機種名を「A B C D」に含まれる「C D」で表示するのではなく、図 1 5 の識別表示 1 5 9 5、1 5 9 6 における「C R あいう」のように、機種名そのものを表示してもよい。また、識別表示 5 2 1 ~ 5 2 5 に、図 1 5 の識別表示 1 5 9 5、1 5 9 6 における型式「G H 1 0 1」のように、型式が表示されてもよい。この場合、識別表示 5 2 1 ~ 5 2 5 において同じ内容を示唆する識別表示は、機種名「C R あいう」、型式「G H 1 0 1」、及びメーカー名「A A 社」となる。

【0062】

以下の説明では、外ケース 4 5 において、基板ケース 3 の内側を形成する面を内面 5 3 2 という。外ケース 4 5 において、基板ケース 3 の外側を形成する面を外面 5 3 1 という。図 4 (c)、図 7 (c)、及び図 9 に示すように、外面 5 3 1 には、位置表示部 5 4 1 が設けられている。位置表示部 5 4 1 は、識別表示 5 2 3 を付与する位置を表示する部位である。位置表示部 5 4 1 は、基板ケース 3 において、R O M 5 0 2 に重なる部位とは異なる部位に設けられている。より詳細には、位置表示部 5 4 1 は、後側から見た場合に矩形状であり、外ケース 4 5 の右下部に設けられている。R O M 5 0 2 は、後側から見た場合に、位置表示部 5 4 1 より左側に設けられている。位置表示部 5 4 1 は、前側に向かって凹んだ凹部である。

【0063】

図 7 (b) に示すように、位置表示部 5 4 1 には、光透過性を有する素材で形成されたシール部 5 4 2 が貼り付けられている。本実施形態ではシール部 5 4 2 は、一例として透明であるとする。シール部 5 4 2 には、印刷部 7 9 7 が印刷されている。本実施形態では、一例として、印刷部 7 9 7 は、識別表示 5 2 3 である。シール部 5 4 2 に、識別表示 5 2 3 が印刷されていることによって、位置表示部 5 4 1 に識別表示 5 2 3 が付された状態となる。シール部 5 4 2 は、基板ケース 3 において複数の電子部品 5 9 5 の少なくとも一部を跨いで配置されている。言い換えると、シール部 5 4 2 は、後方から見た場合に、基板ケース 3 において複数の電子部品 5 9 5 に重なる状態で配置されている。なお、図 7 (b) には、複数の電子部品 5 9 5 のうちの一部を図示しており、実際には、他の電子部品（図 5 参照）も存在する。外ケース 4 5 の識別表示 5 2 3 は、R O M 5 0 2 の装着箇所が視認できる角度を有するように表示されている。本実施形態では、外ケース 4 5 に付された識別表示 5 2 3 により R O M 5 0 2 の装着箇所が視認性を阻害されない。なお、後述する変形例におけるシール部 1 5 6 1（図 1 6 参照）の場合と同様に、基板ケース 3 が所定の角度にある場合に、識別表示 5 2 3 が、R O M 5 0 2 の装着箇所と重なってもよい。

【0064】

このように、印刷等によって識別表示が付されたシール部等が貼り付けられて、対象物

10

20

30

40

50

に識別表示が付された状態となる場合、識別表示を含んだシール部等を情報識別部と呼ぶこととする。本実施形態では識別表示 5 2 3 を含んだシール部 5 4 2 は、情報識別部である。なお、識別表示 5 2 0 は、制御基板 5 0 1、ROM 5 0 2、内ケース 4 0、外ケース 4 5、及びキャップ 8 に付されているが、それぞれに一つ付されているわけではなく、二つ以上付されていることもある。例えば、ROM 5 0 2 に二つの識別表示が付されることもあり、同様に情報識別部が二つある場合もある。

【 0 0 6 5 】

以上のように、本実施形態における遊技機 1 が形成される。本実施形態では、制御基板 5 0 1 を内包する基板ケース 3 が設けられている。図 4、図 5、図 7、及び図 9 に示すように、基板ケース 3 には、識別表示 5 2 3 を付与する位置を表示する部位である位置表示部 5 4 1 が設けられている。このため、位置表示部 5 4 1 が設けられていない場合に比べ、検査者は、基板ケース 3 に付された識別表示 5 2 3 を容易に確認することができる。よって、不正行為の発生を抑制することができる。故に、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

10

【 0 0 6 6 】

また、遊技機 1 の製造時においては、位置表示部 5 4 1 が設けられていない場合に比べて、製造者が、識別表示 5 2 0 を付与する位置を把握し易い。このため、例えばシール部 5 4 2 が使用され、製造者によって識別表示 5 2 3 が付与される場合に、複数の遊技機 1 の間で、異なる位置に識別表示 5 2 3 が付与される可能性を低減できる。このため、位置表示部 5 4 1 が設けられていない場合に比べて、検査者は、基板ケース 3 に付された識別表示 5 2 3 を容易に確認することができる。よって、不正行為の発生を抑制することができる。故に、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

20

【 0 0 6 7 】

また、位置表示部 5 4 1 は、基板ケース 3 の外面 5 3 1 に形成され、識別表示 5 2 0 を位置決めするため凹部である。凹部である位置表示部 5 4 1 が設けられているので、例えば、基板ケース 3 の平面に印刷等によって位置表示部 5 4 1 が表示される場合に比べて、検査者が位置表示部 5 4 1 の位置を、把握し易い。よって、検査者は、基板ケース 3 に付された識別表示 5 2 3 を容易に確認することができる。故に、不正行為の発生を抑制することができる。このため、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

30

【 0 0 6 8 】

また、製造者は、凹部である位置表示部 5 4 1 に沿って識別表示 5 2 0 を位置決めすることができる。このため、製造者は、遊技機 1 を量産する場合において、複数の遊技機 1 間で同じ位置に識別表示 5 2 0 を付することができる。複数の遊技機 1 間で同じ位置に識別表示 5 2 0 が付されるので、検査者は、識別表示 5 2 0 を容易に確認することができる。故に、不正行為の発生を抑制することができる。このため、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 0 6 9 】

また、位置表示部 5 4 1 は、基板ケース 3 において ROM 5 0 2 に重なる部位とは異なる部位に設けられている。この場合、位置表示部 5 4 1 に付される識別表示 5 2 3 と ROM 5 0 2 が重なる可能性を低減できる。このため、検査者が、識別表示 5 2 3 と ROM 5 0 2 との両方を同時に確認することができる。よって、例えば、不正行為によって ROM 5 0 2 が入れ替えられたことを容易に発見することができる。このため、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

40

【 0 0 7 0 】

また、位置表示部 5 4 1 は、基板ケース 3 の外面 5 3 1 に形成され、識別表示 5 2 0 (5 2 3) を位置決めするための凹部である。凹部である位置表示部 5 4 1 が設けられているので、例えば、手が触れた場合などに、基板ケース 3 の平面にシール部 5 4 2 が貼り付けられる場合に比べて、シールの剥がれを防止することができる。シールの一部が剥がれると、検査者はそれが不正によるものか確認しなければならず、検査に時間がかかってし

50

まう。しかし、このような位置表示部 5 4 1 であれば、シール部が保護されるため、検査者は、基板ケース 3 に付された識別表示 5 2 3 を容易に確認することができる。故に、不正行為の発生を抑制することができる。このため、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 0 7 1 】

また、基板ケース 3 に添付された情報識別部である、識別表示 5 2 3 を含んだシール部 5 4 2 と、ROM 5 0 2 に添付された情報識別部である識別表示 5 2 2 とは、少なくとも同じ内容を示唆する識別表示 5 2 9 を含む。また、外ケース 4 5 に付された識別表示 5 2 3 は、ROM 5 0 2 の装着箇所が視認できる角度を有するように表示されている。また、本実施形態では、外ケース 4 5 に付された識別表示 5 2 3 によって ROM 5 0 2 の装着箇所
10
の視認性を阻害されることはない。外ケース 4 5 に付された識別表示 5 2 3 は、ROM 5 0 2 の装着箇所が視認できる角度を有するように表示されているので、検査者は、同じ識別表示 5 2 9 が付された ROM 5 0 2 と、基板ケース 3 とを確認し、不正行為が行われていないことを容易に確認することができる。また、不正行為によって、例えば、ROM 5 0 2 が、他の ROM に入れ替えられた場合でも、ROM 5 0 2 と基板ケース 3 に付された識別表示 5 2 9 が同じであるか否かを判断することで、検査者は、容易に不正行為が行われたことを確認できる。このため、不正行為の発生を抑制することができる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 0 7 2 】

また、基板ケース 3 に添付された情報識別部である、識別表示 5 2 3 を含んだシール部 5 4 2 と、ROM 5 0 2 に添付された情報識別部である識別表示 5 2 2 と、制御基板 5 0 1 に表示された情報識別部である識別表示 5 2 1 とは、少なくとも同じ内容を示唆する識別表示 5 2 9 (本実施形態では「 A B C D 」の文字列) を含む。このため、検査者は、同じ内容を示唆する識別表示 5 2 9 が付された制御基板 5 0 1、ROM 5 0 2、及び基板ケース 3 を確認し、不正行為が行われていないことを容易に確認することができる。また、不正行為によって、制御基板 5 0 1 及び ROM 5 0 2 の少なくとも一方が、他の制御基板 5 0 1 及び ROM 5 0 2 に入れ替えられた場合でも、制御基板 5 0 1、ROM 5 0 2、及び基板ケース 3 に付された識別表示 5 2 9 が同じであるか否かを判断することで、検査者は、容易に不正行為が行われたことを確認できる。このため、不正行為の発生を抑制することができる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。
20
30

【 0 0 7 3 】

基板ケース 3 は、複数のコネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 を視認可能に、制御基板 5 0 1 を内包する。複数のコネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 が視認可能であるので、例えば、制御基板 5 0 1 とは異なる機器がコネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 に接続される不正が行われているか否かを容易に判断できる。よって、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。よって、遊技者の興趣が向上する。

【 0 0 7 4 】

また、検出信号コネクタ 7 7 4 , 7 7 5 が蛍光色であるので、蛍光色でない場合に比べて、検査者が視認しやすくなる。このため、例えば、制御基板 5 0 1 とは異なる機器が検出信号コネクタ 7 7 4 , 7 7 5 に接続される不正が行われているか否かを容易に判断できる。よって、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。
40

【 0 0 7 5 】

また、検出信号コネクタ 7 7 4 , 7 7 5 は、複数設けられている。このため、検出信号コネクタが 1 つである場合に比べて、検出信号コネクタ 7 7 4 , 7 7 5 を検査者が確認しやすい。このため、例えば、制御基板 5 0 1 とは異なる機器が検出信号コネクタ 7 7 4 , 7 7 5 に接続される不正が行われているか否かを容易に判断できる。よって、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。

【 0 0 7 6 】

また、ROM 5 0 2 が備える第一信号ピン 5 8 2 は基板ケース 3 を介して視認可能に配
50

置されている。第一信号ピン 5 8 2 が視認可能であるので、例えば、制御基板 5 0 1 とは異なる機器が第一信号ピン 5 8 2 に対して接続される不正が行われているか否かを容易に判断できる。このため、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。よって、遊技者の興趣が向上する。

【 0 0 7 7 】

また、複数の電子部品 5 9 5 が備える第二信号ピン 5 8 3 は、基板ケース 3 を介して視認可能に配置されている。第二信号ピン 5 8 3 が視認可能であるので、例えば、制御基板 5 0 1 とは異なる機器が第二信号ピン 5 8 3 に対して接続される不正が行われているか否かを容易に判断できる。このため、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。よって、遊技者の興趣が向上する。

10

【 0 0 7 8 】

また、制御基板 5 0 1 は、内ケース 4 0 側に、ビス 7 6 9 (図 7 (b) 参照) によってビス止めされている。このため、ビス止めされていない場合に比べて、制御基板 5 0 1 を不正に交換し難い。よって、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。

【 0 0 7 9 】

また、外ケース 4 5 と内ケース 4 0 とは、互いにスライドされて組み合わせられる。このため、不正行為をしようとする者が、外ケース 4 5 と内ケース 4 0 とを分離するために、単に外ケース 4 5 と内ケース 4 0 とを引き離そうとしても、外ケース 4 5 と内ケース 4 0 が分離され難い。よって、制御基板 5 0 1 を不正に交換し難い。よって、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。

20

【 0 0 8 0 】

尚、本発明は上記実施形態に限定されることなく、種々の変更が可能である。以下の各変形例において、上記実施形態の構成に対応する構成は、同じ符号で示し、詳細な説明は省略する。

【 0 0 8 1 】

位置表示部 5 4 1 が凹部であったが、これに限定されない。例えば、位置表示部 5 4 1 が凸部であってもよい。図 1 0 は、基板ケース 3 の変形例に係る基板ケース 1 0 0 3 の外ケース 4 5 において、図 7 に示す A - A 線の位置における矢方向断面を示している。図 1 0 に示すように、基板ケース 1 0 0 3 の位置表示部 5 4 1 は、外ケース 4 5 の外面 5 3 1 に形成された凸部であり、後側に突出している。位置表示部 5 4 1 には、シール部 5 4 2 によって識別表示 5 2 3 が付されている。

30

【 0 0 8 2 】

また、位置表示部 5 4 1 は、外面 5 3 1 に設けられていたが、これに限定されない。例えば、位置表示部 5 4 1 が、内面 5 3 2 に設けられてもよい。図 1 1 は、基板ケース 3 の変形例に係る基板ケース 1 1 0 3 の外ケース 4 5 において、図 7 に示す A - A 線の位置における矢方向断面を示している。図 1 1 に示すように、基板ケース 1 1 0 3 の位置表示部 5 4 1 は、基板ケース 1 1 0 3 の内面 5 3 2 に形成された凹部であり、後側に凹んでいる。位置表示部 5 4 1 には、シール部 5 4 2 によって識別表示 5 2 3 が付されている。尚、識別表示 5 2 3 は、シール部 5 4 2 の後側に印刷されている。このため、検査者は、基板ケース 1 1 0 3 の後側から、透明な外ケース 4 5 を介して、識別表示 5 2 3 を確認することができる。

40

【 0 0 8 3 】

図 1 2 は、基板ケース 3 の変形例に係る基板ケース 1 2 0 3 の外ケース 4 5 において、図 7 に示す A - A 線の位置における矢方向断面を示している。図 1 2 に示すように、基板ケース 1 2 0 3 の位置表示部 5 4 1 は、基板ケース 1 2 0 3 の内面 5 3 2 に形成された凸部であり、前側に突出している。位置表示部 5 4 1 には、シール部 5 4 2 によって識別表示 5 2 3 が付されている。尚、識別表示 5 2 3 は、シール部 5 4 2 の後側に印刷されている。このため、検査者は、基板ケース 1 2 0 3 の後側から、透明な外ケース 4 5 を介して、識別表示 5 2 3 を確認することができる。

50

【 0 0 8 4 】

以上のように、位置表示部 5 4 1 は、基板ケース 3 の内面 5 3 2 又は外面 5 3 1 に形成され、識別表示 5 2 0 を位置決めするための凸部又は凹部である。凸部又は凹部である位置表示部 5 4 1 が設けられているので、例えば、基板ケース 3 の平面に印刷等によって位置表示部 5 4 1 が表示される場合に比べて、検査者が識別表示 5 2 0 の位置を、把握しやすい。よって、検査者は、基板ケース 3 に付された識別表示 5 2 0 を容易に確認することができる。故に、不正行為の発生を抑制することができる。よって、遊技者が安心して遊技することができる、遊技者の興趣が向上する。

【 0 0 8 5 】

また、製造者は、凸部又は凹部である位置表示部 5 4 1 に沿って識別表示 5 2 0 を位置決めすることができる。このため、製造者は、遊技機 1 を量産する場合において、複数の遊技機 1 間で同じ位置に識別表示 5 2 0 を付することができる。複数の遊技機 1 間で同じ位置に識別表示 5 2 0 が付されるので、検査者は、識別表示 5 2 0 を容易に確認することができる。故に、不正行為の発生を抑制することができる。このため、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

10

【 0 0 8 6 】

また、制御基板 5 0 1 を内包する複数の部材 5 1 1 は、外ケース 4 5、内ケース 4 0、及びキャップ 8 のうち、一部を含まなくてもよい。また、複数の部材 5 1 1 は、外ケース 4 5、内ケース 4 0、及びキャップ 8 とは異なる部材をさらに含んでもよい。

【 0 0 8 7 】

また、制御基板 5 0 1、ROM 5 0 2、及び複数の部材 5 1 1 に識別表示 5 2 0 が付されていたが、これに限定されない。例えば、制御基板 5 0 1 と複数の部材 5 1 1 とのうち、少なくとも 2 つに、関連した識別表示 5 2 0 が付されてもよい。例えば、複数の部材 5 1 1 に含まれるキャップ 8 に識別表示 5 2 5 が付されなくてもよい。また、複数の部材 5 1 1 に含まれる内ケース 4 0 に識別表示 5 2 4 が付されなくてもよい。また、複数の部材 5 1 1 に含まれる外ケース 4 5 に識別表示 5 2 3 が付されなくてもよい。検査者は、制御基板 5 0 1 と複数の部材 5 1 1 とのうち、少なくとも 2 つに付された識別表示 5 2 0 を確認し、不正行為が行われか否かを容易に確認することができる。例えば、不正行為によって、制御基板 5 0 1 が、他の制御基板に入れ替えられた場合でも、制御基板 5 0 1 と複数の部材 5 1 1 とのうち、少なくとも 2 つに付された識別表示 5 2 0 が関連しているか否かを判断することで、検査者は、容易に不正行為が行われたことを確認できる。このため、不正行為の発生を抑制することができる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

20

30

【 0 0 8 8 】

また、識別表示 5 2 0 は、制御基板 5 0 1、外ケース 4 5、及び内ケース 4 0 のうち、少なくとも 2 つに付されてもよい。この場合、検査者は、制御基板 5 0 1、外ケース 4 5、及び内ケース 4 0 のうち、少なくとも 2 つに付された識別表示 5 2 0 を確認し、不正行為が行われか否かを容易に確認することができる。例えば、不正行為によって、制御基板 5 0 1 が他の制御基板に入れ替えられた場合でも、制御基板 5 0 1、外ケース 4 5、及び内ケース 4 0 のうちのうち、少なくとも 2 つに付された識別表示 5 2 0 が関連しているか否かを判断することで、検査者は、容易に不正行為が行われたことを確認できる。このため、不正行為の発生を抑制することができる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

40

【 0 0 8 9 】

また、識別表示 5 2 0 は、少なくとも外ケース 4 5 と ROM 5 0 2 とに付されてもよい。この場合、検査者は、少なくとも外ケース 4 5 と ROM 5 0 2 に付された識別表示 5 2 0 を確認し、不正行為が行われか否かを容易に確認することができる。例えば、不正行為によって、ROM 5 0 2 が他の ROM に入れ替えられた場合でも、少なくとも外ケース 4 5 と ROM 5 0 2 に付された識別表示 5 2 0 が関連しているか否かを判断することで、検査者は、容易に不正行為が行われたことを確認できる。このため、不正行為の発生を抑制

50

することができる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 0 9 0 】

また、識別表示 5 2 0 は、互いに関連していればよい。例えば、識別表示 5 2 0 は、全て同じ識別表示（例えば、全て「A B C D 0 1」等）でもよい。また、識別表示 5 2 0 が夫々異なる表示でもよく、同じ識別表示 5 2 9 が含まれなくてもよい。検査者が確認できる態様であれば、識別表示 5 2 0 の記載内容は限定されない。また、識別表示 5 2 0 は文字列でなくてもよい。例えば、識別表示 5 2 0 は、種々のマークであってもよい。また、識別表示 5 2 0 が付される態様は限定されない。例えば、識別表示 5 2 1 だけでなく、識別表示 5 2 1 ~ 5 2 5 が全てシール部に印刷されて付与されてもよい。また、該シール部は透明でなくてもよい。また、識別表示 5 2 3 ~ 5 2 5 が全て基板ケース 3 を製造する金型によって刻印されてもよい。

10

【 0 0 9 1 】

また、識別表示 5 2 0 は、基板ケース 3 の素材の内部に形成されていてもよい。以下、図 1 3 及び図 1 4 を参照し、該変形例について説明する。図 1 3 及び図 1 4 に示す基板ケース 1 3 0 3 は、基板ケース 3 の変形例である。基板ケース 1 3 0 3 において、識別表示 5 2 3 が表示された部位を識別表示部 1 3 9 0 という。また、識別表示部 1 3 9 0 より外側の部位を、外側部位 1 3 9 1 という。図 1 4 に示すように、識別表示部 1 3 9 0 は、外側部位 1 3 9 1 より後側に突出している。このため、識別表示部 1 3 9 0 の厚み L 1 は、外側部位 1 3 9 1 の厚み L 2 よりも大きい。

20

【 0 0 9 2 】

識別表示 5 2 3 は、識別表示部 1 3 9 0 を形成する部材（本実施形態では、外ケース 4 5 の素材）の内部に形成されている。識別表示 5 2 3 は、識別表示部 1 3 9 0 において厚み方向（前後方向）の複数（本実施形態では 4 つ）の階層 1 3 8 1 , 1 3 8 2 , 1 3 8 3 , 1 3 8 4 に分割されて設けられている。

【 0 0 9 3 】

識別表示 5 2 3 の「A」の文字 1 3 7 1 は、階層 1 3 8 1 に形成されている。「B」の文字 1 3 7 2 は、階層 1 3 8 2 に形成されている。「C」の文字 1 3 7 3 は、階層 1 3 8 3 に形成されている。「D」の文字 1 3 7 4 は、階層 1 3 8 4 に形成されている。「0」の文字 1 3 7 5 は、階層 1 3 8 2 に形成されている。「3」の文字 1 3 7 6 は、階層 1 3 8 3 に形成されている。

30

【 0 0 9 4 】

尚、識別表示 5 2 3 を、識別表示部 1 3 9 0 を形成する部材の内部に形成する方法は限定されない。例えば、3 D レーザ彫刻によって、識別表示 5 2 3 が形成されてもよい。3 D レーザ彫刻とは、レーザを集光させ、基板ケース 3 の素材の内部に、例えば 1 0 0 ミクロンの微細なクラックを、例えば 0 . 0 8 mm ~ 0 . 0 1 6 mm の間隔で形成する技術である。該クラックを複数形成することで、基板ケース 3 の内部に識別表示 5 2 3 が形成される。

【 0 0 9 5 】

本実施形態では、識別表示 5 2 3 は、識別表示部 1 3 9 0 を形成する部材の内部に形成されている。このため、例えば、識別表示 5 2 3 の全体が基板ケース 3 の外面 5 3 1 又は内面 5 3 2 に形成されている場合に比べて、識別表示 5 2 3 が除去され難い。よって、不正行為の発生が抑制できる。故に、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。また、不正によって識別表示 5 2 3 が除去された場合には、基板ケース 1 3 0 3 に傷が形成される。このため、検査者が容易に不正行為を発見できる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

40

【 0 0 9 6 】

また、識別表示 5 2 3 は、識別表示部 1 3 9 0 において厚み方向の複数の階層 1 3 8 1 ~ 1 3 8 4 に分割されて設けられている。このため、一層のみに識別表示 5 2 3 が形成されている場合に比べて、識別表示 5 2 3 が除去され難い。よって、不正行為の発生を抑制

50

することができる。故に、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 0 9 7 】

また、基板ケース 1 3 0 3 において、識別表示部 1 3 9 0 の厚み L 1 は、外側部位 1 3 9 1 の厚み L 2 より大きい。この場合、L 1 が L 2 以下の場合に比べて、不正者が識別表示 5 2 0 を除去しようとした場合に、基板ケース 3 をより深く削る必要がある。このため、基板ケース 1 3 0 3 に傷が生じやすい。このため、検査者が容易に不正行為を発見できる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 0 9 8 】

尚、識別表示 5 2 3 が、識別表示部 1 3 9 0 において厚み方向の複数の階層 1 3 8 1 ~ 1 3 8 4 に分割されていなくてもよい。例えば、一層のみに識別表示 5 2 3 が形成されてもよい。また、識別表示部 1 3 9 0 の厚み L 1 は、外側部位 1 3 9 1 の厚み L 2 以下でもよい。また、識別表示 5 2 3 について説明したが、識別表示 5 2 4 , 5 2 5 等、基板ケース 1 3 0 3 に設けられる識別表示 5 2 0 についても同様に、基板ケース 1 3 0 3 の内部に形成されてもよい。

【 0 0 9 9 】

上記実施形態において、基板ケース 1 3 0 3 は、本発明の「ケース部」の一例である。

【 0 1 0 0 】

また、基板ケース 3 には、シール部 5 4 2 等以外にも種々のシールが添付されてもよい。また、シール部 5 4 2 等の種々のシールに設けられる印刷部（例えば、印刷部 7 9 7 ）に表示される内容は限定されない。例えば、図 1 5 に示す変形例に係る基板ケース 1 5 5 1 には、シール部 5 4 2 に加え、シール部 1 5 6 0 及びシール部 1 5 6 1 が貼り付けられている。なお、図 1 5 において、上記実施形態と同様の構成の部材は、同じ符号で示し、詳細な説明は省略する。

【 0 1 0 1 】

シール部 1 5 6 0 は、基板ケース 1 5 5 1 の外ケース 4 5 の左右方向中央部の上部に貼り付けられている。シール部 1 5 6 1 は、基板ケース 3 の外ケース 4 5 の左上部に貼り付けられている。シール部 1 5 6 0 , 1 5 6 1 は、光透過性を有する素材で形成されている。シール部 1 5 6 0 , 1 5 6 1 は、夫々、複数の電子部品 5 9 5（図 5 参照）を跨いで配置されている。なお、図 1 5 においては、シール部 1 5 6 0 , 1 5 6 1 の前側に位置する複数の電子部品 5 9 5（図 5 参照）等、種々の電子部品の図示は省略している。

【 0 1 0 2 】

シール部 1 5 6 0 には、印刷部 1 5 7 1 が印刷されている。印刷部 1 5 7 1 は、複数の領域 1 5 7 5 を備えている。印刷部 1 5 7 1 は、有色であり、本実施形態では、一例として白色の下地を有する。複数の領域 1 5 7 5 は、コード部 1 5 7 2、情報表示部 1 5 7 3、及び記載領域 1 5 7 0 を含む。シール部 1 5 6 0 は、印刷部 1 5 7 1、コード部 1 5 7 2、情報表示部 1 5 7 3、及び記載領域 1 5 7 0 が、ROM 5 0 2 と重ならない位置となるように、設けられている。

【 0 1 0 3 】

コード部 1 5 7 2 は、シール部 1 5 6 0 の左上部に設けられている。コード部 1 5 7 2 は、所定の情報を含む。コード部 1 5 7 2 は、他の機器によって情報が読み取られる部位であり、例えば、矩形状の有色（本実施形態では白色）の領域に、QRコード（登録商標）、バーコード等が黒色で印刷されている。本実施形態では、一例として、コード部 1 5 7 2 は、QRコード（登録商標）を含む。

【 0 1 0 4 】

コード部 1 5 7 2 は、例えば、遊技機 1 とは異なる機器（以下、「他機器」という。）に記憶された、制御基板 5 0 1 の納入先を示す情報と紐付けられている。例えば、情報携帯端末等に備えられたカメラによってコード部 1 5 7 2 に含まれる情報である URL（Uniform Resource Locator）が読み取られる。情報携帯端末は、該 URL を使用し、ネットワークを介して他機器にアクセスする。他機器にアクセスした結

10

20

30

40

50

果、情報携帯端末に表示される情報には、制御基板 5 0 1 の納入先（例えば、遊技機 1 が納入された店舗名）、及び、遊技機 1 が廃棄されたか否か等の情報が含まれている。これによって検査者は、制御基板 5 0 1 の納入先を示す情報、及び遊技機 1 が廃棄されたか否か等の情報を容易に確認することができる。

【 0 1 0 5 】

情報表示部 1 5 7 3 には、種々の情報が含まれる。情報表示部 1 5 7 3 は、例えば、識別表示 5 2 9 と同様の情報が含まれてもよい。本実施形態では、一例として、情報表示部 1 5 7 3 には、矩形状の有色（本実施形態では白色）の領域に、「E F 0 0 1」の文字列が印刷されている。該文字列は、一例として、制御基板 5 0 1 の管理番号である。該管理番号によって、検査者は、メーカーが保有している管理番号に紐づいた情報から、遊技機 1 の納入先、遊技機 1 が廃棄されたか否か等の情報を調べることができる。なお、情報表示部 1 5 7 3 の文字列は、メーカー名、機種名、型式等に対応する情報を含んでもよい。また、情報表示部 1 5 7 3 が有する矩形状の領域と、コード部 1 5 7 2 が有する矩形状の流域とは、左右方向において繋がっている。

10

【 0 1 0 6 】

記載領域 1 5 7 0 は、一例として、上下方向に 3 行、左右方向に 2 列の計 6 個設けられている。記載領域 1 5 7 0 は、矩形状の有色（本実施形態では白色）の下地によって印刷されている。左上の記載領域 1 5 7 0 の上方には、「開封者」と黒色で印刷されている。右上の記載領域 1 5 7 0 の上方には、「開封年月日」と黒色で印刷されている。左上の記載領域 1 5 7 0 の左方には、丸 1 と印刷されている。左側の上下方向中央の記載領域 1 5 7 0 の左方には、丸 2 と印刷されている。左下の記載領域 1 5 7 0 の左方には、丸 3 と印刷されている。

20

【 0 1 0 7 】

例えば、検査者は、基板ケース 3 を開封した場合に、検査者の名前を左側の記載領域 1 5 7 0 に記載し、基板ケース 3 を開封した年月日を、右側の記載領域 1 5 7 0 に記載する。なお、検査者は、記載領域 1 5 7 0 に、制御基板 5 0 1 に不正が行われたか否かを確認した年月日等を記載してもよい。

【 0 1 0 8 】

シール部 1 5 6 0 は、電子部品 7 9 8 を覗くための覗き部 1 5 7 4 を備えている。覗き部 1 5 7 4 は、複数の領域 1 5 7 5 同士の間設けられている。覗き部 1 5 7 4 は、光透過性を有する。本実施形態では、覗き部 1 5 7 4 は、シール部 1 5 6 0 における印刷されていない部分によって形成されており、透明である。本実施形態においては、上下方向 3 行の記載領域 1 5 7 0 の間に、左右方向に延びる覗き部 1 5 7 4 が設けられている。また、左右に並んだコード部 1 5 7 2 及び情報表示部 1 5 7 3 と、上側の 2 つ記載領域 1 5 7 0 との間に、左右方向に延びる覗き部 1 5 7 4 が設けられている。左右方向 2 列の記載領域 1 5 7 0 の間に、上下方向に延びる覗き部 1 5 7 4 が設けられている。

30

【 0 1 0 9 】

また、シール部 1 5 6 1 は、特定の情報を表示するための情報識別部である。例えば、特定の情報としてとして、機種名、型式、メーカー名のうちの少なくとも 1 つが印刷される。本実施形態では、一例として、機種名「C R あいう」、型式「G H 1 0 1」、及びメーカー名「A A 社」が印刷されている。本実施形態では、これらの情報が印刷された部位を印刷部 1 5 6 3 ともいう。また、シール部 1 5 6 1 に表示される特定の情報を識別表示 1 5 9 5 という。本実施形態では、識別表示 1 5 9 5 は、機種名「C R あいう」、型式「G H 1 0 1」、及びメーカー名「A A 社」である。

40

【 0 1 1 0 】

また、ROM 5 0 2 には、シール部 1 5 6 2 が貼り付けられている。シール部 1 5 6 2 は、ROM 5 0 2 の識別表示 5 2 2 「A B C D 0 2」の左側に貼り付けられている。シール部 1 5 6 2 は、特定の情報を表示するための情報識別部である。例えば、特定の情報としてとして、機種名、型式、メーカー名のうちの少なくとも 1 つが印刷される。本実施形態では、一例として、シール部 1 5 6 2 には、所定の情報として、機種名「C R あいう」、

50

型式「GH101」、及びメーカー名「AA社」が印刷されている。また、シール部1562に表示される特定の情報を識別表示1596という。本実施形態では、識別表示1596は、機種名「CRあいう」、型式「GH101」、及びメーカー名「AA社」である。なお、ROM502の識別表示522も情報識別部であり、すなわち、本実施形態では、ROM502には、情報識別部が二つ設けられている。

【0111】

また、シール部1561とシール部1562は、少なくとも同じ内容を示唆する識別表示1595, 1596を含んで表示される。本実施形態においては、識別表示1595, 1596における種名「CRあいう」、型式「GH101」、及びメーカー名「AA社」が全て同じであるが、一部が同じであればよい。

10

【0112】

なお、識別表示1595, 1596は、基板ケース3とROM502に付されているが、他の部材に付されてもよい。例えば、制御基板501に、識別表示1595, 1596と同じ識別表示を含んで表示されてもよい。

【0113】

以上のように、本変形例に係る基板ケース1551及び制御基板501等が形成される。本実施形態では、シール部542, 1560, 1561が複数の電子部品595(図5参照)の少なくとも一部を跨いで配置されるので、例えば、シール部542, 1560, 1561と電子部品595との位置関係を確認することで、検査者は、制御基板501に不正が行われたか否かを判断できる。このため、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。よって、遊技者の興趣が向上する。

20

【0114】

また、領域1575が設けられているので、検査者は、領域1575(より詳細には、記載領域1570)に、検査者の名前、及び、基板ケース3を開封した年月日を記載することができる。また、検査者は、制御基板501に不正が行われたか否かを確認した日付等を、領域1575に記載することもできる。また、領域1575の間に覗き部1574が設けられているので、領域1575のみが設けられている場合に比べて、領域1575が目立ちやすい。このため、領域1575に記載された文字等を検査者が確認し易くなる。よって、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。

30

【0115】

また、覗き部1574が設けられているので、検査者は、覗き部1574を介して、電子部品798を確認することができる。よって、覗き部1574が設けられていない場合に比べて、検査者は、電子部品798に対して不正が行われたか否かを容易に確認できる。よって、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。

【0116】

また、コード部1572がROM502と重ならない位置に設けられている。このため、検査者はROM502を容易に確認することができる。このため、検査者は、ROM502を確認し、不正が行われているか否かを容易に判断できる。よって、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。

40

【0117】

また、コード部1572は、遊技機1とは異なる機器に記憶された、制御基板501の納入先を示す情報と紐付けられている。これによって、検査者は、コード部1572を使用して、制御基板501の納入先を示す情報を容易に確認することができる。このため、検査者は、納入先の情報を確認し、納入先の異なる制御基板501が装着される不正が行われたか否かを容易に判断できる。よって、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。

【0118】

また、ROM502にシール部1562が貼り付けられ、シール部1562に所定の情

50

報が表示されている。このため、検査者は、シール部 1 5 6 2 を確認することで、ROM 5 0 2 が入れ替えられる不正を容易に確認することができる。よって、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。

【 0 1 1 9 】

また、シール部 1 5 6 1 に、機種名、型式、メーカ名のうちの少なくとも 1 つが印刷されているので、検査者は、容易に、機種名、型式、メーカ名のうちの少なくとも 1 つを把握することができる。よって、検査者は、機種名、型式、メーカ名のうちの少なくとも 1 つを確認し、不正が行われているか否かを容易に判断できる。故に、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。

【 0 1 2 0 】

なお、ROM 5 0 2 の形状は限定されない。上記実施形態における ROM 5 0 2 は、図 7 に示すように、上下左右に延びる板状の本体部 5 8 0 を有している。しかし、本体部 5 8 0 が、前後左右に延びてもよい。この場合、第一信号ピンは、前方に延び、制御基板 5 0 1 と電氣的に接続されてもよい。また、本体部 5 8 0 が前後左右に延びる場合、シール部 1 5 9 1 に表示された所定の情報は、本体部 5 8 0 の上面又は下面に表示されてもよい。

【 0 1 2 1 】

また、シール部 5 4 2 , 1 5 6 0 , 1 5 6 1 に表示される各種の情報は、ROM 5 0 2 の装着箇所が視認できる角度を有するように表示されればよい。例えば、図 1 6 は、シール部 1 5 6 1 及び ROM 5 0 2 を、後斜め上方から見た図である。図 1 6 においては、シール部 1 5 6 1 及び ROM 5 0 2 以外の部材の図示は省略している。この場合、シール部 1 5 6 1 に表示される情報が、ROM 5 0 2 の装着箇所に重なっている。すなわち、図 1 6 は、シール部 1 5 6 1 に表示される情報が、ROM 5 0 2 の装着箇所を視認し難くなる角度から見た図である。しかし、図 1 5 に示すように、後側から見た場合には、ROM 5 0 2 の装着箇所を視認できる。すなわち、図 1 5 は、シール部 1 5 6 1 に表示される情報が、ROM 5 0 2 の装着箇所を視認できる角度から見た図である。このように、シール部 1 5 6 1 に表示される情報は、ROM 5 0 2 の装着箇所が視認できる角度を有するように表示される。なお、シール部 1 5 6 1 を例にして説明したが、他のシール部 5 4 2 , 1 5 6 0 に表示される各種情報（例えば、識別表示 5 2 3 の情報）が、ROM 5 0 2 の装着箇所が視認できる角度を有するように表示されればよい。

【 0 1 2 2 】

[第 2 実施形態の説明]

次に、図 1 7 - 1 ~ 図 1 7 - 6 を参照して、本発明の実施形態の一例である第 2 実施形態について説明する。なお、以下に説明する第 2 実施形態において、第 1 実施形態と同じ構成のものは、第 1 実施形態と同じ符号を使用して詳細な説明を省略する。

【 0 1 2 3 】

まず、図 1 7 - 1 ~ 図 1 7 - 4 を参照して、第 2 実施形態に係る基板ケース 1 7 0 0 及び制御基板 1 7 0 5 の構成の概要について説明する。図 1 7 - 1 は、第 2 実施形態に係る制御基板 1 7 0 5 が収納された基板ケース 1 7 0 0 の背面図である。図 1 7 - 2 (a) は、シール部 1 7 1 0 の構成を説明する概略図であり、図 1 7 - 2 (b) は、デットマーク部 1 7 2 0 の構成を説明する概略図である。図 1 7 - 3 (a) は、開封禁止シール部 1 7 3 0 の構成を説明する概略図であり、図 1 7 - 3 (b) は、開封禁止シール部 1 7 3 0 が基板ケース 1 7 0 0 に貼付された状態を説明する概略図である。図 1 7 - 4 は、情報表示器 1 7 5 0 の表示の構成を説明する概略図である。

【 0 1 2 4 】

図 1 7 - 1 に示すように、第 2 実施形態の遊技機 1 においては、制御基板 1 7 0 5 と、制御基板 1 7 0 5 を収納する基板ケース 1 7 0 0 と、を備える。基板ケース 1 7 0 0 は、第 1 実施形態の変形例である基板ケース 1 5 5 1 と略同様の構成であるが、後述するシール部 1 7 1 0、デットマーク部 1 7 2 0、開封禁止シール 1 7 3 0、RAM クリア操作部 1 7 8 5、を備えている。制御基板 1 7 0 5 は、第 1 実施形態の変形例である制御基板 5 0 1 と略同様の構成であるが、後述する情報表示器 1 7 5 0、操作キー部 1 7 8 0、R A

10

20

30

40

50

Mクリアボタン、を備えている。

【0125】

シール部1710は、光透過性を有する素材で形成されており、基板ケース1700の外ケース45の左右方向中央部の上部に貼り付けられている。なお、シール部1710は、夫々、複数の電子部品595（図示を省略）等を跨いで配置されている。デートマーク部1720は、基板ケース1700の外ケース45の左右方向中央部の下部に、外ケース45の正面側において外ケース45から凸形状となるように形成されている。開封禁止シール部1730は、基板ケース1700における左右方向右端部に形成されたシール貼付部1701に貼付されている。なお、シール貼付部1701は、キャップ8によって覆われる部分である。RAMクリア操作部1785は、基板ケース1700の外ケース45の左右方向右部の下部に形成されており、制御基板1705のRAMクリアボタンを操作可能に構成されている。操作キー部1780は、特定の鍵を差込み回転操作が可能な構造のものであり、特定の鍵を差込み口が基板ケース1700の外ケース45から露出していることで、制御基板1705が基板ケース1700に収納された状態で操作可能に設けられている。なお、操作キー部1780は、遊技機1の遊技を制御するメインCPUに対して、操作キー部1780が操作されたか否かの信号が送信可能に接続されている。

10

【0126】

情報表示器1750は、制御基板1705の左右方向右部の上角隅部に設けられており、制御基板501を覆う透明な樹脂からなる基板ケース1700の内部に配置される。また、情報表示器1750は、制御基板501に設けられているメインCPU、メインROM、メインRAMが設けられている位置とは異なる位置であって、基板ケース1700に設けられているRAMクリア操作部1785やシール部1710などによって視認が阻害されない位置に設けられる。また、情報表示器1750の周囲および近傍には、電子部品595等の制御基板1705上に設けられる複数の電子部品のいずれも設けられていない。このような情報表示器1750は、基板ケース1700に収納された制御基板1705上に設けられているにもかかわらず、目立つため、表示される情報の視認が容易となっている。

20

【0127】

ここで、情報表示器1750と図示しないアウト球検出スイッチとについて説明する。アウト球検出スイッチは、遊技領域に発射された全ての遊技球（本実施形態では、「アウト球」と称する。）を検知し、検知結果のデータを主制御基板300へ送信可能に接続ケーブルにて接続されている。情報表示器1750は、アウト球検出スイッチでの検知結果に基づきメインCPUにて算出された数値（後述する計算式による算出値である。）によって、遊技機1の種々の性能を表示するものである。なお、この情報表示器1750において表示される数値が、所定の範囲内であるか否かによって、遊技機1の性能が維持されているか否かを判断可能となる。

30

【0128】

図17-2(a)に示すように、シール部1710は、シール部1560と略同様の構成であり、印刷部1711、コード部1712、情報表示部1713、記載領域1570、および覗き部1574を備えている。また、コード部1712のQRコード（登録商標）を所定の端末機にて読み取ることによって、所定の端末機に表示される情報には、情報表示部1713に記載された文字列が含まれている。つまり、特定の情報を含む所定の情報が、コード部1712のQRコード（登録商標）と情報表示部1713の文字列といったように、異なる態様にて表示されていることとなる。ここで、コード部1712と情報表示部1713の構成が、シール部1560のコード部1572と情報表示部1573の構成と異なる。具体的には、コード部1712の有色領域と情報表示部1713の有色領域とに跨って「E F 0 0 1」の文字列が印刷された構成となっている。このような構成のシール部1710であれば、コード部1712の有色領域と情報表示部1713の有色領域とのうちのいずれかを削り取って不正に情報を変更したりすると、シール部1560に比べて変更した痕跡が明確になり易く、不正な情報の変更を抑止することができる。さら

40

50

に、前述した通り、シール部 1 5 6 0 によって覆われた位置に設けられた電子部品 7 9 8 は覗き部 1 5 7 4 から視認可能となっているが、これは電子部品 7 9 8 の少なくとも一部又は全体が制御基板に対して垂直をなす方向から覗き部 1 5 7 4 を介して視認可能であるだけでなく、制御基板に対して垂直ではなく所定の角度をなす方向から覗き部 1 5 7 4 を介して視認可能であることも意味するものである。具体的には、シール部 1 5 6 0 によって覆われた位置に設けられた電子部品であって、制御基板 1 7 0 5 に対して垂直をなす方向からは有色領域 1 5 7 5 によって視認困難となっているものは、シール部 1 5 6 0 に対して垂直ではなく所定の角度をなす方向から覗き部 1 5 7 4 を介して視認可能となっていることである。

【 0 1 2 9 】

図 1 7 - 2 (b) に示すように、デートマーク部 1 7 2 0 は、基板ケース 1 7 0 0 を製造した年月日を表示する部分であり、日付表示部 1 7 2 1 と年月表示部 1 7 2 6 とから構成されている。日付表示部 1 7 2 1 は、円形状の外縁に 1 ~ 3 1 までの目盛りが形成されており、円中心から延びる矢印によって製造された日付が示される形態となっている。年月表示部 1 7 2 6 は、円形状の外縁に 1 ~ 1 2 までの目盛りが形成されており、円中心から延びる矢印によって製造された月が示されるとともに、円中心に形成された数字によって製造された年が示される形態となっている。つまり、図 1 7 - 2 (b) に示されたデートマーク部 1 7 2 0 においては、「 2 0 1 4 年 1 2 月 1 日 」に基板ケース 1 7 0 0 が製造されたことが示されることとなる。なお、図 1 7 - 2 (b) に示されたデートマーク部 1 7 2 0 は、外ケース 4 5 を遊技機 1 の正面側から視認した場合のものであり、基板ケース 1 7 0 0 を遊技機 1 の背面側から視認した場合には反転して示される（例えば、図 1 7 - 1 を参照。）こととなる。

【 0 1 3 0 】

図 1 7 - 3 (a) に示すように、開封禁止シール部 1 7 3 0 は、所定の文字列が印字される情報表示部 1 7 3 1、QRコード（登録商標）等が印刷されるコード部 1 7 3 2、偽造困難なホログラムが形成されているホログラム表示部 1 7 3 5、を備えている。なお、コード部 1 7 3 2 の QR コード（登録商標）を所定の端末機にて読み取ることによって、所定の端末機に表示される情報には、情報表示部 1 7 3 1 に記載された文字列が含まれていてもよい。つまり、特定の情報を含む所定の情報が、コード部 1 7 3 2 の QR コード（登録商標）と情報表示部 1 7 3 1 の文字列といったように、異なる態様にて表示されていてもよい。

【 0 1 3 1 】

図 1 7 - 3 (b) に示すように、また、開封禁止シール部 1 7 3 0 がシール貼付部 1 7 0 1 に貼付されると、基板ケース 1 7 0 0 の内ケース 4 0 と外ケース 4 5 に跨って貼付されるように、内ケース 4 0 と外ケース 4 5 とが組合さったときの境界部 1 7 3 8 の一部を覆うように貼付されることとなる。つまり、基板ケース 1 7 0 0 に収納されている制御基板 1 7 0 5 に接触するため、内ケース 4 0 と外ケース 4 5 とを分解すると、開封禁止シール部 1 7 3 0 が破断されることとなる。つまり、開封禁止シール部 1 7 3 0 は、シール部 1 7 0 5 等といった種々の識別情報が付された識別表示部とは異なり、基板ケース 1 7 0 0 を分解すると形状が変化する識別表示部である。また、開封禁止シール部 1 7 3 0 の情報表示部 1 7 3 1 およびコード部 1 7 3 2 は、シール貼付部 1 7 0 1 における遊技機 1 の背面側に全体が視認可能となるように開封禁止シール部 1 7 3 0 が貼付されている。さらに、開封禁止シール部 1 7 3 0 の情報表示部 1 7 3 1 およびコード部 1 7 3 2 は、基板ケース 1 7 0 0 における基板ケース 1 7 0 0 の厚み方向の天面に対して、基板ケース 1 7 0 0 の厚み方向に一段低くなるような位置に設けられる。つまり、基板ケース 1 7 0 0 におけるシール部 1 7 1 0 と開封禁止シール部 1 7 3 0 とでは、制御基板 1 7 0 5 を制御基板 1 7 0 5 の厚み方向に対して垂直をなす方向に延伸させた仮想面からの距離が異なるように構成されている。

【 0 1 3 2 】

図 1 7 - 4 に示すように、情報表示器 1 7 5 0 は、図示しない制御部と、横一列になる

10

20

30

40

50

ように構成された4つの7セグ表示部1770a～1770dと、各7セグ表示部の右下に形成された4つのドット表示部1775a～1775dから構成されている。また、情報表示器1750は、アウト球検出スイッチ302aによって検知された結果を受信した主制御基板300にて、その検知結果に基づき計測されたデータが出力されるように主制御基板300からのデータ出力を可能に接続されている。さらに、情報表示器1750は、遊技機1の電源がON状態のときには、常時点灯している。そして、情報表示器1750においては、正面から視認した場合に左側に位置する2つの7セグ表示部1770a、1770bおよび2つのドット表示部1775a、1775bを識別表示部1780aとし、右側に位置する2つの7セグ表示部1770c、1770dおよび2つのドット表示部1775c、1775dを比率表示部1780bとする。なお、4つの7セグ表示部1770a～1770dと、4つのドット表示部1775a～1775dとは回路が結線されているものとする。

10

【0133】

[情報表示器1750における表示態様の説明]

次に、図17-5および図17-6を参照して、情報表示器1750における具体的な表示態様について説明する。図17-5は、遊技機1の性能表示に関して情報表示器1750に表示される内容および表示形態を説明する表であり、図17-6は、遊技機1の設定表示に関して情報表示器1750に表示される内容および表示形態を説明する表である。

【0134】

図17-5に示すように、情報表示器1750において遊技機1の性能を表示する場合には、比率表示部1780bで、主制御基板300にて計算された数値が表示される。具体的には、初回電源投入時から所定区間（初回電源投入から総アウト球数が300個となつてから総アウト球数が6000個となる毎）における遊技状態が低確状態のときの遊技球の払出球数と低確状態のとき（例えば、低確状態で時短遊技でないとき）の遊技球のアウト球数との比率が出力され、計算式としては、「（低確状態時の払出球数）÷（低確状態時のアウト球数）×100」であって、小数点以下第一位を四捨五入した値が出力される。なお、出力する数値が100以上である場合は、比率表示部に「99.」が表示される。また、RAMクリアおよび電源再投入をした場合であっても、RAM異常時でない限り、今までの計測が引き継がれるように設定されている。

20

【0135】

識別表示部1780aにおいては、比率表示部1780bにおいて表示されている数値の種類について識別可能な情報が表示される。具体的には、現時点での現区間の計測値を表示している場合には「bL.」と表示され、前区間～前々々区間における計算値を表示している場合には「b1.」～「b3.」と表示される。なお、図17-5における点滅周期は、点灯0.3秒、消灯0.3秒とし、「bL.」～「b3.」の表示切換のタイミングは、各表示において5.0秒表示を繰り返すものとする。

30

【0136】

ここで、本実施形態の遊技機1における計測の流れについて説明する。まず、遊技機1において初回電源投入されて遊技が開始されると、アウト球検出スイッチによって、低確状態のときにアウト球排出口から排出される遊技球の検出が開始される。ここで、アウト球排出口から排出される遊技球は、遊技領域における全てのアウト口からのものであるため、アウト球検出スイッチでの検出結果に基づく遊技球数が総アウト球数となる。そして、総アウト球数が300個となつてからは、低確状態における所定区間毎の払出球計測スイッチ（賞球として払出された遊技球数を検出するスイッチであって、図示しない。）およびアウト球検出スイッチでの検出結果に基づき、メインCPUにて計算された計算値が情報表示器1750において出力される。

40

【0137】

また、遊技機1は、大当たり確率の設定を変更できるようなものであって、設定キー1780およびRAMクリア操作部1785のRAMクリアボタンの操作により大当たり確率の設定を変更可能である。具体的には、遊技機1の電源がONであって、設定キー部1

50

780「ON」でRAMクリアボタン「ON」とすると、RAMクリアボタンの押圧回数に応じて、大当たり確率の設定を変更することができ、変更したい設定としたときに設定キー部1780「OFF」にすると設定を確定することができる。また、遊技機1の電源がONであって、設定キー1780「ON」でRAMクリアボタンを操作しないと、後述するように情報表示器1750に現在の遊技機1の大当たり確率の設定が表示され、設定の確認をすることができる。なお、遊技機1の出荷時、復旧情報の破損時、設定の変更中の電源の入り切り等で復旧エラー状態のときには、上述と同様に電源がONであって設定キー部1780「ON」でRAMクリアボタン「ON」とすると、設定変更が可能であるが、電源がONであって設定キー1780「ON」でRAMクリアボタンを操作しないと、遊技停止の状態となる。

10

【0138】

図17-6に示すように、具体的には、本実施形態の遊技機1では、大当たり確率を第1設定（低確率：300分の1）～第6設定（高確率：250分の1）の6段階に設定可能である。この設定変更および設定確認において、情報表示部1750の右側に位置する7セグ表示部1770dでは、変更しようとする設定値または現在設定されている設定値に応じて、「1」～「6」が点灯される。さらに、設定変更をした場合に、設定変更の終了から5秒間は全ての7セグ表示部1770a～1770dとドット表示部1775a～1775dとが点滅する。そして、5秒間の点滅の後に識別表示部1780a、比率表示部1780bにて前述した遊技機1の性能の表示が開始される。また、設定変更および設定確認において、設定変更中/設定確認中には「設定変更中です。」、「設定確認中です。」といった現在の状態を示す音声と警告サイレンとが出力されるとともにメイン液晶にて「設定変更中/設定確認中」といった表示がされる。なお、このような遊技機においては、大当たり確率の設定の種類によらず、大当たりのときの特定の演出（図17-6では、「第1演出」とする。）の選択率、およびハズレのときの特定の演出の選択率は一定のものとする。

20

【0139】

ここで、図17-6の表中に使用している語句について説明する。「（大当たりのとき/ハズレのとき）第1演出選択率」とは、「大当たり」又は「ハズレ」と判定されたときに実行される演出において、「第1演出」が選択（実行）される確率のことである。この「第1演出選択率」が、上述の通り、第1設定～第6設定の各設定の大当たり確率に依らず一定である。「（大当たりのとき/ハズレのとき）第1演出出現率」とは、第1始動装置又は第2始動装置への入球に基づき実行される演出において、「第1演出」が実行される確率のことである。「大当たり」のときの「第1演出出現率」は、各設定における「大当たり確率」に「第1演出選択率」を乗じることで算出できる数値である。また、「ハズレ」のときの「第1演出出現率」は、各設定における「ハズレ確率」に「第1演出選択率」を乗じることで算出できる数値である。「ハズレ確率」とは、非確変遊技状態の場合に第1始動装置又は第2始動装置への入球に基づく判定において、「ハズレ」と判定される確率のことであり、「1」から「大当たり確率」を減じることで算出できる数値である。

30

「総合第1演出出現率」とは、非確変遊技状態の場合の第1始動装置又は第2始動装置への入球に基づく判定と共に選択（実行）される演出において、「第1演出」が実行される確率のことである。この「総合第1演出出現率」は、各設定における「大当たりのときの第1演出出現率」と「ハズレのときの第1演出出現率」との和となる数値である。また、「第1演出信頼度」とは、非確変遊技状態の場合の第1始動装置又は第2始動装置への入球に基づく判定に伴い「第1演出」が実行されたときに、実行された「第1演出」が「大当たり」との判定と共に実行された「第1演出」であることの確率である。この「第1演出信頼度」は、「第1演出出現率」を「総合第1演出出現率」で割ることで算出できる数値である。

40

【0140】

[第2実施形態の作用効果]

本実施形態のようなシール部1720を有する組立体2を備える遊技機1であれば、シ

50

ール部 1 7 2 0 に覗き部 1 5 7 4 が設けられているので、検査者は、覗き部 1 5 7 4 を介して、基板ケース 1 7 0 0 に収納されている制御基板 1 7 0 5 を視認して、制御基板 1 7 0 5 に対する不正が行われたか否かを確認することができる。したがって、覗き部 1 5 7 4 のようなものが設けられていないような基板ケースを備えた遊技機に比べて、検査者は、制御基板 1 7 0 5 に対して不正が行われたか否かを容易に確認できるため、不正の行われる可能性の低減に繋げることができる。また、このようなシール部 1 7 2 0 においては、複数の有色領域である記載領域 1 5 7 0 に所定の文字を記載することができるため、光透過性を低下させたような有色領域がなく透明な部分に所定の文字が記載されるようなシールに比べて、検査者が文字による情報の内容を確認し易いものでもある。さらに、このようなシール部においては、透明な覗き部 1 5 7 4 が複数の有色領域である記載領域 1 5 7 0、コード部 1 7 1 2、情報表示部 1 7 1 3 の間に設けられているため、複数の有色領域のみが並べて設けられているようなものに比べて、有色領域が目立つこととなり、記載領域 1 5 7 0、コード部 1 7 1 2、情報表示部 1 7 1 3 に記載された文字等を検査者が確認し易い。

10

【 0 1 4 1 】

また、本実施形態のようなシール部 1 7 2 0 とデートマーク部 1 7 2 0 とを有する組立体 2 を備える遊技機 1 によれば、シール部 1 7 2 0 の記載領域 1 5 7 0 に記載される開封年月日と、デートマーク部 1 7 2 0 に表示された製造年月日と、は、異なる情報であるものの、所定の時系列の関係を有している。具体的には、シール部 1 7 2 0 の記載領域 1 5 7 0 に記載される開封年月日は、デートマーク部 1 7 2 0 に表示された製造年月日に比べて、必ず新しい年月日となっている。したがって、検査者は、シール部 1 7 2 0 の記載領域 1 5 7 0 の開封年月日と、デートマーク部 1 7 2 0 の製造年月日と、の整合性を確認することによって、不正な制御基板の交換といった不正行為を容易に確認することができる。

20

【 0 1 4 2 】

さらに、本実施形態のようなシール部 1 7 2 0 と開封禁止シール部 1 7 3 0 とを有する組立体 2 を備える遊技機 1 によれば、シール部 1 7 2 0 のコード部 1 7 1 2 と情報表示部 1 7 1 3 に表示されている情報は、開封禁止シール部 1 7 3 0 に表示されている情報と紐付けされている。したがって、検査者は、シール部 1 7 2 0 の情報と開封禁止シール部 1 7 3 0 の情報との整合性を確認することで、不正な制御基板の交換といった不正行為を容易に確認することができる。また、開封禁止シール部 1 7 3 0 のコード部 1 7 3 2 は、基板ケース 1 7 0 0 の厚み方向において、制御基板 1 7 0 5 を当該厚み方向に対して垂直をなす方向に延伸させた仮想面からの距離が、当該仮想面からシール部 1 7 2 0 のコード部 1 7 1 2 及び情報表示部 1 7 1 3 までの距離とは異なるように設けられている。したがって、検査者は、開封禁止シール部 1 7 3 0 のコード部 1 7 3 2 とシール部 1 7 2 0 のコード部 1 7 1 2 及び情報表示部 1 7 1 3 とが同じ高さで同一の平面上に設けられているようなものに比べて、開封禁止シール部 1 7 3 0 のコード部 1 7 3 2 とシール部 1 7 2 0 のコード部 1 7 1 2 及び情報表示部 1 7 1 3 との情報を視認し易く、不正な制御基板の交換といった不正行為を容易に確認することができる。

30

【 0 1 4 3 】

そして、本実施形態のような識別表示 5 2 3 における文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とを有する組立体 2 を備える遊技機 1 によれば、文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とは、識別表示部 1 3 9 0 の厚さ方向における異なる階層となるように形成されているため、階層 1 3 8 1 の文字 1 3 7 1 と階層 1 3 8 2 の文字 1 3 7 2 とは、基板ケース 1 7 0 0 の天面からの距離が異なるように形成されている。このような識別表示 5 2 3 は、ケース部 1 7 0 0 を形成する部材の内部に形成されているため、例えば、識別表示 5 2 3 の全体がケース部の外面又は内面に形成されている場合に比べて、除去され難いものである。また、識別表示 5 2 3 は、基板ケース 1 7 0 0 の厚さ方向における天面からの距離が異なる位置、つまり、厚さ方向の複数の階層に分割されて設けられることとなるため、一層のみに形成されている場合に比べて除去され難いものとなっている。このような識別表示 5 2 3 であれば、もし、不正によって除去等された場合には、研磨されたり削られたりすることで基板ケー

40

50

ス 1 7 0 0 に目立つ損傷が形成されるため、検査者による不正行為の発見が容易であるとともに不正行為の発生を抑制できるものであるといえる。さらに、識別表示 5 2 3 における文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とは、平面視において、重複する部分がないとともに離間しているため、組立体 2 に対して遊技機の背面側から視認したときに、文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とを共に俯瞰可能であり、制御基板 1 7 0 5 等に対する不正行為等の有無を容易に確認することもできる。

【 0 1 4 4 】

またさらに、本実施形態のような識別表示 5 2 3 における文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とを有する組立体 2 を備える遊技機 1 によれば、文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とは、識別表示部 1 3 9 0 の厚さ方向における異なる階層となるように形成されているため、階層 1 3 8 1 の文字 1 3 7 1 と階層 1 3 8 2 の文字 1 3 7 2 とは、制御基板 1 7 0 5 の所定の面（例えば、制御基板 1 7 0 5 を厚み方向に対して垂直をなす方向に延伸させた仮想面）からの距離が異なるように形成されている。このような識別表示 5 2 3 は、ケース部 1 7 0 0 を形成する部材の内部に形成されているため、例えば、識別表示 5 2 3 の全体がケース部の外面又は内面に形成されている場合に比べて、除去され難いものである。また、識別表示 5 2 3 は、制御基板 1 7 0 5 の所定の面からの距離が異なる位置、つまり、厚さ方向の複数の階層に分割されて設けられることとなるため、一層のみに形成されている場合に比べて除去され難いものとなっている。このような識別表示 5 2 3 であれば、もし、不正によって除去等された場合には、研磨されたり削られたりすることで基板ケース 1 7 0 0 に目立つ損傷が形成されるため、検査者による不正行為の発見が容易であるとともに不正行為の発生を抑制できるものであるといえる。さらに、識別表示 5 2 3 における文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とは、平面視において、重複する部分がないとともに離間しているため、組立体 2 に対して遊技機の背面側から視認したときに、文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とを共に俯瞰可能であり、制御基板 1 7 0 5 等に対する不正行為等の有無を容易に確認することもできる。

【 0 1 4 5 】

またそして、本実施形態のようなシール部 1 7 2 0 を有する組立体 2 を備える遊技機 1 であれば、コード部 1 7 1 2 の Q R コード（登録商標）と情報表示部 1 7 1 3 の文字列と、いったように互いに紐付けされるとともに同じ特定の情報を含む情報が異なる態様で表示されている。したがって、コード部 1 7 1 2 に対する不正は難しく、情報表示部 1 7 1 3 の情報が不正に改竄されていたとしても、検査者が、コード部 1 7 1 2 との整合性を確認することで、不正行為等の有無を容易に確認することができるとともに、不正行為を抑止することができる。また、シール部 1 7 2 0 においては、コード部 1 7 1 2 及び情報表示部 1 7 1 3 と、記載領域 1 5 7 0 との間に、覗き部 1 5 7 4 が形成されているため、上述と同様に、制御基板 1 7 0 5 に対して不正が行われたか否かを容易に確認できるため、不正の行われる可能性の低減に繋げることができる。

【 0 1 4 6 】

さらにまた、本実施形態のようなシール部 1 7 1 0 と情報表示器 1 7 5 0 とを有する組立体 2 を備える遊技機 1 によれば、例えば、情報表示器 1 7 5 0 等といった一部の電子部品は覗き部 1 5 7 4 を介さずとも視認可能である。したがって、即座且つ容易に視認が必要な一部の電子部品は、視認が容易であるため、不正行為の確認が容易である。また、覗き部 1 5 7 4 を介さずとも視認可能な一部の電子部品は、覗き部 1 5 7 4 を介して視認可能な電子部品に比べて、制御基板 1 7 0 5 上で目立つため、覗き部 1 5 7 4 を介さずとも視認可能な一部の電子部品に対する不正行為を抑止することができる。特に、情報表示器 1 7 5 0 は、遊技機 1 の遊技盤ユニット 1 2 を開放して容易な視認を必要とする部材であるため、上述のような効果を奏することが必要とされる。

【 0 1 4 7 】

[第 2 実施形態のその他の形態]

上述の実施形態においては、詳細な説明を省略したが、シール部 5 4 2 , 1 5 6 1 , 1 5 6 2、識別表示 5 2 1 , 5 2 2 , 5 2 3、コネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 も有する。これらの

10

20

30

40

50

うちシール部 5 4 2 , 1 5 6 1 , 1 5 6 2 および識別表示 5 2 1 , 5 2 2 , 5 2 3 は、識別可能な所定の情報が表示されているため、所謂、識別表示であるとしてもよい。また、識別可能な所定の情報が表示されているものとしては、シール部 1 7 1 0、デートマーク部 1 7 2 0、開封禁止シール部 1 7 3 0、遊技機の性能表示や設定表示を表示する情報表示器 1 7 5 0 も識別表示に含まれるとしてもよい。さらに、図示していないが、制御基板 1 7 0 5 において設けられた種々の電子部品のうち、リード抵抗に表示されたカラーコード、ネットワーク抵抗に表示された識別コード、ＩＣやコンデンサやトランジスタに表示された型番コード等も、識別可能な所定の情報が表示されているため、識別表示であるとしてもよい。そして、上述の実施形態におけるコネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 については、各々で開口部の形状やピン数が異なるため、コネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 の各々の開口部の形状やピン数は識別可能な情報であり、識別表示に含まれるものとしてもよい。なお、図示していないが、コネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 の各々の近傍には、制御基板 1 7 0 5 上にコネクタ番号が表示されており、このコネクタ番号も識別可能な情報であり、識別表示に含まれるものとしてもよい。

10

【 0 1 4 8 】

また、上述の実施形態においては、シール部 1 7 1 0 の覗き部 1 5 7 4 において、覗き部 1 5 7 4 から制御基板 1 7 0 5 の電子部品が視認可能であるものとしたが、当該電子部品が視認可能な領域はこれに限定されず、制御基板 1 7 0 5 の電子部品が基板ケース 1 7 0 5 を介しても視認可能な領域であれば、種々の態様のものであってもよく、同様の効果を奏する。例えば、複数の有色領域で視認困難な領域が設けられ、複数の視認困難な領域の間で当該有色領域に比べて光透過性の高い領域から制御基板を視認可能であれば、当該領域も同様の効果を奏する。また、これらの視認可能な領域は、制御基板の電子部品が視認可能であるだけでなく、制御基板自体、制御基板の配線パターン、電子部品の足等も視認可能であり、同様の効果を奏する。また、これらの視認可能な領域においては、後述する Ｒ Ｏ Ｍ の透明ソケット（コネクタ）も視認でき、Ｒ Ｏ Ｍ だけでなく Ｉ Ｃ、トランジスタ、種々の抵抗等の様々な電子部品に対しても透明ソケット（コネクタ）が設けられている場合には、それらの透明ソケット（コネクタ）を視認できる。このような視認可能な領域が設けられていると、電子部品に対する不正行為を抑止できる、といった同様の効果を奏する。

20

【 0 1 4 9 】

さらに、上述の実施形態においては、識別表示 5 2 3 はシール部 5 4 2 に印字されているものとしたが、図 1 3 及び図 1 4 において説明したように、基板ケース 1 7 0 0 を形成する部材の内部に形成された識別表示 5 2 3 を備えていてもよい。このような識別表示 5 2 3 としては、上述のように文字 1 3 7 1 ~ 1 3 7 6 から構成されていてもよいが、これに限定されず種々の構成のものであってもよい。例えば、複数の識別可能な所定の情報で構成、所謂、複数の識別表示で構成されているものであってもよい。つまり、複数の識別表示が複数の階層に分かれて形成されているものであってもよい。例えば、図 1 7 - 7 に示すような構成のものであってもよい。図 1 7 - 7 は、基板ケースを形成する部材の内部に形成された識別表示の変形例を説明する図であり、（ a ）は、変形例に係る基板ケース 1 7 9 0 の識別表示部 1 7 9 1 の断面図であり、（ b ）は、変形例に係る基板ケース 1 7 9 5 の識別表示部 1 7 9 6 の断面図である。なお、図 1 7 - 7 の識別表示 1 7 9 4 , 1 7 9 9 は、図 1 3 及び図 1 4 の識別表示 5 2 3 と同様に、例えば、識別表示部 1 7 9 1 , 1 7 9 6 の内部において、３Ｄレーザ彫刻によって形成されているものとする。また、識別表示 1 7 9 4 , 1 7 9 9 及び識別表示 5 2 3（図 1 3 及び図 1 4 を参照。）は、基板ケースが金型によって成型されることによって形成されたものであってもよい。

30

40

【 0 1 5 0 】

図 1 7 - 7（ a ）に示すように、変形例に係る基板ケース 1 7 9 0 における識別表示 1 7 9 4 は、「 A 」、「 B 」、「 C 」、「 0 」、「 3 」の 5 つの識別表示で構成されており、識別表示部 1 7 9 1 を形成する部材（外ケースの素材）の内部に形成されている。また、識別表示 1 7 9 4 は、識別表示部 1 7 9 1 において厚み方向の 3 つの階層 1 7 9 3 a ~

50

1793cに分かれて設けられている。識別表示1794において、「A」の識別表示1792bは、階層1793aに形成されており、「B」の識別表示1792cは、階層1793bに形成されており、「C」の識別表示1792aと「0」の識別表示1792dと「3」の識別表示1792eは、階層1793cにて上下方向（図17-1の上下方向）に重ならないように形成されている。そして、このような構成の識別表示部1791を左側（図17-1の左右方向の左から右に向かう方向）から視認した場合に、「A」、「B」、「C03」の各々が異なる階層となるように視認できるとともに、「C」、「0」、「3」が重ならないような構成の識別表示1794を視認できる。

【0151】

図17-7(b)に示すように、変形例に係る基板ケース1795における識別表示1799は、識別表示1794と同様に、「A」、「B」、「C」、「0」、「3」の5つの識別表示で構成されており、識別表示部1796を形成する部材（外ケースの素材）の内部に形成されている。また、識別表示1794は、識別表示部1791において厚み方向の4つの階層1793a～1793dに分けられて設けられている。識別表示1799において、「A」の識別表示1797bは、階層1798aに形成されており、「B」の識別表示1797dと「0」の識別表示1797cは、階層1798bに形成されており、「3」の識別表示1797aは、階層1798cに形成されており、「C」の識別表示1797eは、階層1798dに形成されている。そして、識別表示部1796を遊技機1の背面側から視認した場合に、「A」、「B」、「C」が左右方向（図17-1の左右方向）に重ならないように視認でき、識別表示部1796を左側（図17-1の左右方向の左から右に向かう方向）から視認した場合に、「0」、「3」の各々が異なる階層で重ならないような構成の識別表示1799を視認することができる。

【0152】

このような構成の識別表示1794、1799及び識別表示523（図13及び図14を参照。）によれば、基板ケースの天面から特定の識別表示までの距離が異なったり、基板ケースに収納されている制御基板1705から特定の識別表示までの距離が異なったりするように構成することができる。具体的には、例えば、識別表示1794において、識別表示1792bは、識別表示1792aに比べて、基板ケース1790の天面からの距離が小さいものの、制御基板1705からの距離が大きいものとなるように形成されている。また、識別表示1792cは、基板ケース1790の天面からの距離について、識別表示1792aに比べて小さいものの、識別表示1792bに比べて大きいものとなるように形成されている。一方で、識別表示1792cは、制御基板1705からの距離について、識別表示1792aに比べて大きいものの、識別表示1792bに比べて小さいものとなるように形成されている。

【0153】

また、このような構成の識別表示1794、1799及び識別表示523（図13及び図14を参照。）によれば、識別表示部の厚みを構成する面（図17-1の左右方向の側面を形成する面）から特定の識別表示までの距離も異なるように構成することができる。また、このような構成の識別表示1794、1799及び識別表示523（図13及び図14を参照。）によれば、基板ケースの天面、制御基板1705、および識別表示部の厚みを構成する面のいずれかから特定の識別表示の距離が略同じとなるように構成することもできる。以上のように識別表示部を形成する部材の内部に複数の階層に分かれて形成された識別表示であれば、上述と同様に、各識別表示を除去され難いとともに、削られて除去された場合には除去の痕跡が残るため、不正行為の発生が抑制できる。なお、上記において、制御基板1705から各識別表示までの距離とは、制御基板1705における配線パターンが形成されている面から各識別表示までの距離のことをいうものとする。

【0154】

また、このような構成の識別表示1799によれば、各識別表示に対して視認可能な方向および角度が異なるように構成することができる。具体的には、上述のように、識別表示1799における識別表示1797aと識別表示1797bとでは、異なる方向および

角度から視認可能となるように構成されている。したがって、このように形成された識別表示であれば、検査者が視認容易な方向や角度に対して識別表示を形成することができ、不正行為の抑制に繋げることができる。また、識別表示部の近傍において、識別表示の視認を阻害するような部材がある場合（例えば、識別表示部の厚みよりも厚み大きい部材）には、当該部材によって視認性が阻害されない位置に各識別表示を形成することもできる。一方で、識別表示部の近傍において、識別表示の視認を阻害するような部材を設けないようにしてもよい。

【0155】

さらに、上述の識別表示1794, 1799においては、個々に独立した識別表示1792a~1792e, 1797a~1797eで構成されているものとしたが、複数の識別表示のうちの一部の識別表示で一つの識別表示を構成するようなものであってもよい。具体的には、識別表示1794においては、2つの識別表示1792b, 1792cで識別可能な所定の情報を構成するとともに、3つの識別表示1792a, 1792d, 1792eで識別可能な所定の情報を構成するものとしてもよい。識別表示1799においては、2つの識別表示1797a, 1797cで識別可能な所定の情報を構成するとともに、3つの識別表示1797b, 1797d, 1797eで識別可能な所定の情報を構成する、といったように視認可能な方向や角度に応じて異なる識別表示を構成するものとしてもよい。そして、識別表示1794, 1799においては、図13及び図14で説明した識別表示523と同様に、各々の5つの識別表示で一つの識別可能な所定の情報を構成するものとしてもよい。このように5つの識別表示で一つの識別可能な所定の情報を構成するものとして、具体的には、「製」「造」「番」「号」「N . . .」といった組合せのものがある。より具体的には、例えば、識別表示部1791において、階層1793aに識別表示として「製」、「造」が表示され、階層1793bに識別表示として「番」、「号」が表示され、階層1793cに識別表示として「N . . .」、「1234」が表示される、といったものであってもよい。また、識別表示部1390（図13及び図14を参照。）において、階層1381の識別表示1371の位置に識別表示として「製」が表示され、階層1382の識別表示1372の位置に識別表示として「造」が表示され、階層1383の識別番号1373の位置に識別表示として「番」が表示され、階層1384の識別番号1374の位置に識別表示として「号」が表示され、階層1382の識別表示1375の位置に識別表示として「N . . .」が表示され、階層1383の識別番号1376の位置に識別表示として「1234」が表示される、といったものであってもよい。

【0156】

そして、上述の識別表示1794, 1799及び識別表示523（図13及び図14を参照。）によれば、識別表示を「A」、「B」、「C」、「0」、「3」の5つの識別表示で構成されているものとしたが、これに限定されず、種々の態様の識別表示が表示されているものであってもよい。具体的には、識別表示部1791において、階層1793aに識別表示として「メーカー名称」が表示され、階層1793bに識別表示として「機種名称」が表示され、階層1793cに識別表示として「製造場所」、「製造年月日」、「制御基板の素材名称」が表示されるものであってもよい。また、識別表示部1791におけるその他の具体例としては、階層1793aに識別表示として「QRコード（登録商標）」が表示され、階層1793bに識別表示として「機種名称」が表示され、階層1793cに識別表示として「メーカー名称」が表示される、といったものであってもよい。さらに、識別表示部1791において、階層1793aに識別表示として「製」、「造」が表示され、階層1793bに識別表示として「番」、「号」が表示され、階層1793cに識別表示として「N . . .」、「1234」が表示される、といったものであってもよい。

【0157】

またそして、識別表示部1390（図13及び図14を参照。）において、階層1381に識別表示として「メーカー名称」が表示され、階層1382に識別表示として「機種名称」が表示され、階層1383に識別表示として「製造場所」、「製造年月日」が表示され、階層1384に識別表示として「制御基板の素材名称」が表示される、といったもの

であってもよい。また、識別表示部 1390 におけるその他の具体例としては、階層 1381 に識別表示として「QRコード（登録商標）」が表示され、階層 1382 に識別表示として「機種名称」が表示され、階層 1383 に識別表示として「メーカー名称」が表示され、階層 1384 に識別表示として「制御基板の素材名称」が表示される、といったものであってもよい。さらに、識別表示部 1390 において、階層 1381 に識別表示として「製」、「造」が表示され、階層 1382 に識別表示として「番」、「号」が表示され、階層 1383 に識別表示として「N .」が表示され、階層 1384 に識別表示として「1234」が表示され、各々の識別表示が遊技機 1 の背面側から視認可能なように重ならないように表示される、といったものであってもよい。

【0158】

さらにそして、上述の実施形態では、基板ケースの識別表示部に形成された識別表示について詳細に説明したが、識別可能な所定の情報は制御基板に表示されていてもよい。例えば、制御基板と基板ケースを有する制御手段における基板ケースの厚み方向における異なる位置に種々の識別表示が表示されているものがある。具体的には、基板ケースの天面に最も近い位置に識別表示として「QRコード（登録商標）」が表示され、識別表示としての「QRコード（登録商標）」に比べて制御基板に近い位置に識別表示として「機種名称」が表示され、制御基板に最も近い位置又は制御基板自体に「メーカー名称」が表示されているものがある。

【0159】

[第3実施形態の説明]

次に、図18-1～図18-9を参照して、上述した本発明の第1実施形態の変形例の一つである第3実施形態について説明する。図18-1は第3実施形態に係る制御基板501が収納された基板ケース1803の背面図である。図18-2はシール部1560及びシール部1561を介して斜め上方から電子部品595を見た状態を示す図である。図18-3は透明ソケット1801の(a)平面図、(b)側面図である。図18-4は基板ケース1805～1808における図18-1のC-C線に相当する位置の矢視方向断面図(a)～(d)である。図18-5は基板ケース1809、1810における、図18-1のC-C線に相当する位置の矢視方向断面図(a)、(b)である。図18-6は特殊な位置表示部541を示す説明図である。図18-7はシール部1560の光透過性を低下させる一方法の説明図である。図18-8は賞球基板1811を収納したケース部1813の模式的な背面図である。図18-9は演出基板1821を収納したケース部1823の模式的な背面図である。なお、以下に説明する第3実施形態において、第1実施形態と同じ構成のものは、第1実施形態と同じ符号を使用して詳細な説明を省略する。

【0160】

図18-1に示すように、第3実施形態の遊技機1は、主に制御基板501、制御基板501に搭載されたROM502、制御基板501に実装された複数の電子基板595、これらを収納するケース部1803、ケース部1803に貼り付けられたシール部1560及びシール部1561、ROM502に貼り付けられたシール部1562、ケース部1803に設けられた識別表示部1390で構成される。ケース部1803以外は、既に説明済みのものである。ケース部1803についても、位置表示部541がシール部1560に設けられていること以外は、ケース部1551とほぼ同様の内容である。

【0161】

なお、前述のとおり、情報識別部は、識別表示が付されたシール部のことを指すが、第3実施形態の説明中、識別表示が付されていないシール部が登場することはない。このため、第3実施形態の説明では、シール部を情報識別部と呼ぶこととする。具体的には、シール部1560を第1シール部と呼ぶ場合があり、第1情報識別部と呼ぶ場合がある。シール部1561を第2シール部と呼ぶ場合があり、第2情報識別部と呼ぶ場合がある。シール部1562を第3情報識別部と呼ぶ場合がある。また、シール部全体を一つの情報識別部と捉えるのではなく、複数の情報識別部の集合体と捉えることも可能である。このため、例えばシール部1561にメーカー名、機種名、型番が表示されている場合、3つの情

10

20

30

40

50

報識別部が含まれるとして説明する場合がある。

【 0 1 6 2 】

[R O M 5 0 2 の装着部分]

本実施形態では、図 1 8 - 3 に示すように、R O M 5 0 2 は、透明ソケット（コネクタ）1 8 0 1 を介し、取り外し可能に制御基板 5 0 1 に装着されている。図 1 8 - 3（a）は、透明ソケットに R O M が装着された状態の平面図であり、図 1 8 - 3（b）は、透明ソケットに R O M が装着された状態の側面図である。なお、両図とも制御基板 5 0 1 は、省略してある。透明ソケット 1 8 0 1 は、通常のソケットと機能は同じであるが、高さがありソケットの樹脂部分が透明体で形成されている。すなわち、ソケットの内部においても、R O M 5 0 2 の第一信号ピン 5 8 2 に不正な配線等が接続されていないか、目視できるようにになっている。これにより、いわゆるぶら下がり基板等の不正行為の発生を抑制することができる。さらにいえば、透明ソケット 1 8 0 1 が制御基板 5 0 1 に実装された状態で、透明ソケット 1 8 0 1 のピン 1 8 0 2 a が目視できるようにになっている。これにより、ピン 1 8 0 2 a に不正な配線等が接続されるのを抑止できる。故に、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

10

【 0 1 6 3 】

[位置表示部 5 4 1] 図 1 8 - 1 の C - C 線に相当する位置の矢視方向断面図

本実施形態では、図 1 8 - 4（d）に示すように、位置表示部 5 4 1 は線状の凹部となっている。図 1 8 - 4（d）は、ケース部 1 8 0 3 において、図 1 8 - 1 の C - C 線に相当する位置の矢方向断面を示している。図 1 8 - 4（d）に示すように、ケース部 1 8 0 3 の位置表示部 5 4 1 は、シール部 1 5 6 0 の外縁よりも一回り大きく、ケース部 1 8 0 3 の内面 5 3 2 に形成された線状の凹部であり、後側に向かって凹んだ凹部である。ケース部 1 8 0 3 の外面 5 3 1 には、印刷部 1 5 7 1 が印刷されたシール部 1 5 6 0 が貼り付けられている。

20

【 0 1 6 4 】

また、本実施形態の変形例として、図 1 1 及び図 1 2 に示すように、位置表示部 5 4 1 がケース部 1 1 0 3 , 1 2 0 3 の内面 5 3 2 に形成されており、それを目印としてシール部 1 5 6 0 を外面 5 3 1 に貼り付けるようにしてもよい（図示せず）。また、別の変形例として、図 1 8 - 4（c）に示すように、位置表示部 5 4 1 を線状の凸部としてもよい。図 1 8 - 4（c）は、ケース部 1 8 0 3 の変形であるケース部 1 8 0 7 において、図 1 8 - 1 の C - C 線に相当する位置の矢方向断面を示している。図 1 8 - 4（c）に示すように、ケース部 1 8 0 7 の位置表示部 5 4 1 は、シール部 1 5 6 0 の外縁よりも一回り大きく、ケース部 1 8 0 7 の内面 5 3 2 に形成された線状の凸部であり、前側に突出している。ケース部 1 8 0 7 の外面 5 3 1 には、印刷部 1 5 7 1 が印刷されたシール部 1 5 6 0 が貼り付けられている。すなわち、本段落と前段落に記載された位置表示部 5 4 1 は、内面 5 3 2 に凹、又は / 及び、凸により形成されている。

30

【 0 1 6 5 】

このように、凹、又は / 及び、凸状の位置表示部を内面 5 3 2 に形成し、シール部 1 5 6 0 を外面 5 3 1 に貼り付ける場合、どこにシール部を貼っても位置表示部 5 4 1 がシール部 1 5 6 0 と干渉することが無いので貼付を阻害しない。シールの一部が剥がれると、検査者はそれが不正によるものか確認しなければならず、検査に時間がかかってしまう。しかし、このような位置表示部 5 4 1 であれば、検査者は、シール部 1 5 6 0 に印刷された印刷部 1 5 7 1 を容易に確認することができる。故に、不正行為の発生を抑制することができる。このため、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

40

【 0 1 6 6 】

また、外面 5 3 1 にシール部を貼付し、内面 5 3 2 に位置表示部 5 4 1 を設ける場合、位置表示部 5 4 1 は、外面 5 3 1 に貼付されたシール部 1 5 6 0 の外縁、又は / 及び、シール部 1 5 6 0 の内縁、又は / 及び、シール部 1 5 6 0 の内外を交差するように形成することができる。これについて簡単に説明する。図 1 8 - 6 における、ケース部 1 8 2 0 に設けられた位置表示部 5 4 1 a は、シール部 1 5 6 0 の内縁に形成されたものであり、位

50

置表示部 5 4 1 b の図中左右方向に延びる部分は、シール部 1 5 6 0 の内外を交差するように形成されたものである。位置表示部 5 4 1 の図中上下方向に延びる部分は、シール部 1 5 6 0 の外縁上であるが、これも内外を交差するように形成されたといえる。

【 0 1 6 7 】

また、本実施形態の変形例として、図 1 8 - 2 (a) に示すように、シール部 1 5 6 0 をケース部 1 8 0 5 の外面 5 3 1 に貼付し、位置表示部 5 4 1 を線状の凸部として外面 5 3 1 に設けてもよい。図 1 8 - 2 (a) は、ケース部 1 8 0 3 の変形であるケース部 1 8 0 5 において、図 1 8 - 1 に示す C - C 線に相当する位置の矢方向断面を示している。図 1 8 - 2 (a) に示すように、ケース部 1 8 0 5 の位置表示部 5 4 1 は、シール部 1 5 6 0 の外縁よりも一回り大きく、外面 5 3 1 に形成された線状の凸部であり、後側に突出している。位置表示部 5 4 1 の内側には、印刷部 1 5 7 1 が印刷されたシール部 1 5 6 0 が貼り付けられている。

10

【 0 1 6 8 】

線状の凸部である位置表示部 5 4 1 が設けられているので、例えば、手が触れた場合などに、平面状のケース部にシール部 1 5 6 0 が貼り付けられる場合に比べて、シール部 1 5 6 0 の剥がれを防止することができる。すなわち、シール部 1 5 6 0 を貼付する目印とすると共に、貼付後はシール部 1 5 6 0 の剥がれを防止することが出来る。シール部 1 5 6 0 の一部が剥がれると、検査者はそれが不正によるものか確認しなければならず、検査に時間がかかってしまう。しかし、このような位置表示部 5 4 1 であれば、シール部 1 5 6 0 が保護されるため、検査者は、シール部 1 5 6 0 に印刷された印刷部 1 5 7 1 を容易に確認することができる。故に、不正行為の発生を抑制することができる。このため、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

20

【 0 1 6 9 】

また、別の変形例として、図 1 8 - 2 (b) に示すように、シール部 1 5 6 0 をケース部 1 8 0 6 の外面 5 3 1 に貼付し、位置表示部 5 4 1 を外面 5 3 1 に設けるものとして、位置表示部 5 4 1 を線状の凹部としてもよい。図 1 8 - 2 (b) は、ケース部 1 8 0 3 の変形であるケース部 1 8 0 6 において、図 1 8 - 1 に示す C - C 線に相当する位置の矢方向断面を示している。図 1 8 - 2 (b) に示すように、ケース部 1 8 0 6 の位置表示部 5 4 1 は、シール部 1 5 6 0 の外縁よりも一回り大きく、外面 5 3 1 に形成された線状の凹部であり、前側に向かって凹んだ凹部である。位置表示部 5 4 1 の内側には、印刷部 1 5 7 1 が印刷されたシール部 1 5 6 0 が貼り付けられている。

30

【 0 1 7 0 】

また、別の変形例として、図 1 8 - 5 (a) に示すように、シール部 1 5 6 0 をケース部 1 8 0 9 の外面 5 3 1 に貼付し、位置表示部 5 4 1 を外面 5 3 1 に設けるものとして、位置表示部 5 4 1 を内面 5 3 2 にも設けてもよい。図 1 8 - 5 (a) は、ケース部 1 8 0 3 の変形であるケース部 1 8 0 9 において、図 1 8 - 1 に示す C - C 線に相当する位置の矢方向断面を示している。外面 5 3 1 の位置表示部 5 4 1 によって、シール部 1 5 6 0 が保護されると共に、内面 5 3 2 の位置表示部 5 4 1 により、より正確な位置にシール部 1 5 6 0 を張り付けることができる。

【 0 1 7 1 】

40

また、別の変形例として、図 1 8 - 5 (b) に示すように、シール部 1 5 6 0 をケース部 1 8 1 0 の外面 5 3 1 に貼付し、位置表示部 5 4 1 を外面 5 3 1 に設けるものとして、位置表示部 5 4 1 を凸部と凹部としてもよい。図 1 8 - 5 (b) は、ケース部 1 8 0 3 の変形であるケース部 1 8 1 0 において、図 1 8 - 1 に示す C - C 線に相当する位置の矢方向断面を示している。シール部 1 5 6 0 をより保護することができる。

【 0 1 7 2 】

上記の位置表示部 5 4 1 は、凸部又は / 及び凹部であるが、シール部 1 5 6 0 を貼付する位置を表示することができれば、凸部又は / 及び凹部でなくてもよい。位置表示部 5 4 1 は、後述の覗き部 1 5 7 4 を避けた位置に形成されている。なお、「形成され」とは、一体的に形成されているものに限らず、シール等により取付けられるものも含む意である

50

。また、位置表示部 5 4 1 は、シール部 1 5 6 0 の一部（角部）の位置を表示する L 字状のものでよい。また、ケース部 1 8 0 3 の第 1 面 5 3 1 の裏の所定位置とは、ケース部 1 8 0 3 の内面 5 3 2 を指すだけではない。基板 5 0 1 が無い状態でシール部 1 5 6 0 を貼付することを想定していれば、内ケース 4 0 上に位置表示部 5 4 1 を設けてもよく、基板 5 0 1 を内包した状態でシール部 1 5 6 0 を貼付することを想定していれば、基板上に位置表示部 5 4 1 を設けてもよい。

【 0 1 7 3 】

[シール部 1 5 6 0]

本実施形態では、図 1 8 - 1 に示すように、印刷部 1 5 7 1 が印刷されたシール部 1 5 6 0 は、ケース部 1 8 0 3 やシール部 1 5 6 1 の光透過性よりも低く、且つ、電子部品 5 9 5 を透視可能な所定の光透過性を有している。シール部 1 5 6 0 の光透過性は、一様である必要はない。例えば、模様のようなものを印刷することで光透過性を低下させてもよい。この場合、部分で光透過性が異なっていたとしても、全体としてケース部 1 8 0 3 やシール部 1 5 6 1 よりも光透過性が低くなっていればよい。本実施形態でも、図中斜線部分に薄い線の模様が印刷されており光透過性を低下させている。模様によって光透過性が異なることを図 1 8 - 7 を用いて簡単に説明する。図 1 8 - 7 (a) は、シール部 1 5 6 0 の背景が波のような模様になっており、図 1 8 - 7 (b) は、シール部 1 5 6 0 a の背景が格子状になっている。両社とも電子部品 5 9 5 を透視することはできるが、図 1 8 - 7 (a) のほうが光透過性が低いことがわかる。

【 0 1 7 4 】

なお、ケース部 1 8 0 3 は、最も高い所定の光透過性を有し、シール部 1 5 6 1 は、ケース部 1 8 0 3 の光透過性よりも若干低い所定の光透過性を有している。これにより、ROM 5 0 2 は、ケース部 1 8 0 3 の光透過性で視認可能、電子部品 5 9 5 は、シール部 1 5 6 1 又はシール部 1 5 6 0 の光透過性で視認可能となっている。シール部 1 5 6 1 の光透過性をケース部 1 8 0 3 やシール部 1 5 6 1 の光透過性よりも低くする方法としては、シール部 1 5 6 1 の素材の光透過性を低下させてもいいし、印刷部 1 5 7 1 によって、光透過性を低下させてもいい。

【 0 1 7 5 】

シール部 1 5 6 0 の光透過性と、ケース部 1 5 5 1 やシール部 1 5 6 1 の光透過性とが同等の場合より、シール部 1 5 6 0 の偽造が困難になり、不正行為の発生を抑制できる。また、模様によって光透過性を低くしている場合は、一見すると模様によって光透過性を下げていることがわからないため、よりシール部 1 5 6 0 の偽造が困難になり、不正行為の発生を抑制できる。故に、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 1 7 6 】

また、本実施形態では、図 1 8 - 1 に示すように、シール部 1 5 6 0 の有色領域 1 5 7 5 でなく所定の文字が付されていない部分に、所定の角度から見たときにのみ識別可能となる固有情報 1 8 0 4（本実施形態では K）が表示されている。なお、本実施形態では、文字であるが、記号でも図でもよい。また、模様により固有情報が形成される第 1 の領域 1 8 1 4 と、文字等と模様により固有情報が形成される第 2 の領域 1 8 1 5 の境界で、模様の連続性が変化するようになっている。これによれば、シール部 1 5 6 0 の偽造が一層困難になるため、不正行為の発生をより抑制できる。故に、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。なお、シール部 1 5 6 0 は、特定の情報を表示するための情報識別部である。

【 0 1 7 7 】

また、図 1 8 - 2 に示すように、シール部 1 5 6 1 を通して視認できる範囲とシール部 1 5 6 0 を通して視認できる範囲には、異なる電子部品 5 9 5 が少なくとも 1 つ以上取付けられている。電子部品 5 9 5 の種類に応じた光透過性を有するシール部を貼り付けることで不正を発見しやすく、且つ、不正を行い難くすることができる。故に、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 1 7 8 】

なお、シール部 1 5 6 1 に記載される情報としては、機種名、型式記号、外部端子情報、メーカ名、Q R コード（登録商標）、定格電圧、消費電力、注意事項等が想定される。また、シール部 1 5 6 1 とシール部 1 5 6 0 は、R O M 5 0 2 の装着箇所が視認できる角度を有する位置に貼付けられる。

【 0 1 7 9 】

[第 1 表示、第 2 表示]

また、本実施形態では、制御基板 5 0 1 と、R O M 5 0 2 と、電子部品 5 9 5 とを含むケース部 1 8 0 3 を制御手段と呼び、制御手段のうち異なる所定箇所に第 1 表示 1 3 7 1 と第 2 表示 1 3 7 2 とを設けている。第 1 表示 1 3 7 1 と第 2 表示 1 3 7 2 とは、制御基板 5 0 1 の R O M 5 0 2 が搭載される側の面 5 0 1 a から第 1 表示 1 3 7 1 , 第 2 表示 1 3 7 2 が表示されるまでの距離がそれぞれ異なっている。なお、第 1 表示 1 3 7 1 及び第 2 表示 1 3 7 2 は、識別表示部 1 3 9 0 だけを指すのではなく、図 1 8 - 6 に示すように、制御手段に設けられ、制御基板 5 0 1 の R O M が搭載される側の面 5 0 1 a からの距離が異なるものであればこれも含まれる。制御基板 5 0 1 の外ケース 4 5 側の面 5 0 1 a 、その反対面、内ケース 4 0 の刻印、外ケース 4 5 の刻印、シール各種等が想定される。

【 0 1 8 0 】

ただし、情報識別部と表示とが同一の情報を表すことはないものとする。なお、シール部と情報識別部は同義ではなく、一つのシール部の中に複数の情報識別部が存在する場合があるものとする。例えば、シール部 1 5 6 1 に、メーカ名、機種名、型番が表示されていた場合、情報識別部は 3 つ存在するということである。情報識別部と表示の関係について、事例を挙げて説明する。例えば、第 1 情報識別部をメーカ名とすると、第 1 表示はメーカ名ではないため、例えば、シール部に表示された機種名となる。また、第 2 表示は、例えば、基板 5 0 1 の内ケース 4 0 側の面に表示された機種名となる。なお、第 2 情報識別部は、例えば、シール部 1 5 6 0 の開封者情報であり、第 3 情報識別部は、例えば、シール部 1 5 6 2 のメーカ名である。制御基板からの距離が異なるという複雑な第 1 表示と第 2 表示が制御手段に設けられているため、基板 5 0 1 やケース部 1 8 0 3 の偽造を防止することができる。

【 0 1 8 1 】

[賞球基板 1 8 1 1]

また、本実施形態では、賞球基板 1 8 1 1 とそのケース部 1 8 1 3 が発明の構成に含まれる。図 1 8 - 8 に示すように、制御基板 5 0 1 と双方向通信可能な賞球基板 1 8 1 1 は、光透過性を有するケース部 1 8 1 3 内に収納される。賞球基板 1 8 1 1 には、R O M 1 8 1 2 が装着されている。また、賞球基板 1 8 1 1 には、R O M 1 8 1 2 とは異なる複数の電子部品 5 9 5 (図示せず) が実装されている。R O M 1 8 1 2 は、賞球の制御に使用されるデータを格納している。

【 0 1 8 2 】

ケース部 1 8 1 3 には、光透過性を有する素材で形成されたシール部 1 8 1 6 が貼付されている。シール部 1 8 1 6 は、光透過性を低下させた領域である複数の有色領域 1 8 1 7 が印刷されている。また、シール部 1 8 1 6 は、有色領域 1 8 1 7 同士の間で、所定の文字が付されていない部分に、電子部品 5 9 5 を覗くことが可能な覗き部 1 8 1 9 を有している。シール部 1 5 6 0 とシール部 1 8 1 6 は、電子部品 5 9 5 が透視可能な光透過性であると共に、シール部 1 5 6 0 とシール部 1 8 1 6 とは光透過性が異なっている。本実施形態では、シール部 1 5 6 0 のほうがシール部 1 8 1 6 よりも光透過性が低くなっている。例えば、シール部 1 5 6 0 を図 1 8 - 7 (a) に示すような波のような模様とし、シール部 1 8 1 6 を図 1 8 - 7 (b) に示すような格子模様としてもよい。

【 0 1 8 3 】

シール部 1 5 6 0 とシール部 1 8 1 6 との光透過性が異なっているため、シール部 1 5 6 0 , 1 8 1 6 の偽造が困難となり、ケース部 1 5 5 1 , 1 8 1 3 ごと不正な基板 5 0 1 , 1 8 1 1 と入れ替えるという不正行為困難にすることができる。故に、遊技者が安心し

10

20

30

40

50

て遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 1 8 4 】

なお、本実施形態では設けられていないが、賞球基板 1 8 1 1 と、ROM 1 8 1 2 と、電子部品 5 9 5 とを含むケース部 1 8 1 3 を賞球手段とし、賞球手段のうち異なる所定箇所に第 1 , 2 表示 (1 3 7 1 , 1 3 7 2) のように第 3 表示と第 4 表示とを設けてもよい。

【 0 1 8 5 】

[演出基板 1 8 2 1]

また、本実施形態では、演出基板 1 8 2 1 とそのケース部 1 8 2 3 が発明の構成に含まれる。図 1 8 - 9 に示すように、制御基板 5 0 1 又は賞球基板 1 8 1 1 からの一方向通信により演出制御可能な演出基板 1 8 2 1 は、光透過性を有するケース部 1 8 2 3 内に収納される。演出基板 1 8 2 1 には、ROM 1 8 2 2 が装着されている。また、演出基板 1 8 2 1 には、ROM 1 8 2 2 とは異なる複数の電子部品 5 9 5 (図示せず) が実装されている。ROM 1 8 2 2 は、演出の制御に使用される記憶内容を格納している。なお、制御基板 5 0 1 及び賞球基板 1 8 1 1 は、図 1 8 - 6 に示すように足差しタイプの基板であり、演出基板 1 8 2 1 は表面実装タイプの基板である。表面実装の例として、両面が表面実装、片面が表面実装、全面が表面実装、一部表面実装がある。

10

【 0 1 8 6 】

ケース部 1 8 2 3 には、シール部 1 5 6 0 のように光透過性を有する素材で形成されると共に、光透過性を低下させた領域である複数の有色領域が印刷され、有色領域同士の間で、所定の文字が付されていない部分に、電子部品 5 9 5 を覗くことが可能な覗き部を有するシール部が、貼付されていない。有色領域及び覗き部を有するシール部をケース部 1 8 2 3 には貼付せずに、ケース部 1 8 0 3 のみに貼付している。このようにシール部の扱いが異なっているため、シール部 1 5 6 0 とケース部 1 8 0 3 の偽造が困難になり、故に、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

20

【 0 1 8 7 】

図 1 9 に示すように、制御基板 5 0 1 には、第 1 領域 1 9 0 0 a と、該第 1 領域 1 9 0 0 a と異なる態様の第 2 領域 1 9 0 0 b があってもよい。ここで、異なる態様とは、視覚的に区別を認識できる違いをいい、例えば、第 1 領域 1 9 0 0 a と第 2 領域 1 9 0 0 b との間で色が異なったり、色の濃淡が異なったりなどの色による態様や、第 1 領域 1 9 0 0 a および第 2 領域 1 9 0 0 b が線や模様などで囲まれているなど枠による態様や、第 1 領域 1 9 0 0 a および第 2 領域 1 9 0 0 b とが段差になっているなど形状による態様等、これらの 1 つまたは組み合わせを用いることができる。例えば、制御基板 5 0 1 の表面に塗布されるレジストを、第 2 領域 1 9 0 0 b が第 1 領域 1 9 0 0 a よりも濃いまたは薄い緑色にすることが挙げられる。また、第 1 領域 1 9 0 0 a は、制御基板 5 0 1 において ROM 5 0 2 および ROM 5 0 2 以外の電子部品 5 9 5 が配置される範囲に対応して設定することが好ましい。これに対して、第 2 領域 1 9 0 0 b は、制御基板 5 0 1 において ROM 5 0 2、ROM 5 0 2 以外の電子部品 5 9 5 およびコネクタ 7 7 1 ~ 7 7 6 などの基板実装部品が配置されていない範囲に対応して設定することが好ましく、例えば、制御基板 5 0 1 の縁部に設定するとよい。なお、第 1 領域 1 9 0 0 a および第 2 領域 1 9 0 0 b 自体の中で、前述した色等の態様を異ならしてもよく、例えば、制御基板 5 0 1 において ROM 5 0 2 の配置範囲と ROM 5 0 2 以外の電子部品 5 9 5 の配置範囲とで異なる態様としてもよい。第 1 領域 1 9 0 0 a および第 2 領域 1 9 0 0 b は、制御基板 5 0 1 の実装面 (後面) または遊技盤ユニット 1 2 の背面に面する前面の何れかまたは両方に設けることができる。また、制御基板 5 0 1 の後面または前面の一方に第 1 領域 1 9 0 0 a を設け、制御基板 5 0 1 の後面または前面の他方に第 2 領域 1 9 0 0 b を設けてもよい。

30

40

【 0 1 8 8 】

図 1 9 に示すように、制御基板 5 0 1 には、第 2 領域 1 9 0 0 b に、特定の情報を表示するための情報識別部 1 9 0 2 を設けてもよい。そして、情報識別部 1 9 0 2 には、前述した識別表示 5 2 9 と同様の情報が含まれている識別表示 5 2 1 を含んでいてもよい。このように、第 1 領域 1 9 0 0 a と態様が異なる第 2 領域 1 9 0 0 b に情報識別部 1 9 0 2

50

を設けることで、情報識別部 1 9 0 2 で表示される情報を、見易くすることができる。従って、検査者は、制御基板 5 0 1 に不正が行われたか否かを判断し易くなり、管理を容易にすることができる。そして、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。よって、遊技者の興趣が向上する。

【 0 1 8 9 】

制御基板 5 0 1 について、特に区別する場合、実装された電子部品 5 0 2 , 5 9 5 等の基板実装部品を除く板体を「基板」ということがあり、「基板」に基板実装部品が実装されたものを「制御部」ということがある。第 1 領域 1 9 0 0 a および第 2 領域 1 9 0 0 b は基板に設けることが好ましいが、基板実装部品に異なる態様の領域を設けてもよい。

【 0 1 9 0 】

前述した識別表示 5 2 3 が、識別表示部 1 3 9 0 において厚み方向（前後方向）の複数の階層 1 3 8 1 , 1 3 8 2 , 1 3 8 3 , 1 3 8 4 に分割されて設けられている構成を、外ケース 4 5 に設けられる識別表示 5 2 3 だけでなく、内ケース 4 0 に設けられる識別表示 5 2 4 や、キャップ 8 に設けられる識別表示 5 2 5 や、制御基板 5 0 1 に設けられる識別表示 5 2 1 や、ROM 5 0 2 に設けられる識別表示 5 2 2 など、制御部に付される識別表示 5 2 0 に適用することができる。階層 1 3 8 1 , 1 3 8 2 , 1 3 8 3 , 1 3 8 4 に分割される対象は、文字 1 3 7 1 ~ 1 3 7 6 に限られず、図形や模様やコードや、文字の組み合わせなどの複数の識別子からなる表示であってもよい。例えば、識別表示 5 2 0 同士の関係が、前述したような階層 1 3 8 1 , 1 3 8 2 , 1 3 8 3 , 1 3 8 4 に分かれていてもよい。

【 0 1 9 1 】

階層 1 3 8 1 , 1 3 8 2 , 1 3 8 3 , 1 3 8 4 の位置を、識別表示 5 2 3 が設けられた対象（識別表示部 1 3 9 0 の厚み方向）で説明しているが、外ケース 4 5 に設けられた識別表示 5 2 3 であれば、外ケース 4 5 の厚み方向に位置が異なり、内ケース 4 0 に設けられた識別表示 5 2 4 であれば、内ケース 4 0 の厚み方向に位置が異なり、制御基板 5 0 1 または基板実装部品に設けられた識別表示 5 2 1 , 5 2 2 であれば、基板の厚み方向に位置が異なる。そして、基板に付された識別表示 5 2 1 と ROM 5 0 2 に付された識別表示 5 2 2 とは、基板の厚み方向において異なる位置にあるといえ、基板の実装面（後面）に付された識別表示と基板の前面に付された識別表示とは、基板の厚み方向において異なる位置にあるといえる。また、基板実装部品が実装された面を構成する外ケース 4 5 は、基板実装部品の設置スペースを確保するために内ケース 4 0 よりも基板から離れており、外ケース 4 5 に付された識別表示 5 2 3 と内ケース 4 0 に付された識別表示 5 2 4 とは、基板の厚み方向において異なる位置にあるといえる。

【 0 1 9 2 】

互いに関連付けられた識別表示とは、製造者などが視認により関係が直接的に認識できる態様に限らず、管理者などが保有する情報と照合したり、管理者が保有する機器により変換したりなどすることで関連性が把握可能な関係であってもよい。例えば、基板ケース 3 に付された識別表示 5 2 3 ~ 5 2 5 が、制御基板 5 0 1 に付された識別表示 5 2 1 , 5 2 2 と一致する識別子を含んでいなくても、管理者が保有する情報を参照することで、両識別表示 5 2 0 が共通する情報を含んでいることなどを挙げられる。換言すると、互いに関連付けられた識別表示は、視認により認識できる情報から関連性を直接的に把握できる態様と、視認により認識できる情報から関連性を直接的に把握できない態様とを含んでいてもよい。このように、識別表示同士の関連性が一見判らない態様であることで、製造者や管理者以外の書き換えが難しくなり、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。よって、遊技者の興趣が向上する。

【 0 1 9 3 】

なお、本件における「第 1 表示」、「第 2 表示」、「第 3 表示」、「第 4 表示」、「第 1 情報表示」、「第 2 情報表示」、「第 1 情報識別部」、「第 2 情報識別部」、「第 3 情報識別部」、「第 4 情報識別部」は、上記実施形態に記載のものに限られず、シール、シールに印字されたコード情報や文字、ケース上の刻印や、機種名、製造者名、基板の管理

10

20

30

40

50

情報、ケースの管理情報など、基板上や基板ケース上の遊技機に関する情報の表示方法や表示内容全般を採用することが可能である。

【 0 1 9 4 】

[発明 1]

発明 1 の遊技機（遊技機 1）は、遊技を制御するための複数の電子部品が実装された制御基板（制御基板 1705）と、当該制御基板を収納し光透過性を有する収納部（基板ケース 1700）と、を有する制御手段（組立体 2）と、前記収納部に貼付され、光透過性を有する素材で形成されたシール部（シール部 1710）と、前記シール部に設けられ、前記制御手段に関する情報を表示するための第 1 情報表示部（記載領域 1570、コード部 1712、情報表示部 1713）と、前記収納部における前記シール部とは異なる位置に設けられ、前記制御手段に関する情報を表示するための第 2 情報表示部（デイトマーク部 1720）と、を備え、前記第 1 情報表示部は、当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域（印刷部 1711、複数の領域 1575）と、前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記収納部に収納されている前記制御基板を視認可能な視認可能領域（覗き部 1574）と、を有することを要旨とする。

10

【 0 1 9 5 】

発明 1 のようなシール部 1720 とデイトマーク部 1720 とを有する組立体 2 を備える遊技機 1 によれば、シール部 1720 の記載領域 1570 に記載される開封年月日と、デイトマーク部 1720 に表示された製造年月日と、は、異なる情報であるものの、所定の時系列の関係を有している。具体的には、シール部 1720 の記載領域 1570 に記載される開封年月日は、デイトマーク部 1720 に表示された製造年月日に比べて、必ず新しい年月日となっている。したがって、検査者は、シール部 1720 の記載領域 1570 の開封年月日と、デイトマーク部 1720 の製造年月日と、の整合性を確認することによって、不正な制御基板の交換といった不正行為を容易に確認することができる。

20

【 0 1 9 6 】

[発明 2]

発明 2 の遊技機（遊技機 1）は、遊技を制御するための複数の電子部品が実装された制御基板（制御基板 1705）と、当該制御基板を収納し光透過性を有する収納部（基板ケース 1700）と、を有する制御手段（組立体 2）と、前記収納部に貼付され、光透過性を有する素材で形成された第 1 シール部（シール部 1710）と、前記第 1 シール部に設けられ、前記制御手段に関する情報を表示するための第 1 情報表示部（コード部 1712、情報表示部 1713）及び第 2 情報表示部（記載領域 1570）と、前記収納部における前記第 1 シール部とは異なる位置に貼付される第 2 シール部（開封禁止シール部 1730）と、前記第 2 シール部に設けられ、前記制御手段に関する情報を表示するための第 3 情報表示部（コード部 1732）と、を備え、前記第 1 情報表示部及び前記第 3 情報表示部は、端末機により読取可能な所定の態様の識別表示が含まれ、前記第 2 情報表示部は、当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域（印刷部 1711、複数の領域 1575）と、前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記収納部に収納されている前記制御基板を視認可能な視認可能領域（覗き部 1574）と、を有し、前記第 3 情報表示部は、前記収納部の厚み方向において、前記制御基板を前記収納部の厚み方向に対して垂直をなす方向に延伸させた仮想面からの距離が、当該仮想面から前記第 1 情報表示部までの距離とは異なるように設けられていることを要旨とする。

30

40

【 0 1 9 7 】

発明 2 のようなシール部 1720 と開封禁止シール部 1730 とを有する組立体 2 を備える遊技機 1 によれば、シール部 1720 のコード部 1712 と情報表示部 1713 に表示されている情報は、開封禁止シール部 1730 に表示されている情報と紐付けされている。したがって、検査者は、シール部 1720 の情報と開封禁止シール部 1730 の情報との整合性を確認することで、不正な制御基板の交換といった不正行為を容易に確認する

50

ことができる。また、開封禁止シール部 1 7 3 0 のコード部 1 7 3 2 は、基板ケース 1 7 0 0 の厚み方向において、制御基板 1 7 0 5 を当該厚み方向に対して垂直をなす方向に延伸させた仮想面からの距離が、当該仮想面からシール部 1 7 2 0 のコード部 1 7 1 2 及び情報表示部 1 7 1 3 までの距離とは異なるように設けられている。したがって、検査者は、開封禁止シール部 1 7 3 0 のコード部 1 7 3 2 とシール部 1 7 2 0 のコード部 1 7 1 2 及び情報表示部 1 7 1 3 とが同じ高さで同一の平面上に設けられているようなものに比べて、開封禁止シール部 1 7 3 0 のコード部 1 7 3 2 とシール部 1 7 2 0 のコード部 1 7 1 2 及び情報表示部 1 7 1 3 との情報を視認し易く、不正な制御基板の交換といった不正行為を容易に確認することができる。

【 0 1 9 8 】

10

[発明 3]

発明 3 の遊技機（遊技機 1）は、制御基板（制御基板 5 0 1，1 7 0 5）及び当該制御基板を収納する収納部（基板ケース 1 5 5 1，1 7 0 0）を有する制御手段（組立体 2）と、前記制御手段に設けられた第 1 情報表示（識別表示 5 2 3 の文字 1 3 7 1）及び第 2 情報表示（識別表示 5 2 3 の文字 1 3 7 4）と、を備え、前記収納部の厚み方向において、前記収納部の天面から前記第 1 情報表示までの距離が、前記収納部の天面から前記第 2 情報表示までの距離とは異なることを要旨とする。

【 0 1 9 9 】

発明 3 のような識別表示 5 2 3 における文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とを有する組立体 2 を備える遊技機 1 によれば、文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とは、識別表示部 1 3 9 0 の厚さ方向における異なる階層となるように形成されているため、階層 1 3 8 1 の文字 1 3 7 1 と階層 1 3 8 2 の文字 1 3 7 2 とは、基板ケース 1 7 0 0 の天面からの距離が異なるように形成されている。このような識別表示 5 2 3 は、ケース部 1 7 0 0 を形成する部材の内部に形成されているため、例えば、識別表示 5 2 3 の全体がケース部の外面又は内面に形成されている場合に比べて、除去され難いものである。また、識別表示 5 2 3 は、基板ケース 1 7 0 0 の厚さ方向における天面からの距離が異なる位置、つまり、厚さ方向の複数の階層に分割されて設けられることとなるため、一層のみに形成されている場合に比べて除去され難いものとなっている。このような識別表示 5 2 3 であれば、もし、不正によって除去等された場合には、研磨されたり削られたりすることで基板ケース 1 7 0 0 に目立つ損傷が形成されるため、検査者による不正行為の発見が容易であるとともに不正行為の発生を抑制できるものであるといえる。さらに、識別表示 5 2 3 における文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とは、平面視において、重複する部分がないとともに離間しているため、組立体 2 に対して遊技機の背面側から視認したときに、文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とを共に俯瞰可能であり、制御基板 1 7 0 5 等に対する不正行為等の有無を容易に確認することもできる。

20

30

【 0 2 0 0 】

[発明 4]

発明 4 の遊技機（遊技機 1）は、制御基板（制御基板 5 0 1，1 7 0 5）及び当該制御基板を収納する収納部（基板ケース 1 5 5 1，1 7 0 0）を有する制御手段（組立体 2）と、前記制御手段に設けられた第 1 情報表示（識別表示 5 2 3 の文字 1 3 7 1）及び第 2 情報表示（識別表示 5 2 3 の文字 1 3 7 4）と、を備え、前記制御基板の厚み方向において、前記制御基板の所定の面から前記第 1 情報表示までの距離が、前記制御基板の所定の面から前記第 2 情報表示までの距離とは異なることを要旨とする。

40

【 0 2 0 1 】

発明 4 のような識別表示 5 2 3 における文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とを有する組立体 2 を備える遊技機 1 によれば、文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とは、識別表示部 1 3 9 0 の厚さ方向における異なる階層となるように形成されているため、階層 1 3 8 1 の文字 1 3 7 1 と階層 1 3 8 2 の文字 1 3 7 2 とは、制御基板 1 7 0 5 の所定の面（例えば、制御基板 1 7 0 5 を厚み方向に対して垂直をなす方向に延伸させた仮想面）からの距離が異なるように形成されている。このような識別表示 5 2 3 は、ケース部 1 7 0 0 を形成する部材

50

の内部に形成されているため、例えば、識別表示 5 2 3 の全体がケース部の外面又は内面に形成されている場合に比べて、除去され難いものである。また、識別表示 5 2 3 は、制御基板 1 7 0 5 の所定の面からの距離が異なる位置、つまり、厚さ方向の複数の階層に分割されて設けられることとなるため、一層のみに形成されている場合に比べて除去され難いものとなっている。このような識別表示 5 2 3 であれば、もし、不正によって除去等された場合には、研磨されたり削られたりすることで基板ケース 1 7 0 0 に目立つ損傷が形成されるため、検査者による不正行為の発見が容易であるとともに不正行為の発生を抑制できるものであるといえる。さらに、識別表示 5 2 3 における文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とは、平面視において、重複する部分がないとともに離間しているため、組立体 2 に対して遊技機の背面側から視認したときに、文字 1 3 7 1 と文字 1 3 7 2 とを共に俯瞰可能であり、制御基板 1 7 0 5 等に対する不正行為等の有無を容易に確認することもできる。

10

【 0 2 0 2 】

〔 発 明 5 〕

発明 5 の遊技機（遊技機 1）は、遊技を制御するための複数の電子部品が実装された制御基板（制御基板 5 0 1，1 7 0 5）と、前記複数の電子部品を視認可能に前記制御基板を収納し光透過性を有する収納部（基板ケース 1 5 5 1，1 7 0 0）と、前記収納部に添付され所定の情報を表示するための第 1 情報表示部（コード部 1 5 7 2，1 7 1 2、情報表示部 1 5 7 3，1 7 1 3）及び第 2 情報表示部（記載領域 1 5 7 0）と、を備え、前記第 1 情報表示部は、特定の情報を含む第 1 態様と当該第 1 態様とは異なる第 2 態様とで表示され、前記第 2 情報表示部は、光透過性を有する素材で形成されており、当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域（印刷部 1 5 7 1，1 7 1 1、複数の領域 1 5 7 5）と、前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間であって、前記制御基板を視認可能な領域（覗き部 1 5 7 4）と、を有することを要旨とする。

20

【 0 2 0 3 】

発明 5 のようなシール部 1 7 2 0 を有する組立体 2 を備える遊技機 1 であれば、コード部 1 7 1 2 の QR コード（登録商標）と情報表示部 1 7 1 3 の文字列と、いったように互いに紐付けされるとともに同じ特定の情報を含む情報が異なる態様で表示されている。したがって、コード部 1 7 1 2 に対する不正は難しく、情報表示部 1 7 1 3 の情報が不正に改竄されていたとしても、検査者が、コード部 1 7 1 2 との整合性を確認することで、不正行為等の有無を容易に確認することができるとともに、不正行為を抑止することができる。また、シール部 1 7 2 0 においては、コード部 1 7 1 2 及び情報表示部 1 7 1 3 と、記載領域 1 5 7 0 との間に、覗き部 1 5 7 4 が形成されているため、上述と同様に、制御基板 1 7 0 5 に対して不正が行われたか否かを容易に確認できるため、不正の行われる可能性の低減に繋げることができる。

30

【 0 2 0 4 】

〔 発 明 6 〕

発明 6 の遊技機（1）は、遊技を制御する基板（5 0 1）と、
前記基板を内包する、第 1 の光透過性を有するケース部（1 8 0 3）と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段（5 0 2）と、
前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品（5 9 5）と、
前記ケース部に設けられ、光透過性を有する素材で形成されたシール部（1 5 6 0）と、
前記シール部に印刷され、前記シール部における光透過性を低下させた領域である複数の有色領域（1 5 7 5）と、を備え、

40

前記シール部は、
前記第 1 の光透過性よりも低く、且つ、前記電子部品を視認可能な第 2 の光透過性を有し、
前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記ケース部に内包されている前記電子部品を前記第 2 の光透過性により覗くことが可能な覗き部（1 5 7 4）を有することを要旨とする。

50

【 0 2 0 5 】

覗き部が設けられているので、検査者は、覗き部を介して、電子部品を確認することができる。よって、覗き部が設けられていない場合に比べて、電子部品に対して不正が行われたか否かを容易に確認できる。故に、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。また、有色の複数の領域が設けられているので、例えば、検査者の名前、及び、基板ケースを開封した年月日を記載することができる。また、検査者は、領域に、制御基板に不正が行われたか否かを確認した日付等を記載することもできる。また、領域の間に覗き部が設けられているので、領域のみが設けられている場合に比べて、領域が目立ちやすい。このため、領域に記載された文字等を検査者が確認し易くなる。よって、不正が行われる可能性を低減でき、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。また、シール部の光透過性がケース部の光透過性より低くなっているため、シール部の偽造が困難となり、ケース部ごと不正な基板と入れ替えるという不正行為困難にすることができる。これにより、遊技者が安心して遊技できる。故に、遊技者の興趣が向上する。

10

【 0 2 0 6 】

[発明 7 - 1]

発明 7 - 1 の遊技機 (1) は、遊技を制御する基板 (5 0 1) と、
前記基板を内包する、光透過性を有するケース部 (1 8 0 3) と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段 (5 0 2) と、
前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品 (5 9 5) と、
前記ケース部の第 1 面に設けられ、光透過性を有する素材で形成されたシール部 (1 5 6 0) と、
前記ケース部の前記第 1 面の裏側に位置する所定位置に形成され、前記シール部を取付ける位置の目印となる位置表示部 (5 4 1) と、
前記シール部に印刷され、前記シール部における光透過性を低下させた領域である複数の有色領域 (1 5 7 5) と、を備え、
前記シール部は、
前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記ケース部に内包されている前記電子部品を覗くことが可能な覗き部 (1 5 7 4) を有することを要旨とする。

20

30

【 0 2 0 7 】

この場合、製造者は、位置表示部に沿って識別表示を位置決めすることができる。このため、製造者は、遊技機を量産する場合において、複数の遊技機間で同じ位置に識別表示を付することができる。複数の遊技機間で同じ位置に識別表示が付されるので、検査者は、識別表示を容易に確認することができる。故に、不正行為の発生を抑制することができる。このため、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 2 0 8 】

また、位置表示部を内面側に形成し、シール部を外面に貼り付けるため、どこにシール部を貼っても位置表示部がシール部と干渉することが無いので貼付を阻害しない。シールの一部が剥がれると、検査者はそれが不正によるものか確認しなければならず、検査に時間がかかってしまう。しかし、このような位置表示部であれば、検査者は、基板ケースに付された識別表示を容易に確認することができる。故に、不正行為の発生を抑制することができる。このため、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

40

【 0 2 0 9 】

[発明 7 - 2]

また、発明 7 - 2 の遊技機は、遊技を制御する基板 (5 0 1) と、
前記基板を内包する、光透過性を有するケース部 (1 8 0 3) と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段 (5 0 2) と、
前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品 (5 9 5) と、
前記ケース部の第 1 面に設けられ、光透過性を有する素材で形成されたシール部 (1 5

50

60)と、

前記ケース部の前記第1面において前記シール部の外縁に形成された凸部、又はノ及び、凹部であって、前記シール部を取付ける位置の目印となる位置表示部(541)と、

前記シール部に印刷され、前記シール部における光透過性を低下させた領域である複数の有色領域(1575)と、を備え、

前記シール部は、

前記複数の有色領域のうちの第1有色領域と前記第1有色領域とは異なる第2有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記ケース部に内包されている前記電子部品を覗くことが可能な覗き部(1574)を有することを要旨とする。

【0210】

この場合、製造者は、位置表示部に沿って識別表示を位置決めすることができる。このため、製造者は、遊技機を量産する場合において、複数の遊技機間で同じ位置に識別表示を付することができる。複数の遊技機間で同じ位置に識別表示が付されるので、検査者は、識別表示を容易に確認することができる。故に、不正行為の発生を抑制することができる。このため、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【0211】

また、シール部を貼付する外面に、シール部の外縁に形成された凸部、又はノ及び、凹部である位置表示部が設けられているので、例えば、手が触れた場合などに、基板ケースの平面にシール部が貼り付けられる場合に比べて、シールの剥がれを防止することができる。シールの一部が剥がれると、検査者はそれが不正によるものか確認しなければならず、検査に時間がかかってしまう。しかし、このような位置表示部であれば、シール部が保護されるため、検査者は、基板ケースに付された識別表示を容易に確認することができる。故に、不正行為の発生を抑制することができる。このため、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【0212】

[発明8]

発明8の遊技機(1)は、遊技を制御する基板(501)と、

前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段(502)と、

前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品(595)と、

前記記憶手段及び前記複数の電子部品を視認可能で且つ接触困難に収納する、第1の光透過性を有する収納部(1803)と、

前記収納部に設けられ、特定の情報を表示する第1情報識別部(1561, 1595)及び第2情報識別部(1560, 1572, 1573)と、

前記記憶手段に設けられ、特定の情報を表示する第3情報識別部(1562, 1596)と、を備え、

前記第1情報識別部及び前記第3情報識別部は、少なくとも同じ内容を意味する識別表示を含んで表示され、

前記第2情報識別部は、

前記第1の光透過性よりも光透過性が低く、且つ、前記電子部品を視認可能な第2の光透過性により形成されており、

前記第2の光透過性よりも光透過性を低下させた領域である複数の有色領域(1575)と、

前記複数の有色領域のうちの第1有色領域と前記第1有色領域とは異なる第2有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記収納部に収納されている前記電子部品を前記第2の光透過性により覗くことが可能な覗き部(1574)と、を有していることを要旨とする。

【0213】

この場合、検査者は、同じ識別表示が表示された記憶手段と、収納部とを確認し、不正行為が行われていないことを容易に確認することができる。また、不正行為によって、例えば、記憶手段が、他の記憶手段に入れ替えられた場合でも、記憶手段と収納部に付され

10

20

30

40

50

た識別表示が同じであるか否かを判断することで、検査者は、容易に不正行為が行われたことを確認できる。このため、不正行為の発生を抑制することができる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 2 1 4 】

[発明 9 - 1]

発明 9 - 1 の遊技機 (1) は、遊技を制御する基板 (5 0 1) と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段 (5 0 2) と、
前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品 (5 9 5) と、
前記記憶手段及び前記複数の電子部品を視認可能で且つ接触困難に収納する、光透過性を有する収納部 (1 8 0 3) と、

10

前記収納部に設けられ、特定の情報を表示する第 1 情報識別部 (1 5 6 1 , 1 5 9 5) と、

前記収納部の第 1 面に設けられ、特定の情報を表示する第 2 情報識別部 (1 5 6 0 , 1 5 7 2 , 1 5 7 3) と、

前記記憶手段に設けられ、特定の情報を表示する第 3 情報識別部 (1 5 6 2 , 1 5 9 6) と、

前記収納部の前記第 1 面の裏側に位置する所定位置に形成され、前記第 2 情報識別部を取付ける位置の目印となる位置表示部 (5 4 1) と、を備え、

前記第 1 情報識別部及び前記第 3 情報識別部は、
少なくとも同じ内容を意味する識別表示を含んで表示され、

20

前記第 2 情報識別部は、
光透過性を有する素材で形成されており、当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域 (1 5 7 5) と、
前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記収納部に収納されている前記電子部品を覗くことが可能な覗き部 (1 5 7 4) と、を有することを要旨とする。

【 0 2 1 5 】

[発明 9 - 2]

発明 9 - 2 の遊技機 (1) は、遊技を制御する基板 (5 0 1) と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段 (5 0 2) と、
前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品 (5 9 5) と、
前記記憶手段及び前記複数の電子部品を視認可能で且つ接触困難に収納する、光透過性を有する収納部 (1 8 0 3) と、

30

前記収納部に設けられ、特定の情報を表示する第 1 情報識別部 (1 5 6 1 , 1 5 9 5) と、

前記収納部の第 1 面に設けられ、特定の情報を表示する第 2 情報識別部 (1 5 6 0 , 1 5 7 2 , 1 5 7 3) と、

前記記憶手段に設けられ、特定の情報を表示する第 3 情報識別部 (1 5 6 2 , 1 5 9 8) と、

前記収納部の第 1 面において前記第 2 情報識別部の外縁に形成された凸部、又はノ及び、凹部であって、前記第 2 情報識別部を取付ける位置の目印となる位置表示部 (5 4 1) と、を備え、

40

前記第 1 情報識別部及び前記第 3 情報識別部は、
少なくとも同じ内容を意味する識別表示を含んで表示され、

前記第 2 情報識別部は、
光透過性を有する素材で形成されており、当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域 (1 5 7 5) と、
前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記収納部に収納されている前記電子部品を覗くことが可能な覗き部 (1 5 7 4) と、を有することを要旨とする。

50

【 0 2 1 6 】

[発明 1 0]

発明 1 0 の遊技機 (1) は、遊技を制御する基板 (5 0 1) と、
前記基板を内包する、光透過性を有するケース部 (1 8 0 3) と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段 (5 0 2) と、
前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品 (5 9 5) と、
前記ケース部に設けられると共に、光透過性を有する素材で形成された第 1 シール部 (1 5 6 1) 及び第 2 シール部 (1 5 6 0) と、を備え、
前記第 2 シール部は、
前記第 1 シール部よりも光透過性が低く、且つ、前記電子部品を視認可能な所定の光透過性により形成されており、
前記所定の光透過性よりも光透過性を低下させた領域である複数の有色領域 (1 5 7 5) と、
前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記ケース部に内包されている前記電子部品を前記所定の光透過性により覗くことが可能な覗き部 (1 5 7 4) と、
を有していることを要旨とする。

10

【 0 2 1 7 】

本発明によれば、第 2 シール部の光透過性が第 1 シール部の光透過性より低くなっているため、第 2 シール部の偽造が困難となり、ケース部ごとと不正な基板と入れ替えるという不正行為困難にすることができる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

20

【 0 2 1 8 】

[発明 1 1]

発明 1 1 の遊技機 (1) は、遊技を制御する基板 (5 0 1) と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段 (5 0 2) と、
前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品 (5 9 5) と、
前記記憶手段及び前記複数の電子部品を視認可能で且つ接触困難に収納する、光透過性を有する収納部 (1 8 0 3) と、
前記収納部に設けられると共に、光透過性を有する素材で形成され、特定の情報を表示する第 1 情報識別部 (1 5 6 1 , 1 5 9 5) 及び第 2 情報識別部 (1 5 6 0 , 1 5 7 2 , 1 5 7 3) と、
前記記憶手段に設けられ、特定の情報を表示する第 3 情報識別部 (1 5 6 2 , 1 5 9 6) と、を備え、
前記第 1 情報識別部及び前記第 3 情報識別部は、
少なくとも同じ内容を意味する識別表示を含んで表示され、
前記第 2 情報識別部は、
前記第 1 情報識別部よりも光透過性が低く、且つ、前記電子部品を視認可能な所定の光透過性により形成されており、
前記所定の光透過性よりも光透過性を低下させた領域である複数の有色領域 (1 5 7 5) と、
前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記収納部に収納されている前記電子部品を前記所定の光透過性により覗くことが可能な覗き部 (1 5 7 4) と、
を有していることを要旨とする。

30

40

【 0 2 1 9 】

[発明 1 2]

発明 1 2 の遊技機 (1) は、基板 (5 0 1) および該基板 (5 0 1) に設けられた電子部品 (5 0 2 , 5 9 5) を含む制御部と、前記制御部を内包する複数の部材 (5 1 1) を含むケース部 (3 , 1 0 0 3 , 1 1 0 3 , 1 2 0 3 , 1 3 0 3 , 1 5 5 1) と、を備え、

50

前記ケース部（３，１００３，１１０３，１２０３，１３０３，１５５１）において前記基板（５０１）における前記電子部品（５０２，５９５）の実装面側を構成する前記部材（４５）には、前記制御部に付された識別表示（５２１，５２２）と関連する識別表示（５２３）として、前記基板（５０１）の厚み方向において該基板（５０１）からの距離が異なる第１表示（１３７１）と第２表示（１３７２）とが付されていることを要旨とする。
【０２２０】

この場合、基板の識別表示とケース部の識別表示とは関連しているため、もし、基板が不正に交換された場合などに基板の識別表示とケース部の識別表示とが異なるものとなって、検査者による不正行為の発見が容易になる。また、識別表示は、基板の厚さ方向における基板からの距離が異なる位置、つまり、厚さ方向の複数の階層に分割されて設けられることで、識別表示が一層のみに形成されている場合に比べて除去され難くすることができる。このような識別表示であれば、もし、この識別表示が不正によって除去等された場合には、研磨されたり削られたりすることでケース部に目立つ損傷が形成されるため、検査者による不正行為の発見が容易であるとともに不正行為の発生を抑制できる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興味が向上する。

【０２２１】

[発明１３]

発明１３の遊技機（１）は、基板（５０１）および該基板（５０１）の実装面に設けられた電子部品（５０２，５９５）を含む制御部と、前記制御部を内包する複数の部材（５１１）を含むケース部（３，１００３，１１０３，１２０３，１３０３，１５５１）とを有する制御手段を備え、前記制御手段に付されて互いに関連付けられた識別表示（５２０）として、前記基板（５０１）の厚み方向における前記実装面からの距離が異なるように付された第１表示（１３７１）および第２表示（１３７２）を有すると共に、前記基板（５０１）の厚み方向における前記実装面からの距離が、前記第２表示（１３７２）と同じになるように付された第３表示（１３７５）を有していることを要旨とする。

【０２２２】

この場合、制御手段の識別表示が互いに関連しているため、もし、基板が不正に交換された場合などに基板の識別表示とケース部の識別表示とが異なるものとなって、検査者による不正行為の発見が容易になる。また、識別表示は、基板の厚さ方向における基板からの距離が異なる位置、つまり、厚さ方向の複数の階層に分割されて設けられることで、識別表示が一層のみに形成されている場合に比べて除去され難くすることができる。このような識別表示であれば、もし、この識別表示が不正によって除去等された場合には、研磨されたり削られたりすることでケース部に目立つ損傷が形成されるため、検査者による不正行為の発見が容易であるとともに不正行為の発生を抑制できる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興味が向上する。

【０２２３】

[発明１４]

発明１４の遊技機（１）は、基板（５０１）および該基板（５０１）に設けられた電子部品（５０２，５９５）を含む制御部と、前記制御部を内包する複数の部材（５１１）を含むケース部（３，１００３，１１０３，１２０３，１３０３，１５５１）とを備え、前記ケース部（３，１００３，１１０３，１２０３，１３０３，１５５１）には、前記制御部に付された識別表示（５２１，５２２）と関連する識別表示（５２３）として、前記基板（５０１）の厚み方向における位置が異なるように付された第１表示（１３７１）と第２表示（１３７２）とが付され、前記制御部には、前記ケース部（３，１００３，１１０３，１２０３，１３０３，１５５１）に付された前記識別表示（５２３）と関連する前記識別表示（５２０）として、前記基板の厚み方向における位置が異なるように付された第３表示と第４表示とが付されていることを要旨とする。

【０２２４】

この場合、基板の識別表示とケース部の識別表示とは関連しているため、もし、基板が不正に交換された場合などに基板の識別表示とケース部の識別表示とが異なるものとなっ

10

20

30

40

50

て、検査者による不正行為の発見が容易になる。また、識別表示は、基板の厚さ方向における基板からの距離が異なる位置、つまり、厚さ方向の複数の階層に分割されて設けられることで、識別表示が一層のみに形成されている場合に比べて除去され難くすることができる。このような識別表示であれば、もし、この識別表示が不正によって除去等された場合には、研磨されたり削られたりすることでケース部に目立つ損傷が形成されるため、検査者による不正行為の発見が容易であるとともに不正行為の発生を抑制できる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 2 2 5 】

[発明 1 5]

発明 1 5 の遊技機 (1) は、遊技を制御する制御基板 (5 0 1) と、前記制御基板 (5 0 1) に設けられ、遊技の制御に使用される記憶内容を格納する記憶手段 (5 0 2) と、前記制御基板 (5 0 1) に設けられ、前記記憶手段 (5 0 2) とは異なる複数の電子部品 (5 9 5) と、前記記憶手段 (5 0 2) および前記複数の電子部品 (5 9 5) を視認可能で且つ接触困難に収納する光透過性の収納部 (3 , 1 0 0 3 , 1 1 0 3 , 1 2 0 3 , 1 3 0 3 , 1 5 5 1) と、前記収納部 (3 , 1 0 0 3 , 1 1 0 3 , 1 2 0 3 , 1 3 0 3 , 1 5 5 1) に設けられ、特定の情報を表示するための第 1 情報識別部 (5 2 3 , 1 5 6 1) および第 2 情報識別部 (1 5 6 0) と、前記記憶手段 (5 0 2) に設けられ、特定の情報を表示するための第 3 情報識別部 (5 2 2 , 1 5 6 2) と、を備え、前記制御基板 (5 0 2) には、第 1 領域 (1 9 0 0 a) と、該第 1 領域 (1 9 0 0 a) と異なる態様の第 2 領域 (1 9 0 0 b) があり、前記第 2 領域 (1 9 0 0 b) には、特定の情報を表示するための第 4 情報識別部 (1 9 0 2) が設けられ、前記第 1 情報識別部 (5 2 3 , 1 5 6 1) および前記第 3 情報識別部 (5 2 2 , 1 5 6 2) は、少なくとも同じ識別表示 (5 2 9 , 1 5 9 5 , 1 5 9 6) を含んで表示され、前記第 1 情報識別部は、前記記憶手段の装着箇所が視認できる角度を有するように表示され、前記第 2 情報識別部は、光透過性を有する素材で形成されており、当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域 (1 5 7 5) と、前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域 (1 5 7 5) と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域 (1 5 7 5) との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記収納部に収納されている前記複数の電子部品を覗くための覗き部 (1 5 7 4) と、を有することを要旨とする。

【 0 2 2 6 】

この場合、収納部の第 1 情報識別部および記憶手段の第 3 情報識別部には少なくとも同じ識別表示が付されているため、検査者は、同じ識別表示が表示された記憶手段と収納部とを確認し、不正行為が行われていないことを容易に確認することができる。また、第 1 情報識別部は記憶手段の装着箇所が視認できる角度を有するように付されているため、例えば、不正行為によって記憶手段が交換された場合でも、記憶手段と収納部に付された識別表示が同じであるか否かを判断することで、検査者は、容易に不正行為が行われたことを確認できる。さらに、収納部の第 2 情報識別部には覗き部が設けられているので、検査者は、覗き部を介して、収納部に内包されている複数の電子部品を視認して、これら複数の電子部品に対する不正が行われたか否かを確認することができる。したがって、覗き部のようなものが設けられていないような遊技機に比べて、検査者は、収納部に内包されている複数の電子部品に対して不正が行われたか否かを容易に確認できるため、不正の行われる可能性の低減に繋げることができる。そして、このような第 2 情報識別部においては、複数の有色領域に所定の文字を記載することができるため、光透過性を低下させたような有色領域がなく透明な部分に所定の文字が記載されるようなものに比べて、検査者が文字による情報の内容を確認し易い。またさらに、このような第 2 情報識別部においては、透明な覗き部が複数の有色領域の間に設けられているため、複数の有色領域のみが並べて設けられているようなものに比べて、有色領域が目立つこととなり、有色領域に記載された文字等を検査者が確認し易い。このように、検査者による不正行為の発見が容易であるとともに不正行為の発生を抑制できる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0 2 2 7 】

[発明 1 6]

発明 1 6 の遊技機（遊技機 1）は、遊技を制御するための複数の電子部品が実装された制御基板（制御基板 1 7 0 5）と、当該制御基板を収納し光透過性を有する収納部（基板ケース 1 7 0 0）と、を有する制御手段（組立体 2）と、前記収納部に貼付され、光透過性を有する素材で形成されたシール部（シール部 1 7 1 0）と、を備え、前記シール部は、当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域（印刷部 1 7 1 1、複数の領域 1 5 7 5）と、前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記収納部に収納されている前記制御基板を視認可能な視認可能領域（覗き部 1 5 7 4）と、を有し、前記制御手段は、前記制御基板における前記複数の電子部品のうちの一部の電子部品（電子部品 7 9 8）が前記視認可能領域を介して視認できるように実装されており、当該一部の電子部品とは異なる電子部品のうち少なくとも一つの電子部品（情報表示器 1 7 5 0）が前記視認可能領域を介さずとも視認できるように実装されていることを要旨とする。

10

【 0 2 2 8 】

発明 1 6 のようなシール部 1 7 1 0 と情報表示器 1 7 5 0 とを有する組立体 2 を備える遊技機 1 によれば、例えば、情報表示器 1 7 5 0 等といった一部の電子部品は覗き部 1 5 7 4 を介さずとも視認可能である。したがって、即座且つ容易に視認が必要な一部の電子部品は、視認が容易であるため、不正行為の確認が容易である。また、覗き部 1 5 7 4 を介さずとも視認可能な一部の電子部品は、覗き部 1 5 7 4 を介して視認可能な電子部品に比べて、制御基板 1 7 0 5 上で目立つため、覗き部 1 5 7 4 を介さずとも視認可能な一部の電子部品に対する不正行為を抑止することができる。特に、情報表示器 1 7 5 0 は、遊技機 1 の遊技盤ユニット 1 2 を開放して容易な視認を必要とする部材であるため、上述のような効果を奏することが必要とされる。

20

【 0 2 2 9 】

[発明 1 7]

発明 1 7 の遊技機（遊技機 1）は、遊技を制御するための複数の電子部品が実装された制御基板（制御基板 1 7 0 5）と、当該制御基板を収納し光透過性を有する収納部（基板ケース 1 7 0 0）と、を有する制御手段（組立体 2）と、前記収納部に貼付され、光透過性を有する素材で形成されたシール部（シール部 1 7 1 0）と、前記制御基板に実装され、遊技に係る所定の値情報を表示する所定の情報表示部（情報表示器 1 7 5 0）と、を備え、前記シール部は、当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域（印刷部 1 7 1 1、複数の領域 1 5 7 5）と、前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記収納部に収納されている前記制御基板を視認可能な視認可能領域（覗き部 1 5 7 4）と、を有し、前記制御手段は、前記制御基板における前記複数の電子部品のうちの一部の電子部品（電子部品 7 9 8）が前記視認可能領域を介して視認できるように実装されており、前記所定の情報表示部が前記視認可能領域を介さずとも視認できるように実装されていることを要旨とする。

30

【 0 2 3 0 】

発明 1 7 のようなシール部 1 7 1 0 と情報表示器 1 7 5 0 とを有する組立体 2 を備える遊技機 1 によれば、例えば、情報表示器 1 7 5 0 等といった一部の電子部品は覗き部 1 5 7 4 を介さずとも視認可能である。したがって、即座且つ容易に視認が必要な一部の電子部品は、視認が容易であるため、不正行為の確認が容易である。また、覗き部 1 5 7 4 を介さずとも視認可能な一部の電子部品は、覗き部 1 5 7 4 を介して視認可能な電子部品に比べて、制御基板 1 7 0 5 上で目立つため、覗き部 1 5 7 4 を介さずとも視認可能な一部の電子部品に対する不正行為を抑止することができる。特に、情報表示器 1 7 5 0 は、遊技機 1 の遊技盤ユニット 1 2 を開放して容易な視認を必要とする部材であるため、上述のような効果を奏することが必要とされる。

40

【 0 2 3 1 】

50

[発明 18]

発明 18 の遊技機 (1) は、遊技を制御する基板 (501) と、
前記基板を内包する、光透過性を有するケース部 (1803) と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段 (502) と、
前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品 (595) と、
を有する制御手段と、
前記制御手段のうち異なる所定箇所に設けられた第 1 表示 (1371) 及び第 2 表示 (1372) と、
前記制御手段に設けられ、光透過性を有する素材で形成されたシール部 (1560) と、
前記シール部に印刷され、前記シール部における光透過性を低下させた領域である複数の
10 有色領域 (1575) と、を備え、
前記第 1 表示と前記第 2 表示とは、
前記基板の前記記憶手段が搭載される側の面から前記第 1 , 2 表示が表示されるまでの距離
がそれぞれ異なっており、
前記シール部は、
前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域と
の間で所定の文字が付されていない部分であって、前記ケース部に内包されている前記電子
部品を覗くことが可能な覗き部 (1574) を有することを要旨とする。

【 0232 】

この場合、制御手段の所定箇所に第 1 表示及び第 2 表示を設け、基盤の記憶手段搭載面
20 から第 1 , 2 表示が表示されるまでの距離がそれぞれ異なっているため、制御手段の偽造
が困難となり、制御手段ごと不正な基盤と入れ替えるという不正行為の発生を抑制できる。
よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【 0233 】

制御手段には、基板、ケース部、記憶手段、電子部品が含まれる。したがって、例えば
、第 1 表示が基板、第 2 表示がケース部に設けられるという場合もある。

【 0234 】

[発明 19]

発明 19 の遊技機 (1) は、遊技を制御する基板 (501) と、
前記基板を内包する、光透過性を有するケース部 (1803) と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段 (502) と、
前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品 (595) と、
を有する制御手段と、
前記制御手段に設けられ、光透過性を有する素材で形成されたシール部 (1560) と、
前記シール部に印刷され、前記シール部における光透過性を低下させた領域である複数の
30 有色領域 (1575) と、を備え、
前記記憶手段に設けられた識別表示 (1562) と関連する第 1 , 2 表示 (1371 ,
1372) を前記制御手段のうち異なる所定箇所に表示すると共に、前記基板の前記記憶
手段が搭載される側の面から前記第 1 , 2 表示が表示されるまでの距離がそれぞれ異なっ
ており、
40 前記シール部は、
前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域と
の間で所定の文字が付されていない部分であって、前記ケース部に内包されている前記電子
部品を覗くことが可能な覗き部 (1574) を有することを要旨とする。

【 0235 】

[発明 20]

発明 20 の遊技機 (1) は、遊技を制御する基板 (501) と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段 (502) と、
前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品 (595) と、
前記記憶手段及び前記複数の電子部品を視認可能で且つ接触困難に収納する、光透過性
50

の収納部（１８０３）と、
を有する制御手段と、

前記制御手段のうち異なる所定箇所に設けられた第１表示（１３７１）及び第２表示（１３７２）と、

前記収納部に設けられ、特定の情報を表示する第１情報識別部（１５６１，１５９５）
及び第２情報識別部（１５６０，１５７２，１５７３）と、

前記記憶手段に設けられ、特定の情報を表示する第３情報識別部（１５６２，１５９６）と、を備え、

前記第１表示と前記第２表示とは、

前記基板の前記記憶手段が搭載される側の面から前記第１，２表示が表示されるまでの距離がそれぞれ異なっており、

前記第１情報識別部及び前記第３情報識別部は、

少なくとも同じ内容を意味する識別表示を含んで表示され、

前記第２情報識別部は、

光透過性を有する素材で形成されており、当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域（１５７５）と、

前記複数の有色領域のうちの第１有色領域と前記第１有色領域とは異なる第２有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記収納部に収納されている前記電子部品を覗くことが可能な覗き部（１５７４）と、

を有することを要旨とする。

【０２３６】

[発明２１]

発明２１の遊技機（１）は、遊技を制御する基板（５０１）と、

前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段（５０２）と、

前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品（５９５）と、

前記記憶手段及び前記複数の電子部品を視認可能で且つ接触困難に収納する、光透過性を有する収納部（１８０３）と、

を有する制御手段と、

前記収納部に設けられ、特定の情報を表示する第１情報識別部（１５６１，１５９５）
及び第２情報識別部（１５６０，１５７２，１５７３）と、

前記記憶手段に設けられ、特定の情報を表示する第３情報識別部（１５６２，１５９６）と、を備え、

前記第１情報識別部及び前記第３情報識別部は、

少なくとも同じ内容を意味する識別表示を含んで表示され、

前記第３情報識別部と関連する第１，２表示（１３７１，１３７２）を前記制御手段のうち異なる所定箇所に表示すると共に、前記基板の前記記憶手段が搭載される側の面から前記第１，２表示が表示されるまでの距離がそれぞれ異なり、

前記第２情報識別部は、

光透過性を有する素材で形成されており、当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域（１５７５）と、

前記複数の有色領域のうちの第１有色領域と前記第１有色領域とは異なる第２有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記収納部に収納されている前記電子部品を覗くことが可能な覗き部（１５７４）と、

を有することを要旨とする。

【０２３７】

[発明２２]

発明２２の遊技機（１）は、遊技を制御する基板（５０１）と、

前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する記憶手段（５０２）と、

前記基板に設けられ、前記記憶手段とは異なる複数の電子部品（５９５）と、

前記記憶手段及び前記複数の電子部品を視認可能で且つ接触困難に収納する、光透過性

10

20

30

40

50

を有する収納部（１８０３）と、

前記収納部に設けられ、特定の情報を表示する第１情報識別部（１５６１，１５９５）及び第２情報識別部（１５６０，１５７２，１５７３）と、

前記記憶手段に設けられ、特定の情報を表示する第３情報識別部（１５６２，１５９６）と、を備え、

前記第１情報識別部及び前記第３情報識別部は、少なくとも同じ内容を意味する識別表示を含んで表示され、

前記第２情報識別部は、前記記憶手段の装着箇所が視認できる角度を有するように表示され、

前記第２情報識別部は、光透過性を有する素材で形成されており、当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域（１５７５）と、前記複数の有色領域のうちの第１有色領域と前記第１有色領域とは異なる第２有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記収納部に収納されている前記電子部品を覗くことが可能な覗き部（１５７４）と、を有することを要旨とする。

【０２３８】

この場合、記憶手段の装着箇所が確実に視認可能となるため、制御基板に対する不正を抑止することができる。よって、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【０２３９】

[発明 ２ ３]

発明 ２ ３ の遊技機（１）は、遊技を制御する基板（５０１）と、前記基板を内包する、光透過性を有する第１ケース部（１８０３）と、前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する第１記憶手段（５０２）と、前記基板に設けられ、前記第１記憶手段とは異なる複数の電子部品（５９５）と、前記第１ケース部に設けられ、光透過性を有する素材で形成された第１シール部（１５６０）と、

前記第１シール部に印刷され、前記第１シール部における光透過性を低下させた領域である複数の第１有色領域（１５７５）と、

前記基板と双方向通信可能な賞球基板（１８１１）と、前記賞球基板を内包する、光透過性を有する第２ケース部（１８１３）と、前記賞球基板に設けられ、賞球に使用されるデータを格納する第２記憶手段（１８１２）と、

前記賞球基板に設けられ、前記第２記憶手段とは異なる複数の電子部品（５９５）と、前記第２ケース部に設けられ、光透過性を有する素材で形成された第２シール部（１８１６）と、

前記第２シール部に印刷され、前記第２シール部における光透過性を低下させた領域である複数の第２有色領域（１８１７）と、を備え、

前記第１シール部は、前記第１有色領域と前記第１有色領域とは異なる第３有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記第１ケース部に内包されている前記電子部品を覗くことが可能な第１覗き部（１５７４）を有し、

前記第２シール部は、前記第２有色領域と前記第２有色領域とは異なる第４有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記第２ケース部に内包されている前記電子部品を覗くことが可能な第２覗き部（１８１９）を有し、

前記第１シール部及び前記第２シール部は、前記電子部品が透視可能な光透過性であると共に、それぞれの光透過性が異なることを要旨とする。

【０２４０】

この場合、制御基板に係る第1シール部と賞球基板に係る第2シール部との光透過性が異なっているため、第1, 2シール部の偽造が困難となり、ケース部ごと不正な基板と入れ替えるという不正行為を困難にすることができる。故に、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【0241】

[発明24]

発明24の遊技機(1)は、遊技を制御する基板(501)と、
前記基板を内包する、光透過性を有する第1ケース部(1803)と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する第1記憶手段(502)と、
前記基板に設けられ、前記第1記憶手段とは異なると共に、前記基板に対してスルーホール実装される複数の電子部品(595)と、
前記基板と一方向通信可能な演出基板(1821)と、
前記演出基板を内包する、光透過性を有する第2ケース部(1823)と、
前記演出基板に設けられ、演出に使用されるデータを格納する第2記憶手段(1822)と、

10

前記演出基板に設けられ、前記第2記憶手段とは異なると共に、前記基板に対して表面実装される複数の電子部品(595)と、を備え、

光透過性を有する素材で形成されたシール部(1560)は、
当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域(1575)と、
前記複数の有色領域のうちの第1有色領域と前記第1有色領域とは異なる第2有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、内包されている前記電子部品を覗くことが可能な覗き部(1574)と、
を有し、前記第2ケース部に取付けられることなく、前記第1ケース部に取付けられたことを要旨とする。

20

【0242】

この場合、制御基板の第1ケース部と演出基板の第2ケース部とでシール部の扱いが異なっているため、第1, 2ケース部とシール部の偽造が困難となり、ケース部ごと不正な基板と入れ替えるという不正行為を困難にすることができる。故に、遊技者が安心して遊技することができ、遊技者の興趣が向上する。

【0243】

30

[発明25]

発明25の遊技機(1)は、遊技を制御する基板(501)と、
前記基板を内包する、光透過性を有する第1ケース部(1803)と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する第1記憶手段(502)と、
前記基板に設けられ、前記第1記憶手段とは異なる複数の電子部品(595)と、
を有する制御手段と、
前記基板と双方向通信可能な賞球基板(1811)と、
前記賞球基板を内包する、光透過性を有する第2ケース部(1813)と、
前記賞球基板に設けられ、賞球に使用されるデータを格納する第2記憶手段(1812)と、

40

前記賞球基板に設けられ、前記第2記憶手段とは異なる複数の電子部品(595)と、
を有する賞球手段と、
前記制御手段のうち異なる所定箇所に設けられた第1表示(1371)及び第2表示(1372)と、

前記第1ケース部に設けられ、光透過性を有する素材で形成された第1シール部(1560)と、

前記第1シール部に印刷され、前記第1シール部における光透過性を低下させた領域である複数の第1有色領域(1575)と、

前記第2ケース部に設けられ、光透過性を有する素材で形成された第2シール部(1816)と、

50

前記第 2 シール部に印刷され、前記第 2 シール部における光透過性を低下させた領域である複数の第 2 有色領域 (1 8 1 7) と、を備え、

前記第 1 表示と前記第 2 表示とは、
前記基板の前記第 1 記憶手段が搭載される側の面から前記第 1 , 2 表示が表示されるまでの距離がそれぞれ異なり、

前記第 1 シール部は、
前記第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 3 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記第 1 ケース部に内包されている前記電子部品を覗くことが可能な第 1 覗き部 (1 5 7 4) を有し、

前記第 2 のシール部は、
前記第 2 有色領域と前記第 2 有色領域とは異なる第 4 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記第 2 ケース部に内包されている前記電子部品を覗くことが可能な第 2 覗き部 (1 8 1 9) を有し、

前記第 1 シール部及び前記第 2 シール部は、
前記電子部品が透視可能な光透過性であると共に、それぞれの光透過性が異なることを要旨とする。

【 0 2 4 4 】

[発明 2 6]

発明 2 6 の遊技機 (1) は、遊技を制御する基板 (5 0 1) と、
前記基板を内包する、光透過性を有する第 1 ケース部 (1 8 0 3) と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する第 1 記憶手段 (5 0 2) と、
前記基板に設けられ、前記第 1 記憶手段とは異なる複数の電子部品 (5 9 5) と、
を有する制御手段と、

前記基板と双方向通信可能な賞球基板 (1 8 1 1) と、
前記賞球基板を内包する、光透過性を有する第 2 ケース部 (1 8 1 3) と、
前記賞球基板に設けられ、賞球に使用されるデータを格納する第 2 記憶手段 (1 8 1 2) と、
前記賞球基板に設けられ、前記第 2 記憶手段とは異なる複数の電子部品 (5 9 5) と、
を有する賞球手段と、

前記第 1 ケース部に設けられ、光透過性を有する素材で形成された第 1 シール部 (1 5 6 0) と、

前記第 1 シール部に印刷され、前記第 1 シール部における光透過性を低下させた領域である複数の第 1 有色領域 (1 5 7 5) と、

前記第 2 ケース部に設けられ、光透過性を有する素材で形成された第 2 シール部 (1 8 1 6) と、

前記第 2 シール部に印刷され、前記第 2 シール部における光透過性を低下させた領域である複数の第 2 有色領域 (1 8 1 7) と、を備え、

前記第 1 記憶手段に設けられた識別表示 (1 5 6 2) と関連する第 1 , 2 表示 (1 3 7 1 , 1 3 7 2) を前記制御手段のうち異なる所定箇所に表示すると共に、前記基板の前記記憶手段が搭載される側の面から前記第 1 , 2 表示が表示されるまでの距離がそれぞれ異なり、

前記第 1 シール部は、
前記第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 3 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記第 1 ケース部に内包されている前記電子部品を覗くことが可能な第 1 覗き部 (1 5 7 4) を有し、

前記第 2 のシール部は、
前記第 2 有色領域と前記第 2 有色領域とは異なる第 4 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、前記第 2 ケース部に内包されている前記電子部品を覗くことが可能な第 2 覗き部 (1 8 1 9) を有し、

前記第 1 シール部及び前記第 2 シール部は、

10

20

30

40

50

前記電子部品が透視可能な光透過性であると共に、それぞれの光透過性が異なることを要旨とする。

【 0 2 4 5 】

[発明 2 7]

発明 2 7 の遊技機 (1) は、遊技を制御する基板 (5 0 1) と、
前記基板を内包する、光透過性を有する第 1 ケース部 (1 8 0 3) と、
前記基板に設けられ、遊技に使用されるデータを格納する第 1 記憶手段 (5 0 2) と、
前記基板に設けられ、前記第 1 記憶手段とは異なると共に、前記基板に対してスルーホール実装される複数の電子部品 (5 9 5) と、
を有する制御手段と、

10

前記基板と一方向通信可能な演出基板 (1 8 2 1) と、
前記演出基板を内包する、光透過性を有する第 2 ケース部 (1 8 2 3) と、
前記演出基板に設けられ、演出に使用されるデータを格納する第 2 記憶手段 (1 8 2 2) と、
前記演出基板に設けられ、前記第 2 記憶手段とは異なると共に、前記演出基板に対して表面実装される複数の電子部品 (5 9 5) と、
を有する演出手段と、

前記制御手段のうち異なる所定箇所に設けられた第 1 表示 (1 3 7 1) 及び第 2 表示 (1 3 7 2) と、を備え、

前記第 1 表示と前記第 2 表示とは、
前記基板の前記第 1 記憶手段が搭載される側の面から前記第 1 , 2 表示が表示されるまでの距離がそれぞれ異なっており、

20

光透過性を有する素材で形成されたシール部 (1 5 6 0) は、
当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域 (1 5 7 5) と、
前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、内包されている前記電子部品を覗くことが可能な覗き部 (1 5 7 4) と、
を有し、前記第 2 ケース部に取付けられることなく、前記第 1 ケース部に取付けられたことを要旨とする。

【 0 2 4 6 】

30

[発明 2 8]

発明 2 8 の遊技機 (1) は、遊技を制御する基板 (5 0 1) と、
前記基板を内包する、光透過性を有する第 1 ケース部 (1 8 0 3) と、
前記基板に設けられ、遊技に使用される記憶を格納する第 1 記憶手段 (5 0 2) と、
前記基板に設けられ、前記第 1 記憶手段とは異なると共に、前記基板に対してスルーホール実装される複数の電子部品 (5 9 5) と、
を有する制御手段と、

前記基板と一方向通信可能な演出基板 (1 8 2 1) と、
前記演出基板を内包する、光透過性を有する第 2 ケース部 (1 8 2 3) と、
前記演出基板に設けられ、演出に使用される記憶を格納する第 2 記憶手段 (1 8 2 2) と、

40

前記演出基板に設けられ、前記第 2 記憶手段とは異なると共に、前記基板に対して表面実装される複数の電子部品 (5 9 5) と、
を有する演出手段と、を備え、

前記第 1 記憶手段に設けられた識別表示 (1 5 6 2) と関連する第 1 , 2 表示 (1 3 7 1 , 1 3 7 2) を前記制御手段のうち異なる所定箇所に表示すると共に、前記基板の前記第 1 記憶手段が搭載される側の面から前記第 1 , 2 表示が表示されるまでの距離がそれぞれ異なり、

光透過性を有する素材で形成されたシール部 (1 5 6 0) は、
当該光透過性を低下させた領域である複数の有色領域 (1 5 7 5) と、

50

前記複数の有色領域のうちの第 1 有色領域と前記第 1 有色領域とは異なる第 2 有色領域との間で所定の文字が付されていない部分であって、内包されている前記電子部品を覗くことが可能な覗き部（1574）と、
を有し、前記第 2 ケース部に取り付けられることなく、前記第 1 ケース部に取り付けられたことを要旨とする。

【0247】

以上、実施形態、変形例に基づき本発明について説明してきたが、上記した発明の実施の形態は、本発明の理解を容易にするためのものであり、本発明を限定するものではない。本発明は、その趣旨並びに特許請求の範囲を逸脱することなく、変更、改良され得ると共に、本発明にはその等価物が含まれる。

10

【符号の説明】

【0248】

1...遊技機、501...制御基板（基板）、502...ROM（第 1 記憶手段）、595...電子部品、1371...文字（第 1 表示）、1372...文字（第 2 表示）、1560...シール部、1574...覗き部、1575...有色領域、1803...ケース部（第 1 ケース部）、1821...演出基板、1822...ROM（第 2 記憶手段）、1823...ケース部（第 2 ケース部）

20

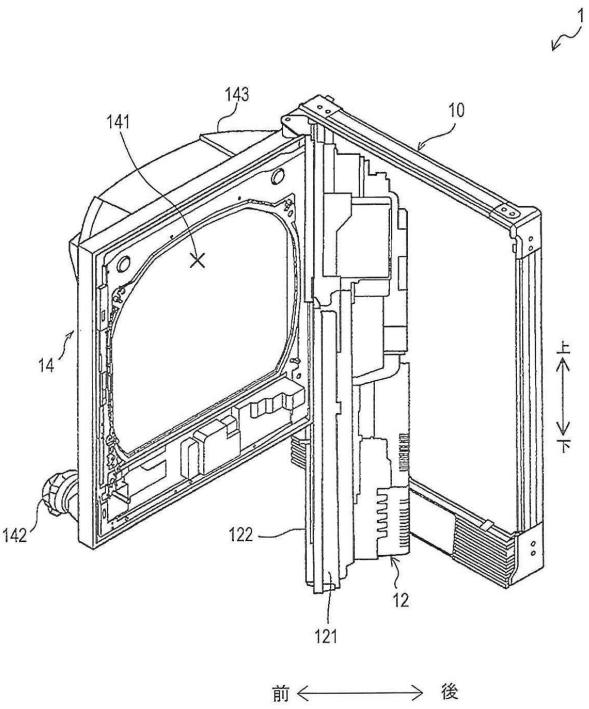
30

40

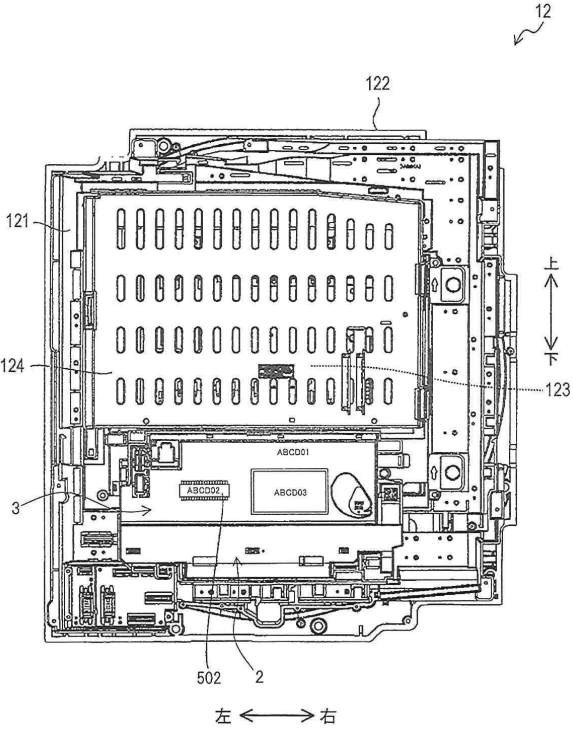
50

【図面】

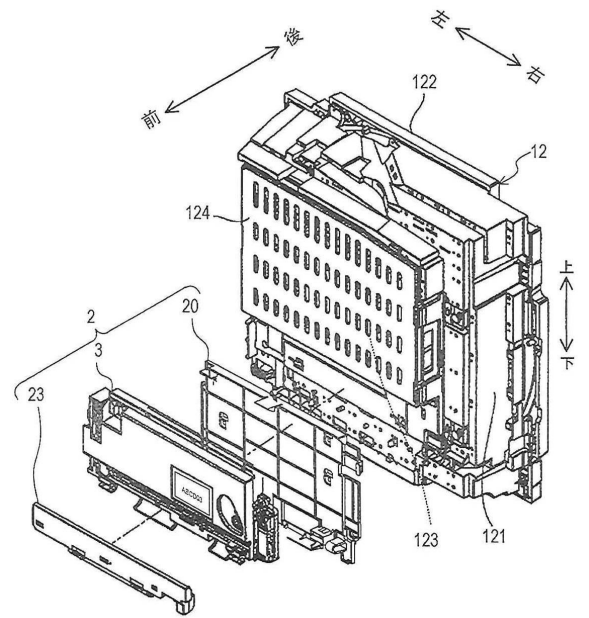
【図 1】



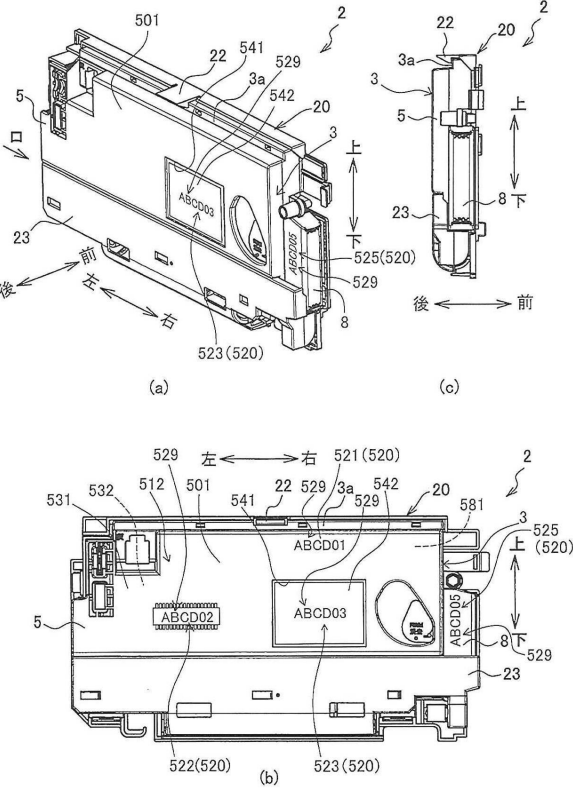
【図 2】



【図 3】



【図 4】



10

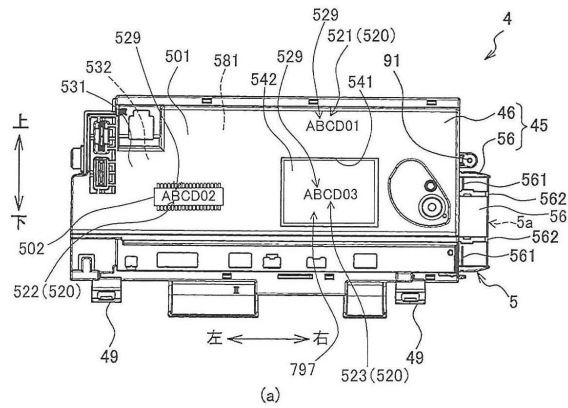
20

30

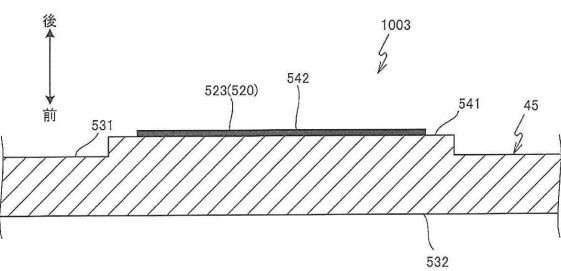
40

50

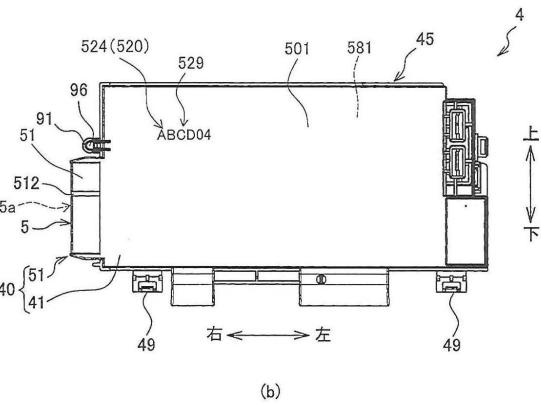
【図 9】



【図 10】

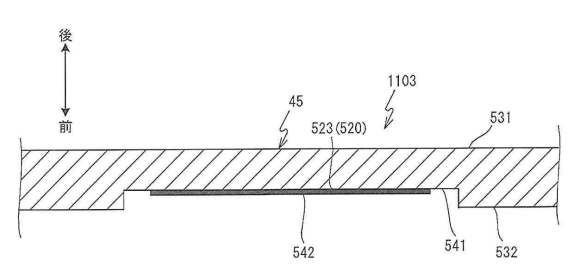


10

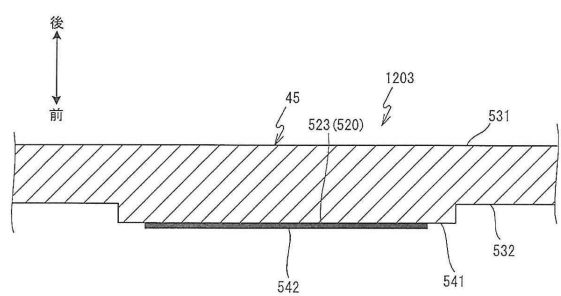


20

【図 11】



【図 12】

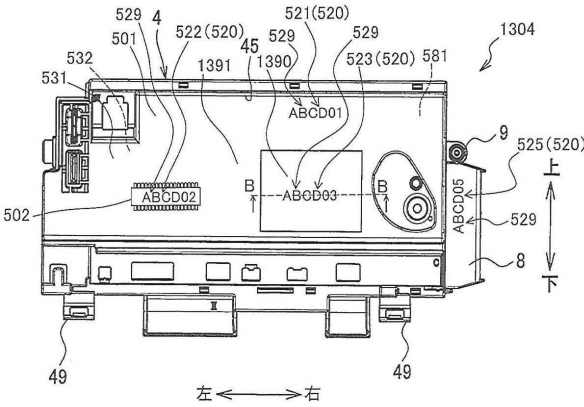


30

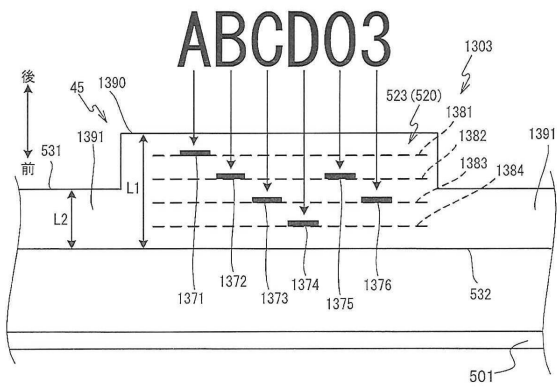
40

50

【図 1 3】

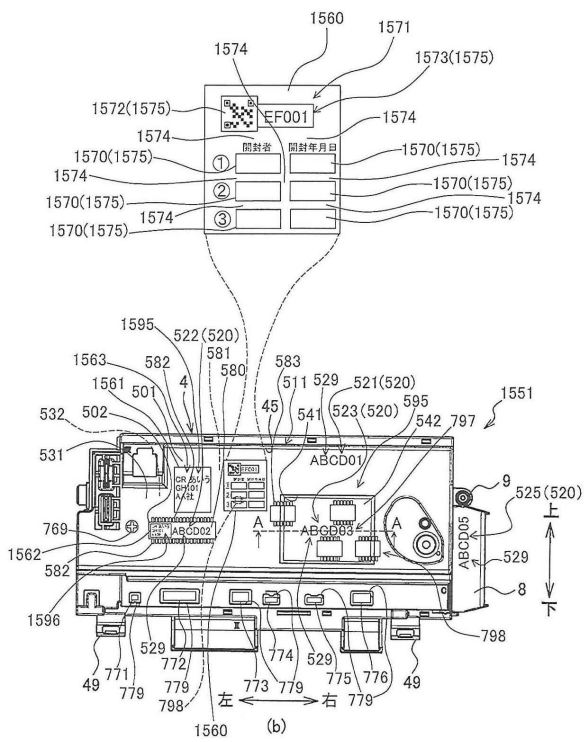


【図 1 4】

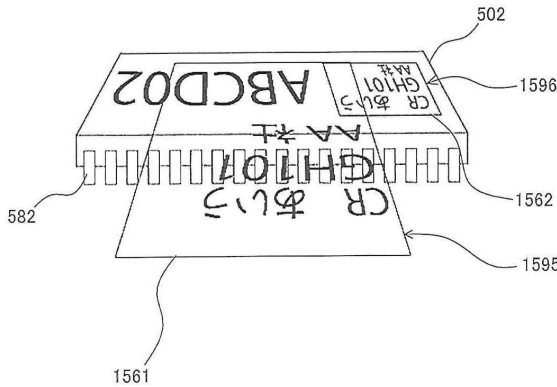


10

【図 1 5】



【図 1 6】



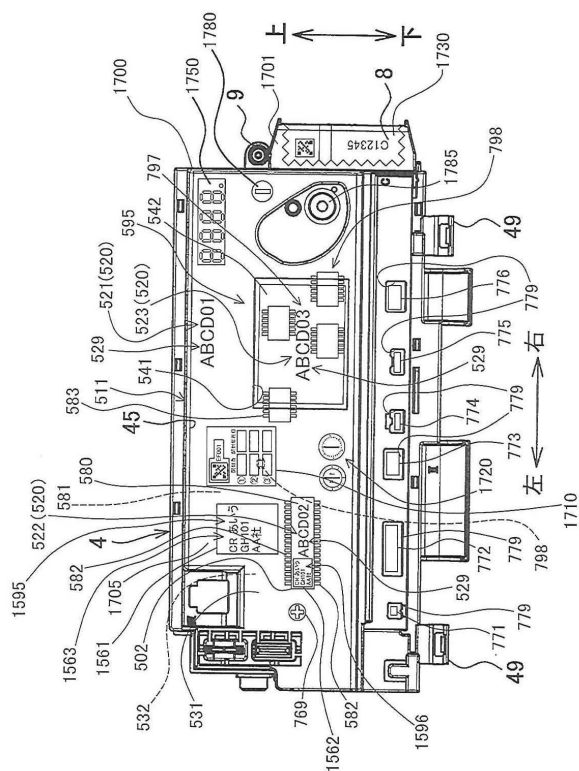
20

30

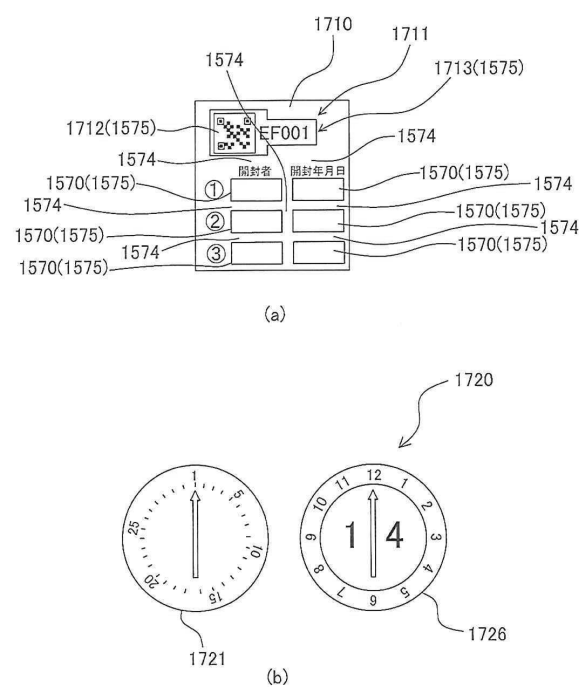
40

50

【 図 1 7 - 1 】



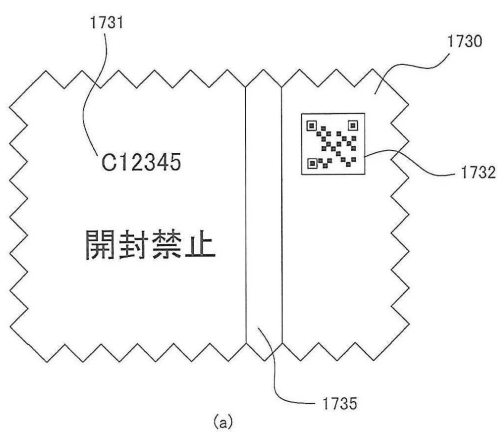
【圖 17 - 2】



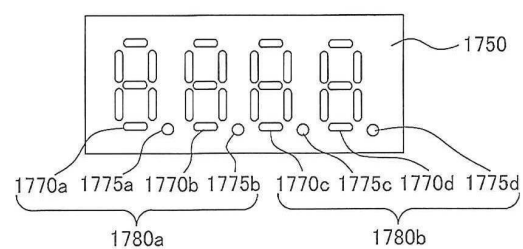
10

20

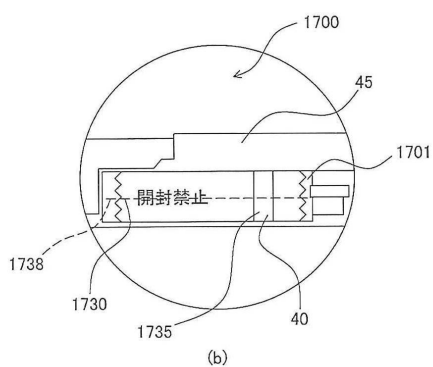
【 図 1 7 - 3 】



【圖 17 - 4】

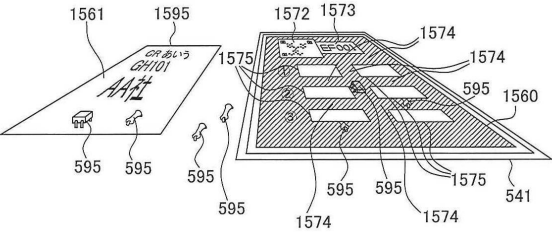


30

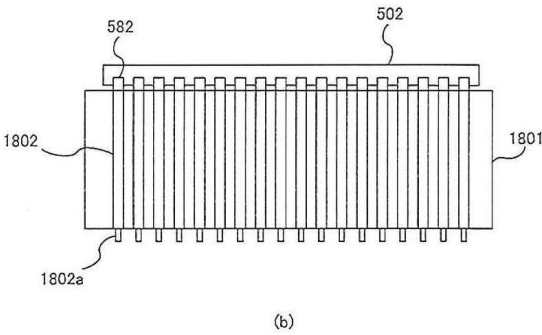
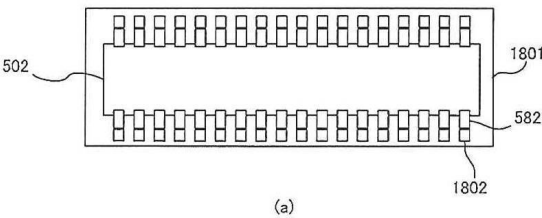


40

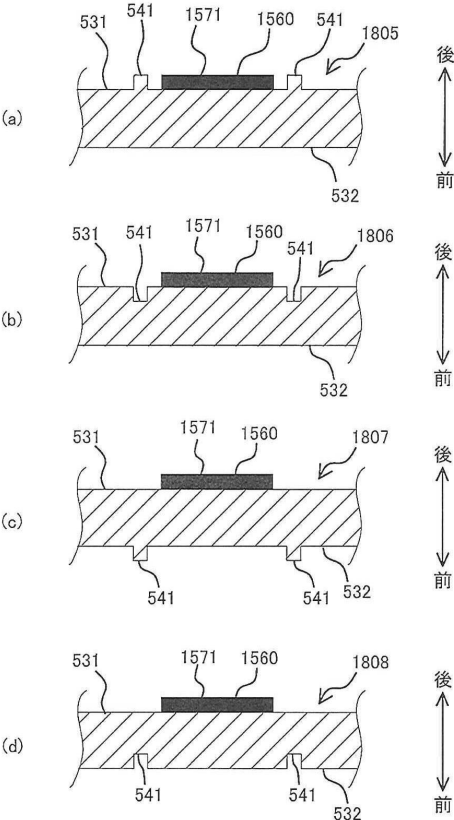
【図 18 - 2】



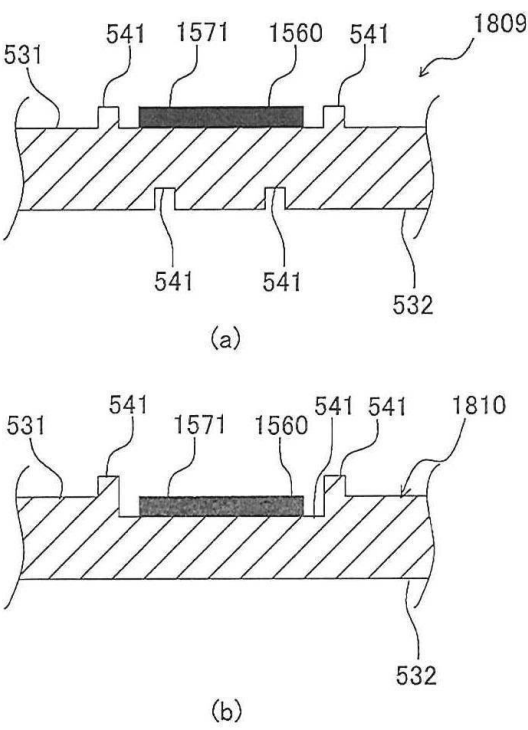
【図 18 - 3】



【図 18 - 4】



【図 18 - 5】



10

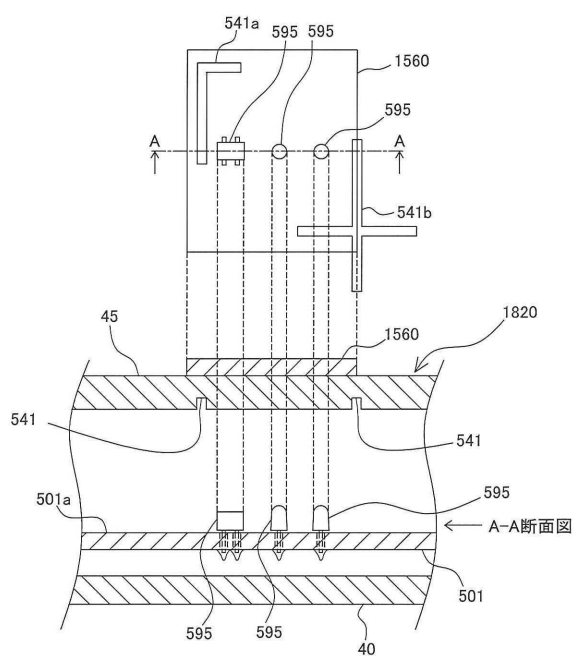
20

30

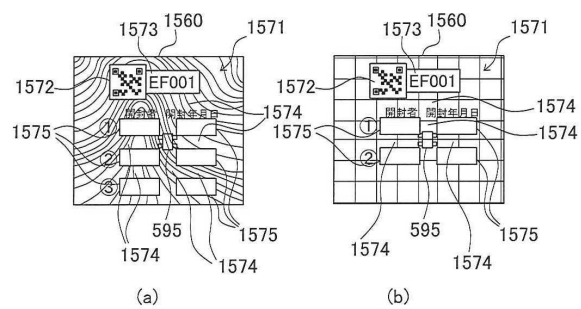
40

50

【 図 1 8 - 6 】

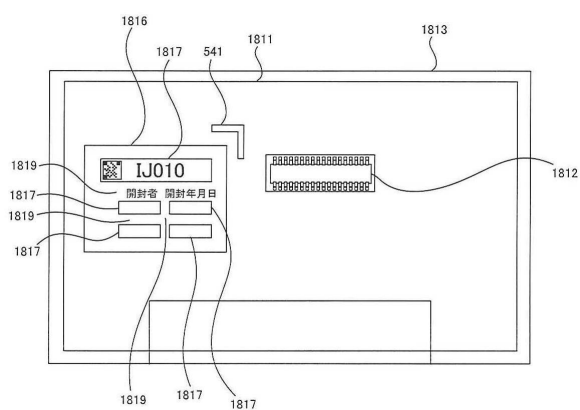


【 図 1 8 - 7 】

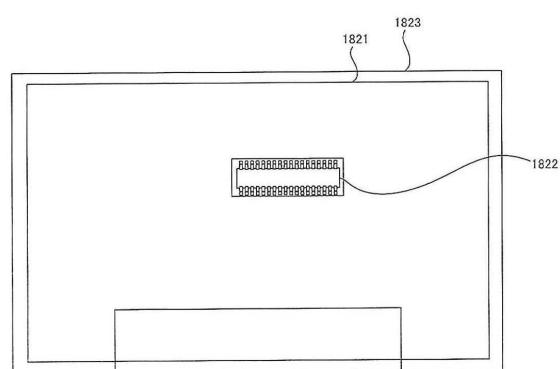


10

【 図 1 8 - 8 】



【 図 1 8 - 9 】



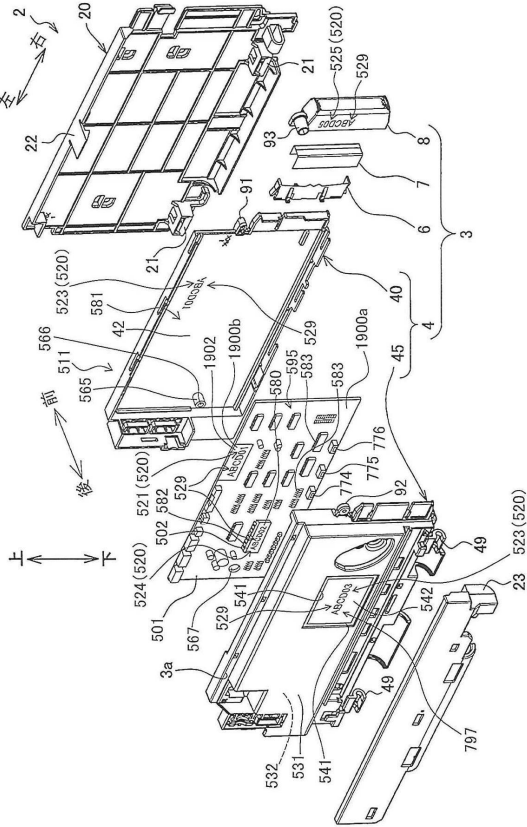
20

30

40

50

【図 19】



10

20

30

40

50

フロントページの続き

愛知県名古屋市中区錦三丁目24番4号 京楽産業．株式会社内

審査官 橘 皇徳

(56)参考文献 特開2000-296250(JP,A)

特開2018-000324(JP,A)

特開2018-114146(JP,A)

(58)調査した分野 (Int.Cl., DB名)

A63F 7/02